第六章 青木外務大臣時代

第一節 對英交涉其他

三五〇 明治三二年十二月二四日 青木子慶書

條約改正全權委員奉受ニ關スル覺書

十二年十二月二十四日ニ在リ此日 職 近ヲ承ケテ外務大臣ノ職ニ任セラレタルハ實ニ明治二 は 以下青木子ノ「條約改正記事」ノ記述ナリ

議決定案ノ要點ハ左ノ如シラレ且直チニ條約改正全横委員ヲ勅命セラレタリ而シテ廟ル所ノ趣旨ヲ服膺シテ改正事業ニ從事スヘキ旨欽訓アラセシタル廟議決定案ヲ以テ周藏ニ下付遊サレ其案中ニ指定ス天皇陛下ハ辱クヒ親ラ條約改正ニ關スル將來ノ方針ヲ規定

- 一.外國出身ノ法律家ヲ大審院ノ法官ニ任用セサル事
- 一 法典ヲ早ニ及テ編成公布スルコトヲ約束セサル事
- 三 不動産ノ所有權へ領事裁判ヲ撤去セサル間ハ其抵償

物トシテ之ヲ外國人ニ許與セサル事

ハ特殊ノ制限ヲ設クル事 外國人取扱上ニ付經濟上又ハ法律上或ル場合ニ於テ

ノ裁酌スル所ニ任スヘシ全権ヲ實際ニ便宜運用スル改正事務ヲ委任サレタル其人生産ニヨク大體ノ廟議一決シタル上ハ其範圍內ニ於テ

とされています。ままでは、これでは、これでは、これでは、質権が能ハサルノ感アリント雖モ畏クモン難キノ情勢アリタルヲ以テ周藏ノ不敏ナル當時此大任ヲ

(下略) (下略)

26, December 1889

Monsieur le Ministre,

May I ask Your Excellency if it will be Convenient to receive me at any hour either to-morrow or the next day. The matter upon which I wish to confer with you relates to the negotiations for a revision of the Treaty between Great Britain and Japan which were interrupted by the accident to Your Excellency's predecessor.

I take this opportunity to renew to Your Excellency the assurance of my highest consideration.

Hugh Fraser

H. B. M's Minister in Japan

His Excellency

Viscount Aoki Shiuzo &c. &c. &c.

三五二 明治三二年二月二六日 英國公使宛

面會時日問合二付回答ノ件

送第四一號

No. 48

面會時日問合ノ件

五

明治二二年二月二六日

青木外務大臣宛英國公使ョリ

H. B. M. Legation Tokio,

青木外務大臣時代 對英交涉 三五一、三五二

大不列顛國

特命全權公使 ٤ ュ フ v ゾル閣下

外務大臣子 靑 木

談可致候此段御回答得貴意候 承候就テハ明日午後二時ニ外務省へ御來訪相成候ハト 我兩國間ノ條約談判ノ儀ニ關シ協議ノ爲メ御面談相成度キ 貴本日附書翰接到致候陳へ先大臣遭難ノ爲メ中止シ ニ付明日若クニ明後日中何時都合宜敷キャ御問合之趣致了 タル貴

三五三 明治三三年二月三九 E 青 寒 國 公 使 大豆り

新提案ニ依ル談判関始方ノ件

(私信譯文)

前金曜日外務省二於テ御談判致候旨趣ハ公然ノモノニシ 御通知不致候テハ甚タ不本意ニ存候ニ付其趣此ニ開陳致候 謹哲陳者昨日親切ニ御來訪被下候儀ニ關シテハ左ノ事實ヲ 侯二報道致置候事二有之候自今ノ如キ時機二際シテハ荷 且ツ非常ニ緊要ナル事件ナレ ハ最早電信ヲ以テソースベリ テ

> 用ユル 被下間敷ト信用致候 務ト思考候トモ閣下ニ於テハ決シテ之ヲ惡シクハ御聞取 位置及目的上ニ關シテ最モ素朴且直接ニ説言スル 拙者ノ位地ニ當ル者ハ判然タル行爲ヲ取リ明瞭ナル言語 コト ヲ惠務ト可致儀ト存候去レハコソ拙者ハ拙者! コ ト · ヲ 適 ヺ

サント要求セラル、二於テハ拙者ノ職權內ノ問題ニハ無之 意ニ御議與相成候簡條(現行條約ヲ云)ヲ交換ナシニ取戾 下ニ於テモ御希望不相成儀ト存候況シテ日本政府カ曾テ隨 新基礎ニ就テ談判ヲ開クヘシトノ提議ニ協質致スコト 拙者ノ權力若クハ拙者ノ受帶シ居ル訓令ノ區域外ニ出ツル 條約問題ヲ結了スルコトニ付何樣ニモ盡力致ス儀ニ候但 且又實際ニ行と得へキ儀ナラハ拙者ノ權内ニ在ル限リハ此 タル新案ト雖トモ之ヲ審議スルコト 條約改正ノ儀ニ關シテハ閣下ヨリ拙者ニ御打合セノ件 ハ實ニ希望スル所 · ハ 閣 二候 六 シ

千八百八十九年十二月二十九日

フ #

木子 閣 下

三五 四 明治三三年一月宝 Ы 青木外務 大臣宛

新提案ニ付問合セノ 件

(私信譯文)

12 ノ一人ヲ加フルモ閣下ニ於テ別ニ御珍ヲシキコトモ無之事 間下ハ充分御多忙ナルヘキニ付若シ拙者カ參上致シ訪問者 謹啓陳者本日へ閣下カ外務省二於ケル延見日ナリ然レト コトヲ許サレヨ 信用致候閣下ハ拙者カ此ニ書面ヲ以テ二個ノ 問題ヲ揭ク 七

何ノ時拙者ハ條約改正 == 酮 シ 新提案ニ接スル = ጉ ラ得 ^ キ

ト同様ノ 該提案カ河瀬子爵二發送セラル、便下同時二右二關シ拙者 へ何分ノ報告ヲ致度ニ付ソースベリ侯ニ提出セラル、書式 モノヲ 前以テ拜觀ス ル ヺ 閣 下 八拙者ニ 許 サ え ヘキ

右ス事件ニ就テ 敬具 決シテ突然タル 仕方っ 出ツ可 Ì ラ サ N

八百九十年 月十五日

フ i -1j* 1

丰

コト

ヲ御信用ア

zν

ヘシト存候

青木外務大臣時代

對英交涉

三五四、三五五

靑 閣 下

付訂正セリ 青木外務大臣ノ「條約改正記事」ニハ「千八百九十 附トアルモ明カニ誤記ト認メラル

三五五五 明治三三年一月(英國公使 3

新提案ニ關スル回報ノ件

(私信譯文)

ノ討議ヲ 謹啓陳者閣下御推察ノ通リ拙者ハ非常ニ多忙ニア 領セサルヘカラス故ニ此等ノ手續ハ幾分ノ時日ヲ費スヘシ 拙者ノ仕事へ殆ント調成致候而シテ本問題へ先ツ充分內閣 確カニ其何ノ日ナルヤヲ指定スル能ハス尤モ本問題ニ關シ ナル修正案ヲ提出スルコトヲ得ヘシ殘念ナカラ今日ニ於テ 拙者ハ遠カラス新條約改正案否ナ寧ロ現三議案ニ關シ テ直チニ閣下ノ御問題ニ返答致衆候事ニ有之候 雖トモ拙者八實二閣下二於テモ其結果ハ却テ滿足ナ 經タル後其決定案ヲ 皇帝陛下ニ上奏シ 叡旨ヲ 2 . 要用 ル ヲ以

下ノ一覧に供スヘク候 敬具前ニ於テ該覺書ヲハ英政府ニ差出スト同様ノ書式ニ於テ閣がニ於テ該覺書ヲハ英政府ニ差出スト同様ノ書式ニ於テ閣組者へ閣下ト同様ニ本件ニ鷴シチハ何等突然タル仕方ハ總

|| 五六 明治 || 三年 | 月十日 徳川駐伊公復宛(往電) | 青木外務大臣ョリ

草寨修正ニ關スル件

From Aoki to Kawase (London) and Tokugawa (Rome).

Japanese Government find it necessary to introduce following amendments into treaty-revision proposals. First, withrawal of Diplomatic Notes.

Second, rights of foreigners to own real-estate outside foreign settlements only to accrue upon final abolition of Consular Jurisdiction, but from date treaty takes effect right to rent real estate to be accorded.

Third, reciprocal reservation as to right of aliens

to be placed on national footing more especially in matters relating to ownership of personal property such for instance as shares in Steamship Companies, Government and National banks &c.

Okuma pressed this point upon attention of Trench knowledge that in presenting his proposals Count apprebation of Diet. You can also say from your Government to conclude only such treaties as will receive will then be indispensable it is essential for Japanese of Diet in enacting enabling laws in aid of treaties tion until after meeting of Diet and that as new treaties cannot now be put into operasity for amendment arises in part at least from fact verbally add that as your personal opinion that necesjudgment concerning Therefore request British Government to withhold Government. ing these amendments and he has telegraphed British Government can fully explain situation. You might British Minister why amendments are necessary and I have verbally informed British Minister concernconfident explanation I shall as soon as possible explain to amendments until will prove as cooperation satisfactory. Japanese

as sufficient reason for hurrying on negotiations.

Send copy of this telegram also to Saionji for his personal information.

Tokio (via Petersburg), Jan. 10. 1890. **駐** イタリツクハ對英交渉ニ當リ河瀬公使ノ緯線シタルト

二五七 明治二三年一月大日 清木外務大臣宛

大隈家修正方英政府ニ申入ノ件

スペシト の正案提出ノ理由陳明ヲ待ツコトへ英政府ニ於テ之ヲ承認 修正案提出ノ理由陳明ヲ待ツコトへ英政府ニ於テ之ヲ承認 候ハ當時所勞中ニ付サー、トーマス、サンダルソンニ翌々 保約改正ニ關スル別紙寫電信去ル十一日到達ソースバレー 第一號

ルヤ條約改正上至重ノ關係ヲ有ス抑前年ノ東京命議ニテ協(Diplomatic Notes)中ニハ裁判上ノ事項ヲ載有シ其件タ同氏更ニ語ヲ續ケテ云ク自己ノ意見 ヲ以 テ ス レ ハ 公文

昨年中ノ談判ニ英政府へ充分事ノ駿速ヲ圖リ電信ニテへ意味ノ貫徹シ難キ事ヲモ勉メテ電信ニテ往復ヲナセリ數友國味ノ貫徹シ難キ事ヲモ勉メテ電信ニテ往復ヲナセリ數友國味ノ貫徹シ難キ事ヲモ勉メテ電信ニテ往復ヲナセリ數友國時、日本政府ノ新修正説へ殆ト英國政府ニテハ承諾シ得へ日本政府ノ新修正説へ殆ト英國政府ニテハ承諾シ得へ日本政府ノ新修正説へ殆ト英國政府ニテハ承諾シ得へ

緊急ヲ覺エサリシニ付差控置候稍々遲疑スルトコロアリ且ツ當日談話中右點ニ言及スルノ將又別紙電信中朱筆ヲ以テ緯線ヲ引キシ部分ハ本使ニ於テ

右中進候

明治廿三年一月十八日

務大臣子 靑 木 特命全權公使 周 藏 河 瀬 眞

註一前掲電信ナリ

明治三三年二月八日

三五八 閣議決定覺書

誘發セシメタリ帝國政府ハ斯ノ囑望ト豫期トニ據リ且下文 國ヲシテ其一大素志ヲ日ナラスシテ達シ得ヘシト <u>بد</u> 政府ノ豫期ニ對シ滿足ヲ與フルニ至ラサリシモ猶以テ我帝 抄取リクリシコトト又從來帝國國際上ノ關係ヲ規定セルキノ必要ヲ感シ而シテ本件談判カ其初メニ於テ頗ル迅速 **詳説スル諸理由ニ依り宜シク新條約實施ノ時期ヲ一定ス** 提出セル條約改正案ノ各國ヨリ受ケタ ニ大隈伯閣下カ日本帝國ト條約關係ヲ有スル諸外國ニ對 ニ新條約ヲ以テス N カ 如十 ハ後日ニ遠大ノ ル好遇ハ假令帝國 - ノ囑望ヲ

要ニシ 之カ爲ヌ其間帝國政府ニ於テ各條約國ニ對スル信義ヲ完フ 避クルコトヲ得シナルヘシト雖モ若シ此ノ如クスルトキハ 月十一日ヲ以テセス遠ク其以後ノ時日ヲ以テセハ或ハ之ノ 勿論此困難ハ新條約實施ノ期日ヲ定ムルニ千八百九十年二 必要ナル著シキ差別ヲ各條約國民ノ間ニ設サルヲ得サル 以テスヘキ條約上ノ義務アルニ非サル 各國ニ對シ必ス同一時期二於テ舊條約二換フルニ新條約ラ 此ノ如クナルヘシト信シタルコト是ナリ帝國政府ハ素ヨリ ラ翼望シ獨リ帝國政府ノミナラス各條約國ノ翼望亦均 然リト雖モ帝國政府 ク其事ノ實際ニ困難ナルハ帝國政府ノ確信セシ所 シ丙丁國ニ對シテハ現行條約ノ舊態ヲ存セハ隨テ之カ爲メ 一定ノ期日ヲ撰フコトナク甲乙國ニ對シテハ新條約ヲ實行 ハ其何タル ハ新條約ノ締盟ニ由リ諸外國人カ一般ニ得有シ得ヘキ テ新條約實施ノ期日トナスラ最モ適當ナ 皇帝陛下カ帝國憲法ヲ發布シ玉ヒタ テ且實用ニ切ナル理由 ヲ問ハス可成同 カ此ノ 一時期ニ之ヲ享受セシメン 如ク決定シタ N コト フ存スルアリ他ナシ帝國政府 ルー周年期 ヲ考察シ ヲ知ル然レトモ若シ ルハ猶他ニ更 y ŀ 思惟シタ ブ健 チリ 辰 シ 利 **1**. , , IJ ヲ ^ 77

ナル質行ヲ爲スニ必須缺クヘカラサル許多ノ法律ニ付キ今 務ニ參與スヘシ隨テ帝國政府ハ新條約ノ適當ニシテ且完全 本年中ニハ帝國議會初メテ招集セラレ帝國憲法ハ帝國至高 ここ在テ其制定ヲ保證シ得ル如ク將來ニ在テモ均シク之ヲ 法律ト成リ帝國人民自ラ代議士ヲ選擧シテ帝國ノ立法事 難ノ事情必然現出シ來ラントスルモノアリタリ 1 ス ル以上ハ之ニ遭遇ス ル 1 トヲ避ケサ ñ ^ カ ラ ታ ル

以上叙述スル所ノ重要ナル事情へ可成談判ノ速了ヲ促シ目 ロシタル ጉ キニ及テ新條約ヲ實施スル期日ヲ撰定スルニ充分ナル シテ前任外務大臣カ往日ノ談判中外國代表者ニ反覆 コトへ今猶記憶ニ存スヘシ 崩 理

確然保證スルコト能ハサルナリ

了セリ且目下談判ノ進度及ヒ此進度ニ違スル 於テ改正條約ヲ實施セントスルモ到底爲シ得サル ヲ得 シテ ルニ今ヤ帝國政府ハ當時改正事業ノ完了ニ 指定シタル時日ノ充分ナラサリシコトヲ認 サルニ至レリ隨テ今日二及テハ當時指定シタ ノ後迄延ヘサルヘカラサルコトヲ確信 之ヲ考フル 1 + ハ條約實施ノ期限 至ル ス岩シ 、マテ , === 4 今日 = コト N ル 足 期日 う己 ス憲 要 V シ ヲ IJ

> 生シタル 後半期中條約改正ニ關セル人心ノ激昂及ヒ其激動ノ爲メニ 夫少議會八自カラ能ク輿論ヲ反響スヘシ果シテ然レハ昨 法律ノ制定ヲ保證スルコト能ハサルヲ確信スレハナ 非サレハ帝國政府へ新條約ノ實施上必要缺ク可カラサル諸 ンカ帝國政府ヲシテ自ラ背信ノ譏ヲ取ラシムルニ至ル 得セシメタリ ナル修正ヲ加フルコトヲ要スルヤヲ精覈ニ忖度スル ヘカラス何トナレハ則チ提出セル議案ニ修正ヲ加フル 二於テ依然改正其業ヲ斷行セサル 所ノ世論ハ帝國政府ヲシテ現今ノ改正案ニ ル 七 對 IJ モ知 1 コ シ 年 =

箇ノ考案中其一ヲ撰ハサル ヲ爲スヘカラサル 事情已二此ノ如ク且帝國政府ニ於テ顯然タル立法部ノ反對 = 完全ナル 雷施ラ モノト確信スルカ故ニ帝國政府ハ左ノニ **4難キ條約ヲ締結スル** ハヘカラス ハ斷シテ之

條約改正專業ヲ無定限ニ延期スル

條約ノ實施ニ關シ議會ノ協力ヲ 得ル = 足 N ^ 丰

幾分ノ修正案ヲ提出スル事

ル所ナキ 右二箇ノ考案中ニ於テ帝國政府ハ之ヲ選フニ固ヨ ナリ帝國政府 ゝ 此改正事業ノ爲メ許多ノ日子 リ遅 疑ス 貴

帝國ニ於テ一定ノ區域內

ニ限リ現ニ享有

地権ニ對シ

テハ更ニ關係ヲ及ホス

コス

1

所タ ナ ヲ得ント欲スル ij = ナ , 況ンヤ玆ニ ルヘキヲ信スルニ於テオヤ 因り斷然第二ノ考案ヲ採ルヘキハ勢ノ止 兩者決シテ相併行スル 制度ト諸條約國カ其領事裁判ニ關係シテ要求セシ特免 トスル熱望及ヒ此問題ニ關シテハ常ニ公平適當ノ 提出スル所ノ修正ハ必ス關係諸國ノ容ル ノ素望ヲ懐ケル テ是迄進ミタル コト能ハサルノ事實アリ ノミナラス更ニ 功程ヲ徒勞ニ屬セ ムヲ得サル 肝要ナル ・テ存ス **≥** ル所 ハ 局

ヲ完成スル

コトヲ得へ

右第一及ヒ第二ノ修正ハ二箇ノ外交告知書ノ撤回ヲ以

ニ關シ其權利ニ若干ノ制限ヲ設ク

ív

コト

テ之

外國人ヲシテ内國人同様ノ

/位地ヲ得

セ

シ

A

コ

第三ノ修正ハ新條約草案第一條第三項ノ「不動産」及ヒ「不

信スル修正ハ其要領左ノ如シ法ニ適合スルヤ否ノ問題ヲ世論ノ區域外ニ驅逐シ得ヘシトキ立法府ノ各種ノ異說ヲ調和シ又一面ニ於テハ新條約ノ憲

之ヲ删除スルニ於テハ同第二條第二項ノ「隨意タ

クハ」ナル文字ヲ刪除スルヲ以

テ足

ī

ŋ

ス

2

ルヘシ」

- 第一 外國出身ノ裁判官ヲ大審院ニ任用スルコトニ關
- 第二 帝國諸法律ノ調査編成及公布ニ關スル約款ノ撤
- 利ニ關スル約款ノ撤回 一般ニ外國入ヲシテ不動産ヲ所有セシムヘキ權

但此修正

ハ諸締盟國

ノ臣民カ條約ニ據リ

國ノ各方二於テ各般ノ行政及と警察事項ニ 第四ノ修正ハ第二條ノ末尾ニ左ノ條款ヲ加フレハ其意ヲ達 クハ將來制定シ且諸外國人一般ニ適用スヘキ 二基ク所ノ法律、勅令及ヒ特種ノ規定ニシテ現 スルヲ得ヘシ テ然ラハ帝國政府へ之ヲ挿入スルコトニ同意スヘシ ጉ Ŧ ヲ得ヘシ」ナル約款ヲ挿入スルヲ要スルニ至ル ルヲ問ハス土地、家屋及ヒ倉庫ヲ借受ケ之ヲ占「但」ノ間ニ「且適法ノ目的ニ供スル爲メナレ 即チ「但本條及ヒ前條ニ揚ケタル 爲メナレハ其何事 關スル國ノ主權 Ŧ *)* = 約款へ締盟 -實施シ若 ヘク果 [有ス シ N 'n 3

措置スヘキ 第二ノ修正 會ノ協力ヲ 以上ノ修正案ヲ提出シタル所以ノモノハ帝國政府ハ啻 ベルナリ 其效力ヲ及ホサ 止ニ關シテハ大ニ憲法ノ切キ明白ノ義務アルニ依ル、 經へ半事項ニ關シテハ力メテ其期望ヲ豫察シ ル 七 7 ŀ 規定ニ ノミナラス殊ニ 關係ノ事由ア 第一及と 議 ル = テ

第一ノ修正ニ關シテハ帝國ノ憲法ニ基ケル重要ノ官職ニ任第一ノ修正ニ關シテハ帝國ノ憲法ニ共觸スルコトナキモノトスクハ法律ハ設令ヒ憲法ノ明文ニ抵觸スルコトナキモノトスルの法律ハ設令ヒ憲法ノ明文ニ抵觸スルコトナキモノトスルの法律ハ設令ヒ憲法ノ明文ニ抵觸スルコトで表別を終れる。

約款ニ固着スルノ不可ナルヲ信スルナリ
お歌憲法ニ基テ組織シタル政府ノ自由不騙ナル立法權ヲ府ハ假令ヒ之ヲ違憲ニアラスト視傚スモ到底策ノ得タルモ府ハ假令ヒ之ヲ違憲ニアラスト視傚スモ到底策ノ得タルモルスルコトヲ得ス故ニ帝國政府ハ今ノ時ニ及テ斯ノ如キルンテスルコトヲ得ス故ニ帝國政府ハウノ時ニ及テ斯ノ如キをリアラハ帝國政府の第二ノ修正ニ就テハ將來ノ立法權ニ關スル約款ニシテ將又第二ノ修正ニ就テハ將來ノ立法權ニ關スル約款ニシテ

其保護セントスル利益ト須ラク權衡ヲ保タシメサルヘカラ加之帝國政府へ凡ソ司法及ヒ立法ニ闘シテ與フヘキ保證ハ

在ルヘシト思惟シタリ然ルニ今ヤ其發布後ト雖モ仍ホ久シキ間條約ノ實行ハ憲法實施ノ前に方リデヤ未々憲法ノ發布アラサリシノミナラス帝國政府ハサルモノト思量スルナリ衞ニ改正案ヲ諸大國ニ提出スルニサルモノト思量スルナリ衞ニ改正案ヲ諸大國ニ提出スルニ

結セラル カラス 法律ノ 及と範圍へ既二世ノ洽ク知ル所ナリ叉若シ新條約ニシテ締 皇帝陛下ノ聖裁ヲ以テ其臣民ニ惠賜セラレタル恩旨ノ性質 スレハ卽チ此等ノ法律 テ人民ノ權利自由ヲ愼密ニ保護シ又人民ノ代鱶士ヲシテ諸 シテ此等ノ事情及ヒ之ト均シク重大ナル事實即チ憲法アリ サルヘカラストノ事モ亦普ク公衆ノ知悉スル所ト爲 ヲ 保 で證スルニ 制定二參與セシムルノ事實ハ我政府ノ見ル所ヲ以 ルトキハ其實施ハ憲法ノ下ニ屬シ且憲法ニ遵由 足ルヘキ理由ヲ具ヘタ コソ常二內外人民ノ需求二適應スへ ル モ ノト 認 メ レリ サ ル デ 而 -7

條約ヲ 利ヲ完全二享有スル爲メニハ必ス缺クヘカラサ 産ヲ所有スル特權ハ新條約ヲ以テ保證ス 第三ノ修正 ルナ 以 テ リ帝國政府へ此事實アル 規定セショリ寧ロ ハ憲法上ノ問題ニ渉ルモノニ 直接ニ自國ノ法律ノ = 依リ且本件 非ス而 ル 所ノ 主要ナ iv レト ハ國際上ノ 規定二屬 モ . . . モ不動 ル 權

リーロック各國各自任意ノ處分ニ任スヘキモノト信スルナベル性質ノモノタルコトハ一般ニ承認スル所ナルニ依り本

リ何トナレハ帝國ノ政略上若クハ財政上ノ利害ニ直接ノ關リ何トナレハ帝國ノ政略上若クハ財政上ノ利害ニ直接ノ關係アル場合ニ於テ外國人ノ權利ニ關シ一般適宜ノ制限ヲ設にアルヲ対ルコトナケレハナリ是帝國政府ノ確信スル所ニシテ之ヲ諸外國ニ照シテ考察スルモ益々此意見ノ誤ラサルヲ知ルナリ然レトモ帝國政府ハ修正案ノ全體ニ就テ既ニルヲ知ルナリ然レトモ帝國政府ハ修正案ノ全體ニ就テ既ニトヲ熱望スルカ故ニ新條約中特ニ明文ヲ揭ケテ以テ其制限ノ意ヲ明ニセンコトヲ欲スルナリ

同ノ窓切ナル贊助ヲ受ルニ足ルノ價値アルコトヲ深ク冀望ル商定ヲ得ントシテ孜々怠ラサルノ一事ハ以テ此回モ諸外來久シク結了セサル此改正問題ニ關シテ各締盟國ト完全ナ所以ノ事由ヲ忌憚隔意ナク陳述スル所ニシテ帝國政府ハ從以上帝國政府カ今回ノ措置ヲ爲スノ已ムヲ得サルニ至リシ以上帝國政府カ今回ノ措置ヲ爲スノ已ムヲ得サルニ至リシ以上帝國政府カ今回ノ措置ヲ爲スノ已ムヲ得サルニ至リシ以上帝國政府カ令回ノ措置ヲ爲スノ已ムヲ得サルニ至リシ以上帝國政府カ令回ノ措置ヲ爲スノ已ムヲ得サルニ至リシ

ハ同一時期ニ在ラシムルコトニ決意シタリントスル決心ヲ放棄スルノ意ニ出ルニ非ス其實護月漸ク遷ントスル決心ヲ放棄スルノ意ニ出ルニ非ス其實護月漸ク遷のテ帝國政府ノ締盟ニ付時日ノ先後アルニ拘ラス其實施ルヲ以テ新條約ノ締盟ニ付時日ノ先後アルニ拘ラス其實施ルヲ以テ新條約ノ締盟ニ付時日ノ先後アルニ拘ラス其實施ルヲ以テ新條約ノ締盟ニ付時日ノ先後アルニ拘ヲシニルコトニ決意シタリ

青木子「條約改正記事」ニ日、之ヲ英公使ニ示シテ懇談ヲ試ミ協議數回ニ及ヘリ但シ聡判ノ際ニハ周藏ハ毎談ヲ共岡スルノ譏ヲ免レサル旨ヲ主張シαルニ英公使診ヲ共岡スルノ譏ヲ免レサル旨ヲ主張シαルニ英公使診ヲ大ニ覺悟スル所アリテ覺書ヲ英國首相ニ紹介スヘキピアニを持ている。

(右葵譯) 二十三年二月八日附覺書譯文

MEMORNDIUM.

The friendly reception accorded to the Treaty-revision Proposals, which His Excellency Count Okuma presented to the Powers having Conventional relation with Japan, encouraged the hope, if it did not justify

the expectation entertained by the Imperial Government, that one of the most cherished aspirations of the Empire was about to be realized.

Laboring under the inspiration of that hope and expectation the Imperial Government, for the reasons which will hereafter be more fully explained, deemed it desirable to fix upon a day certain for bringing the new Treaties into operation, and taking into consideration the rapid progress made in the earlier stages of negotiations and the importance of an event, so far-reaching in its consequences, as the substitution of new Treaties in place of those that have hither to regulated the International concerns of the Empire, it was though to be altogether fitting and appropriate to name for the purpose, the first anniversary of the promulgation by His Imperial Majesty of the Constitution of the Empire.

The Imperial Government were, however, influenced in their determination by considerations of a still more serious and practical nature. They desired and they believed it to be the desire of all the Powers interested, that whatever advantages might accrue to

foreigners generally from the new Arrangement, should, if possible, be enjoyed simultaneously by all. While the Imperial Government were well satisfied that no Conventional obligations resting upon them, made the synchronous substitution of new treaties in place of the existing Covenants, essential, they were nevertheless convinced of the practical difficulty of drawing such a marked distinction between the subjects and citizens of the different Powers, as would be necessary, if new Treaties with some of the Governments were put into force, while the status quo was maintained in respect of other States.

This difficulty, it is true, might have been avoided by selecting a more renote date than the 11th February, 1890, for giving effect to the amended Treaties, but such a solution would inevitably have raised up contingencies which the Imperial Government could not, with a proper appreciation of what was due to the Treaty Powers, encounter.

During the present year the first Imperial Diet will be convoked, and the Constitution will then become the Supreme Law of the land. The people, through

their chosen Representatives, will then have a voice in the legislation of the Empire and then the Imperial Government will not be in a position to pledge with the same degree of certainty as they would now be able to do, the enactment of those numerous enabling laws, which are absolutely essential to the proper and complete operation of the new Treaties.

These grave considerations, it will be remembered, were throughout the late negotiations, repeatedly and frankly presented to the Foreign Representatives, by the late Minister of State for Foreign Affairs, as a sufficient reason for pushing on negotiations with all convenient speed and for selecting an early date for putting the new Compacts into force.

The Imperial Government are now reluctantly compelled to admit that the time originally set apart by them for completing the work of Treaty-revision was insufficient, and they are consequently aware that it is now impossible to put the revised Treaties into operation on the date originally designated; while the present position of the negotiations, as well as the time it has already taken to reach that posi-

tion, enforces the conviction, that the postponement must extend beyond the date when the Constitution is to come into operation.

If, therefore, they should at the present time and under existing circumstances, push on without change, the work of Treaty-revision, they would lay themselves open to a charge of want of good faith, because they are convinced, that unless amendments are introduced into the present Proposals, the Imperial Government will be unable to secure the enactment of those laws in aid of the new Compacts which are regarded as essential.

The Diet will in a great measure naturally reflect public opinion, and consequently the public excitement on the subject of Treaty-revision which existed during the latter half of last year, and the public discussion consequent upon that excitement, have enabled the Imperial Government to gauge with accuracy, what modifications of the existing Scheme, are necessary.

In this situation of affairs, and impressed as they are with the conviction that under no circumstances would they be justified in concluding Treaties, which

in consequence of the known opposition of the Legislative Branch of the Government, could not be put into complete operation, but two alternatives present themselves to the consideration of the Imperial Government:

1st. To postpone indefinitely the work of Treatyrevision, or

2nd. To offer such amendments to the present Proposals, as will secure the cooperation of the Diet in putting the Treaties into force.

ditional acceptance of the latter alternative. tion, that an irreconcilable incompatibility exists ing wish to secure a fair and equitable solution of time and enlightened labor; their constant and abiddirection of Treaty-revision at the expense of so much preserve what has already been accomplished in the Consular jurisdiction, imperiously demand the unconmunities between Constitutional Institutions and those the question, and above all, the important considera-As between these two courses the Imperial Governcannot which are hesitate. claimed in connection with Their anxious desire to And im-

they the more readily accede to that demand, as they feel confident that the suggested changes will prove acceptable to the Powers.

The modifications which the Imperial Government are convinced, would, on the one hand, serve to conciliate divergent opinions which the introduction into the Government of a new Legislative element, will create, and would, on the other hand remove from the arena of discussion, all questions concerning the Constitutionality of the Treaties, may be summarized as follows:

- 1st. The cancellation of the engagement concerning the appointment of Judges of foreign origin to the Daishin-In;
- 2nd. The withdrawal of the stipulation concerning the elaboration, codification and promulgation of the laws of the Empire;
- 3rd. The withdrawal of the stipulation concerning the right of foreigners generally to possess real-estate; it being understood that this amendment is not to affect the Conventional right at present enjoyed by the subjects and

citizens of the Treaty Powers, to lease land within certain defined localities in Japan, and

4th. The introduction of certain reservations in reference to the right of aliens to be placed upon a national footing.

The first and second of the proposed changes, could be accomplished by the withdrawal of the two Diplomatic Notes.

The third, could be secured by striking out the words "real-estate" and "real or" in the third paragraph of Article I, of the Draft Treaty. This elimination would render desirable, and the Imperial Government would consent, to the insertion of the following stipulation in the second paragraph of Article II, between the words "subjects" and "conforming:" "and to hire and occupy lands, houses and ware-houses for all lawful purposes."

The fourth amendment would be effected by inserting at the end of Article II, the following clause: "It is understood, however, that the stipulations contained in this and the preceding Article, in no

wise affect the laws, decress and special regulations based upon the sovereign power of the State, regarding administrative and police matters, now in force or which may hereafter be enacted in each of the two countries, and generally applicable to all foreigners."

Apart from the manifest duty devolving upon the Imperial Government, to anticipate as far as possible the wishes of the Diet in a matter in which the active cooperation of that Body will be indispensable, they have been greatly influenced in their present action, at least so far as the first two suggested modifications are concerned, by Constitutional considerations.

Having regard to the first of the proposed amendments, the Imperial Government are unable to controvert the proposition, that any Conventional engagement or law, which makes alienage the chief essential qualification for appointment of office of trust under the Constitution of the Empire, is certainly antagonistic to the spirit, if not the letter, of that Instrument,

give their adhesion to them. consequently convinced that they ought not now to Government as free and independent legislative functions of the stipulations in reference to future legislation, which in any wise hamper or attempt to Government are of opinion that any engagements or Turning to the second modification, the Imperial be as regarded,—if not as unconstitutional, impolitic organized under and unwise, and they are interfere with the the Constitution,

They are, moreover, constrained to think that the guarantees to be given by them in connection with jurisdiction and legislation, should only be commensurate with the interests to be subserved. When the proposals now under discussion were submitted to the Great Powers, not only had the Constitution not yet been proclaimed, but it was thought until long after the promulgation of the Great Charter, that in the matter of going into operation, the Treaties would take precedence over the Constitution. The nature and scope of the free and spontaneous grants made by His Imperial Majesty to His subjects, are now

known, and it is also known that the new Treatics when concluded, must come into force under and in subjection to the Constitution. These circumstances, and the no less important facts that the Constitution carefully guards and fully protects the rights and liberties of the people, and that under it, the Representatives of the people will have a voice in the enactment of the laws of the land, ought, in the judgment of the Imperial Government, to be regarded as a sufficient assurance that those laws will always be respensive to the requirements of the people—foreign as well as native.

There is no Constitutional question involved in the proposed third amendment. The privilege of owning real-estate is not essential to the perfect enjoyment of the principal rights guarantied by the proposed Treaty. Having this fact in view as well as the consideration that the question is one which, it is generally admitted, appeals more directly to domestic legislation than to international regulation for adjustment, the Imperial Government are persuaded that it would be advisable to leave the subject to the un-

proposed alterations, the Imperial Government desire reasons already given which apply equally to all the misunderstanding, and for this reason, as well as the Powers, every possible cause for future discussion or anxious to remove from their intercourse with other or economic interests in respect of the rights of aliens, where the political natural and inherent right as a measure of self prosals as they stand at present, that would impair their ceives confirmation from the action of other Powers, Government are convinced,—and their judgment resuggested out of abundant caution. modification, it may be stated that the change is fettered disposition of the several Powers individually the introduction of this express reservation in the new tection, to impose general and reasonable restrictions -that there is nothing in the Treaty-revision Proporeference Nevertheless, the Imperial Government are to the of the State are directly inproposed fourth and last The Imperial

The Imperial Government have thus freely and frankly exposed the motive which have influenced

clusion. Government to bring all the new Treaties into operaof sound policy, is the determination of the Imperial harmony with that wish, as well as with the dictates interfere with the desired consummation. created by the lapse of time, which would seriously that work by effectually guarding against eventualties great work. determination to push on to present action implies no abandonment of their firm of the Powers. They hasten to add, that their tion, will merit and secure, the hope and expectation that their efforts to bring about their action at the present juncture, in the confident tion at the same time, regardless of the date of conperfect understanding upon the long ponding ques-On the contrary, they wish to expedite final completion the friendly cooperation In perfect

DEPARTMENT OF FOREIGN AFFAIRS, TOKIO, JAPAN, February 8th, 1890

三五九 明治二十三年二月二六日 英國公使宛

大隈家修正ニ關スル覺書送付件

大不列顛國特命全權公使

ヒユー・フレザー閣下

擔任ト爲レリ 確信セシメタル理由トヲ閣下ニ説明スルハ正シタ本大臣ノ望スル所ノ修正ハ大不列顚政府ニ於テ承諸アルヘキコトヲ故ニ此書翰ヲ以テ右修正ノ目的效果及帝國政府ヲシテ其希

ヘサル所ナリ乃チ我帝國ノ制度へ獅ク廣ク世ニ知ラレ三十進歩的事業タルノ著明ナル實蹟アルハ帝國政府ノ欣喜ニ堪望失敗ヲ重ネタルニ過キスト雖モ其全體ヲ通觀スルトキハキ必要アルヲ見ス其沿革タルヤ一面ヨリ之ヲ見ルトキハ失此任ヲ盡スニ當リ本大臣ハ條約改正談判ノ沿革ヲ詳述スへ

見ノ全ク相符合スルノ時機ニ達シタリ室リシヲ以テ我 皇帝陛下ノ政府ト各締盟國トハ漸次其意當然ナルヤハ從來ノ談判ニョリ一層明瞭ニ了得セラルルニラレ從テ日本ハ其舊時ノ條約ニ就キ何等ノ改訂ヲ要求シテ年來成就シタル文化ノ進步モ以前ョリハ尚ホ充分ニ詳知セ

協力トニ倚賴スルモノナリムルニ當リ帝國政府ハ大不列顚國皇帝陛下ノ政府ノ贊助トムルニ當リ帝國政府ハ大不列顚國皇帝陛下ノ政府ノ贊助ト然ルニアラス而シテ本件ノ滿足ナル結局ニ遠センコトヲ勉ク結了セサリシ問題ヲ迅速且穩當ニ調停スルノ望ナクシテ故ニ帝國政府カ再ヒ本件ノ議ヲ起スニ至リタルハ彼ノ久シ故ニ帝國政府カ再ヒ本件ノ議ヲ起スニ至リタルハ彼ノ久シ

|國ノ臣民ニ對シテ强テ其裁判權ヲ執行スルヲ得ス之ニ反シ故ニ新條約實施ノ日ヨリ五箇年ノ間ハ日本裁判所ハ鼘締盟

ヘシト切論スル

モノアルニ至レリ

難題ナル 約ノ臨時的性質ノモノタルコトハ實ニ明白ナルニモ拘ラス 千八百五十八年ノ諸條約ハ其明文ニ據リ十四箇年ヲ經 條約ニ加フルコトヲ必要トスル所ノ修正トノ間ニ穩當公平 至リタル 該諸條約ニ據リ外國人ヲシテ諸稱ノ利益ヲ享有セシムル 害シ若ク ル處理ヲ成スコト是ナリ甚シキニ至リテハ現行條約ニ著 キ 變更ヲ加フルトキハ其變更ノ爲メニ該利益ノ享有ヲ妨 .時タリトモ改正シ得ヘキモノトス然リ而 ,ヲ以テ今日ニ在リテハ條約改正ノ難件ニ關シ最 モノノーヲ揭レハ則チ該利益ノ享有ト經驗上現行 ハ 毀損スルカ故ニ帝國政府ハ之ヲ賠償スル 2 ンテ該諸條 ル Ŧ <u>ت</u> 1

> 局外國資本ニ附着シテ離ルヘカラサル條件ヲ設ケ之レニ頓 理スルノ困難ト何ノ差異カ之レアラン故ニ帝國政府ノ意見 十二箇年ノ後ニ於テ撤去スル 資本ヲ輸入シ其工業ヲ與スノ時ニ際シ存在セシ所ノ擔保ヲ ニ輸入セラレ外國ノ工業ハ全國ニ勃興スルト假定センカ其 判官ニ任用スルノ擔保アルニ因リ外國ノ資本ハ帝國ノ內部 均シク困難ナル事質アルコト 判官ヲ大審院ニ任命スルニ因リ生スル所ノ情勢ニ就テモ テ困難ナル事實アリトセハ他目一定ノ期限間外國出身ノ裁 ス併シ帝國政府カ觀察スル 帝國政府ハ毫モ此ノ如キ賠償ノ責アル = テ以テ外國資本ノ內國ニ入ルヲ許ス ルコトアルカ如キ一時限リノ擔保ヲ設ケンヨリ テハ外國資本为內國二入來リテ漸ク固着ス 既得權ト現行條約ニ必要ナリト思惟スル變更ト ナリ 所ニ據レハ若シ今日ノ情 ノ困難ナルハ尙ホ目今外國入 ハ明瞭ナリ例へハ外國入ヲ裁 コソ策ノ得タル コトヲ是認ス ル ニ及テ撤去 - ヲ調和處 八寧口 勢ニ就 ル 能 屯 亦

約款ヲ取消スノ要用ヲ認ムル所以ノモノハ啻ニ便宜上ノ計將又帝國政府カ外入ヲ日本裁判官ニ任命スルコトニ關スル

千八百七十二年二於テ司法事務ヲ行政部ヨリ分難シ専任裁約款ノ取消ヲ要スルニ正當ナルモノト信スルカ故ナリ廃前ニ必ス現出スヘキ日本ノ司決制度ニ關スル恃態モ亦該廃す出ツルノミニ非ラスシテ現ニ存在シ若クハ領事裁判全

此法律實施ノ期日ハ本年十一月一日ニ在ルナリ 此等?貴重ナル憲法上ノ擔保ニ附隨スルモノニ外ナラサ 以テ之ニ任ス」「裁判官ハ刑法ノ宣告叉ハ懲戒ノ處分 テ之ヲ定ム」「裁判官ハ法律ニ定メタル資格ヲ具フル 者ヲ 前ニ書施セラルヘシ該憲法ノ規定スル所ニ據レハ「司法權 帝國憲法ヲ發布セリ此憲法タルヤ斯條約ノ締結批准ヲ經 爾來其施行ハ滿足ナル結果ヲ呈シタリ而シテ最後ニ至リ 前二當リ裁判官採用ノ爲メ法官登用試驗規則ヲ設ケタル 不麻猫立ナル 判官ヲ以テ組織スル所ノ裁判所ヲ設立セリ之ヲ約言スレ 千八百七十二年ニ於テ司法事務ヲ行政部ョリ分離シ專任裁 ハ洪律ニ依リ裁判所之ヲ行フ」「裁判所ノ構成ハ法律 ヲ 以 ノ外址職ヲ発セラルルコトナシ」トアル (ノ構成ニ完全ナル改正ヲ加フル所ノ法律ヲ發布シ 八年ニシテ現行刑法治罪法ヲ酸布シ今ヨリ殆ソト ホ之ヲ確實ナラシメンカ爲メ帝國政府へ近頃帝國裁 司法制度ヲ創設シタリ此重要ナル改革ヲ ナリ = 六年 Ŧ 經 Ħ 1] V ル テ = ル ハ

ル地位ヲ占メタルコトヲ公言シ得ルニ要レリハ其裁判官カ全ク行政部ノ織勢管理外ニ在リテ不覊獨立ナ斯ノ如ク司法制度改革ノ事業ハ漸次其步ヲ進メテ遂ニ日本斯ノ如ク司法制度改革ノ事業ハ漸次其步ヲ進メテ遂ニ日本

保證セラレタル裁判官ヲ見ルニ至ルヘシ保證セラレクル裁判官ヲ見ルニ至ルヘシ保証セラレカの別の明年中ニ實行ニ附スルモノト假定センカ簡故ニ修正條約ヲ明年中ニ實行ニ附スルモノト假定センカ簡故ニ修正條約ヲ明年中ニ實行ニ附スルモノト假定センカ簡故ニ修正條約ヲ明年中ニ實行ニ附スルモノト假定センカ簡故ニ修正條約ヲ明年中ニ實行ニ附スルモノト假定センカ簡故ニ修正條約ヲ明年中ニ實行ニ附スルモノト假定センカ簡故ニ修正條約ヲ明年中ニ實行ニ附スルモノト假定センカ簡

判セラルヘシ 単セラルヘシ 即等ファルニーの が表別では、 が表別では、 が表別では、 のので、 のので、

カ此等ノ考案へ充分ノ保證ナルコトヲ確信スルコトヲ明言 此等ノ考案へ現ニ事實上ノ保證ナリ本大臣ハ已ニ帝國政府

ルヲ トシテ民法及商法ノ編成二從事シ而 實際ニ行ハル、 於テハ帝國政府ハ勿論第二ノ修正モ同様ニ受納 /疑ハサル 1 ニ數月以内ニ實施セラルヘシ將又帝國政府ハ數年間孜 ナ シ此第一ノ修正ニ別スル希望ノ適切ナル ,知ス レハナリ シテ遠カラス諸法典ヲ發布セラルヘキコト 十星霜ヲ經過シタリ而 N ル所ナリ且此等ノ法典ハ條約改正ノ爲メ テ之ヲ發布スルコト ナナリ ク事情アリ Ý 抑々刑法及治罪法ノ發布セラレテョ 事實ハ則チ帝國政府カ新法典ノ完全整備ス 司洪制度ニ闘スル 何トナレハ立法ニ關スル實際ノ保證ハ現 タルニモ拘ラス今日ニ至ル シテー年前ニ發布シタ ニ深ク注意スルヲ見ルニ至 事質上ノ保證 シ テ此大事業ノ殆 ヲ認 シタル憲法へかを活っ同様ニ明 セラル へ世間 ゞ / 共酸布ヲ マテ其發 ラ W ヘキ シト N 在 汝

リニ彼ノ法律編纂ノ事ニ關シ外交告知書ニ揭クル所ノ擔保此等ノ事情ヲ併セテ之ヲ言へハ帝國政府ノ意見ニ於テハ假

日本ノ裁判権 刀 而シ 比ス ナ 目今ハ兎モアレ將ニ近世開明ノ精神ト併行スルニ至ル 價値ヲ有スル擔保ト爲ササルヲ得ス卽チ日本ノ豁法 テ縱へ諸法律中ニ舊慣ソ痕跡アリトスルモ外國人 1 二專屬ス 魔費ナル ル 前 モノト云フヲ得スト = ハ 必ス其删除ヲ見 ス ルニ至 ル モント ル ^ 力 ^

第三ノ 跡ヲ實際上ニ絕ツニ至ルヘシト雖モ帝國政府ハ寧ロ外國人 ノ斷定二於テハ內地ヲ開キ交通ヲ始ムル後數年間ニシテ其 幾分カ危險ニ陷ルノ虞ナキヲ得ス然ルニ此危險ハ帝國政府 地ヲ開クト同時ニ低利ナル外國資本ヲ輸入スルトセ 隨テ此等ノ借地入ヲシテ容易ニ其土地ヲ賣却シ若クハ抵當 數年間二於テ當時ノ永久借地入ニ無條款ニテ地券ヲ交付シ 増加ヲ奬勵スルヲ以テ政 可ナカルヘシ 要用ヲ見サ ノ不動産所有權ニ關スル禁制ヲハ其安然無事ニ解キ得 爲スコト カ穩當ナリト認メタル政略 修正案ニ付 iv ヲ得セシムルニ至リタル經驗アルニ因リ ルナリ但シ 即チ帝國政府ハ永久所有權ヲ有 ァ ハ帝國政府 左ノ旨趣ヲ閣下ニ説明ス 略ト ナス然ルニ千八百 八別 (特ニ耕作地 二其旨意 ヲ敷衍 ニ關シテ)モ ス 七十二年後 ル N 小地主 Ŧ ハ帝國 若シ内 敢 ス ヘキ デオ ル ラ

論旨ヲ秉ルモノナリ時機ニ達スルヤ否ヤヲ占斷スルノ續利ヲ其掌握中ニ置クノ

他同種類 直接ノ關係ヲ有スル日本船舶ノ所有權若クハ日本銀行及其 ル理由 是ナリ而シテ帝國政府力此 第四 十九年ノ英露條約第一條ノ末項ヲ摘採シタルモノ テ故障ナク管理シ得ルニ在ルナリ 以 ハ即チ帝國政府カ政治上若クハ財政上國家ノ テ充分ナリト思考ス即チ此修正タルヤ單ニ千八 修正案ニ關シテハ左ノ事情ニ付閣下ノ注意ヲ喚起 (ノ會社等ニ於ケル株券ノ所有權ヲ必要ア 制限ヲ設クルヲ必要トスル重 IV ナ 場合 利害 ルコト 百五 , = <u>---</u>. ナ

ス 以上ハ帝國政府カ覺書ニ記載スル理由アルニ依リ條約改正 <u>ت</u> | 法権トハ互ニ相牴牾シテ到底兩立シ得へキモノニ非ラス・
常リ本大臣ハ覺書ニ揭ケタル左ノ宣言即チ立憲制度ト治・
ル所ノ論旨ノ要點ナリトス而シテ今之ヲ閣下ニ提出スル 關シ修正案ヲ大不列顚國皇帝陛下ノ政府ニ提出スルヲ 云ァ事ニ付閣下ノ注意ヲ喚起シ併セテ此宣言ハ毫 ニモアラサルコト セス又將來二於ケ ヺ 閣下 í 政略ノ赫々タル方針ヲ示 ニ確言スル ナリ 七威迫 サ 要

> 故ナリ而 テ 可ナルモノト シ 確 蓋シ覺書二於テ之为解釋辨護ヲ爲スカ如キハ或ハ其趣旨 失當ニアラサルヘシ ト思考セ 質ナラサ シテ覺書ニ於テ之ヲ説明辨解 シニ由ル ルヤ否ノ點ニ付聊カ疑義ヲ喚起スル ・雖モ本書ノ如キ書翰二於テ之ヲ說明 ナリ然レト |鰯ニ於テ之ヲ說明スルハ敢・モ覺書ニ於テ說明スルノ不 セ サ ル所 ノ嫌アル 以ノ Ŧ ^

限內 此相互ニ牴觸スル二原素ハ到底久シク兩立 現今日本二於テ行ハル、カ如 ル 1 ル モノ ナリ右ノ二原素ハ改正條約案ニ提議スルカ如 **斷言スルモ本大臣ハ敢テ事實ヲ誤マラサルモノト確信** 邦國二於テ未夕嘗テ存在セサリシ ニ相互ニ共存スルコトアルモ到底無窮ニ ニ非ラサルナリ キ治外法權ハ立憲主義 Ŧ, ノニシテ而 シシ能 兩立ヲ期ス パキ短カキ ハサル シ 1 E テ 行 ス 1 如

除ハ必要 スル所 明文ニ據リテ存在セルモノニアラスシテ其明文ヲ以 ルル 力故ニ 曾 如ク相調和シ難キモノ ノ權利ヲ適當且充分ニ享有セントスルニハ テ此等假定ノ正當ナ 敢テ然ルニアラス此種ノ ナリトノ假定ニ基由スル N ブ ヲ認メタ w ハ日本ノ 特権発除ハ決 モノ ルコトナ ナリ然レト 舊條約中ニ明 シテ條約ノ 該特權免 モ帝國政 テ規定 文ア

ノ宣言ヲ爲ス

ハ深ク其趣旨ノ誠質ナルコトヲ確信ス

ル カ

兹ニ法律ヲシテ充分ノ價値效果ブラシメンカ爲メニハ國内且立憲主義ト牴牾スルモノハ立法ニ關スル事項是ナリ而シテ條約以外ノ発除ニシテ最モ直接ニ日本ノ主權ヲ犯シ

現今ノ日本ニ於ケルカ如キ政體ノ組織ニ在テハ帝國一般

| 一至テハ斯ノ如キ協議法ハ必然廢棄ニ屬セサルヲ得サルナヲ得ヘキモ一旦法律議定ノ權アル立法體ノ成立セラルル時ヲ得ヘキモ一旦法律議定ノ權アル立法體ノ成立セラルル時

下子キヲ保シ難シ トナキヲ保シ難シ トナキヲ保シ難シ

テ國家避クヘカラサルノ經驗トシテ看過セント欲スルナリテハ帝國政府ハ敢テ苦情ヲ訴ヘサルノミナラス寧ロ之ヲ以テハ帝國政府ハルテオク三十二年間存在セルトノ事實ニ就現今日本ト各國トノ關係ヲ規定スル所ノ條約ハ更ニ重要ナ

カラサルモノタルコトヲ帝國政府ハ斷言セサルヲ得サルナル修正ヲ加フルコトハ啻ニ便益ノミナラス復タ必要缺クヘ倫ホ現ニ變遷シツツアルヲ以テ今ヤ速ニ現行條約ニ廣濶ナ然レトモ憲法上ノ事由アルノ外ニ日本ノ情勢ハ旣ニ 一變シ

モ亦隨テ消滅シタリ故ニ今回ノ談判ニ於テハ完全ノ協和及己ニ明瞭ナレハ强テ此大事業ノ速成ヲ要メタル主要ノ理由図議會開設ノ豫定期日ニ先タチ之ヲ實施スル能ハサルコトノ利益ヲ増進スヘシト雖モ覺書ニ解說セシ如ク新條約ハ帝ノ利益ヲ増進スヘシト雖モ覺書ニ解說セシ如ク新條約ハ帝原政府ハ此針路ニ據ルヲ以テ今回ノ談判カ彼我共ニ久シ帝國政府ハ此針路ニ據ルヲ以テ今回ノ談判カ彼我共ニ久シ帝國政府ハ此針路ニ據ルヲ以テ今回ノ談判カ彼我共ニ久シ帝國政府ハ此針路ニ據ルヲ以テ今回ノ談判カ彼我共ニ久シ帝國政府ハ此針路ニ據ルヲ以テ今回ノ談判カ彼我共ニ久シ帝國政府ハ此針路により、

深思熟考ヲ以テ本問題ヲ處理スルコトヲ得ヘシ満足ナル意見ノ投合ヲ得ルニ最モ確信ナル擔保ト云フヘム

右得貴意候 敬具

明治二十三年二月二十八日外務省二於テ

(右英文)

DEPARTMENT OF FOREIGN AFFAIRS, TOKIO,.....1890.

Sir

I have already announced to you verbally, that the Imperial Government have found it necessary to ask for the introduction of certain modifications into the depending proposals for the revision of the Treaties existing between our respective Governments, and in pursuance of that announcement, I now have the honor to transmit to you, a Memorandum which embodies the desired changes and contains as well, a full and frank exposition of the reasons which have rendered the introductiod of amendments essential at this juncture.

It becomes my duty therefore, in this Note, to explain to you the scope and effect of those modifica-

tions and the actual considerations which have moved the Imperial Government to believe that the amendments will prove acceptable to the Government of

Japan has made during the past three decades, and standing. and the Treaty Powers nearer to a common undergradually drawn His Imperial Majesty's Government ancient Treaties, Japan may rightfully demand, have by these negotiations, of what amelicration of her consequently, the clearer comprehension, developed more perfect appreciation of the enlightened progress knowledge the whole, themselves upon but the Imperial Government are able to congratulate sense, been a history of disappointments and failures, of Treaty-revision negotiations. It has, in a certain necessary for me to dwell at length upon the history In acquitting myself of this duty, it is hardly of the institutions of this Empire; the been a history of progress. The wider the significant fact that it has, on

It is therefore, not without hope of a speedy and amicable adjustment of the long pending question

Taking the proposed amendments in the order in which they are summarised in the Memorandum, I desire to say in reference to the first, that it does not contemplate any amplification whatever of the jurisdiction assigned under the original scheme, to Japanese Tribunals, but has solely for its object the elimination of the foreign element from the Bench of the Daishin In, and within the sphere of Japanese jurisdiction, the consequent subjection of foreigners to purely indigenous justice.

During the first quinquennial period the new Treaties are in operation, therefore, the Japanese Courts will not be able to exercise any compulsory jurisdiction whatever over the subjects and citizens of the Treaty Powers. On the contrary, such subjects and citizens may, during the transitory period, continue as exclusively within the jurisdiction of their

Empire study the working of the laws and judiciary of the afford aliens commorant in Japan, an opportunity to foreigners are to disappear, and the interim will now have the right by Treaty to reside and trade voluntary It is only after the expiration of five years that the the boundaries of the several localities where they remaining and carrying on their occupations within national tribunals as they are at the present time, by and to features adapt their concerns of Japanese jurisdiction over 6 the new

The Treaties of 1858, were by their own terms, subject to revision at any time after the expiration of fourteen years, but notwithstanding the expressly transitory nature of those compacts, interests have grown up under them, and to-day one of the most difficult problems connected with the difficult subject of Treaty-revision, is the fair and equitable adjustment of those interests to the amendments of the existing Treaties, which experience has proved to be desirable, and it has even been seriously suggested that any material modification of the Treaties, would

render the Imperial Government financially liable in respect of those interests, in so far as they were disturbed or impaired by such modifications.

capital and industries had been introduced into Japan, interior of Japan, under those to allow capital and industries Imperial Government it would be the part of wisdom which are deemed essential. with those modifications of as it is now to reconcile the interests of foreigners years, to withdraw those guarantees under which be found to be as difficult at the expiration of twelve spring into existence throughout the land, it would interior of the Empire and foreign industries should ments, foreign capital should seek investment in the the aegis of an undertaking to make such appoint-Judges of foreign origin to the Daishin In. created by the appointment for a limited period, of would be equally true in that what is true in respect of the present situation, admit any such liability, but they clearly perceive The Imperial Government cannot for a moment respect of a the In the opinion of the conditions and to seek homes in the existing Treaties situation If under those

conditions alone, which must ultimately surround them, rather than to establish ophemeral guarantees, which, after the capital and industries become domesticated, may be withdrawn.

Nor is it alone as a measure of expediency that His Imperial Majesty's Government deem it advisable to eliminate the stipulation concerning the appointment of foreigners as Japanese Judges. They believe that the conditions connected with the administration of justice in Japan, which now exist, or which must inevitably come into existence prior to the final abolition of Consular jurisdiction, fully justify that course.

In 1872, a judicial system independent of the other branches of the administration, was organized; Courts presided over by Judges who performed no other functions, were established, and in short, a separate and independent service was then created. Eight years after that important event, the Criminal Code and the Code of Criminal Procedure, which are now in force, were promulgated. Nearly six years ago a system of competitive examinations for appoint-

ments to jndgeships, was introduced and has ever since been in satisfactory operation, and finally the Constitution of the Empire, which will take effect before the new Treaties can be concluded and ratified, provides: That jurisdiction shall be exercised by the Courts of Law according to law; that the organization of the Courts of Law shall be determined by law; that the judges shall be appointed from among those who possess proper qualifications according to law, and that no judge shall be deprived of his position, unless by way of criminal sentence or disciplinary punishment.

In subjection to, but in aid nevertheless, of these high Constitutional guarantees, a new law previding for a comprehensive and complete reorganization of the Imperial Courts of Justice, has just been promulgated and will be brought into operation from the 1st November next.

Thus, step by step has the work of judicial reform gone on, until Japan can boast that her Bench is absolutely free and independent of Executive influence and control.

years, and the perfect independence and permanency have exercised a controlling influence for twelve which the principle of competitive examination will standing, and finally, by a Bench, in the selection of system of codified criminal laws of nearly a quarter of a century's existence; order of things will be met by a judicial organization foreigners loses its facultative characteristics, the new finally abolished and Japanese jurisdiction in respect of culation will show, that when Consular jurisdiction is guarantied for six years of tenure of which, will have been Constitutionally into operation within the ensuing year, a simple cal-Assuming that the amended Treaties are brought of sixteen years' by a

In the light of these important facts, it may be asserted without fear of contradiction, that when Japanese tribunals supersede Consular Courts, no case in which a foreigner is interested will over be tried in last instance, except by a Court composed at least of a majority of Judges who have submitted to the test of a severe competitive examination and are consequently well grounded in the principles of

western jurisprudence, besides being thoroughly conversant with the laws of Japan.

These considerations are guarantees of fact. I have already expressed the conviction entertained by His Imperial Majesty's Government of their sufficiency and you will, I am sure, permit me to add that the Imperial Government venture to hope that the Government of....., may be disposed to regard them in an equally favorable light.

If this hope is realized in reference to the first amendment, the Imperial Government cannot doubt that the second modification will be accorded the same favorable reception, as guarantees of fact in connection with legislation, fully as conclusive as those relating to the judiciary, actually exist at the present moment. Nearly ten years have elapsed since the Criminal Code and the Code of Criminal Procedure were promulgated, and the time can now only be reckened by months before the Constitution, which was promulgated a year ago, will come into force. The Imperial Government have for years been actively engaged in the labor of elaborating Civil and

Commercial Codes, and it is a matter of public notoriety that these great works are nearly completed and will are long be proclaimed. And the fact that they have not already been promulgated, in the presence of so many inducements connected with Treaty-revision, betrays the solicitude of the Imperial Government that when issued, they shall be complete.

These circumstances united, form in the opinion of the Imperial Government an assurance as strong, if not stronger, than the guarantees contained in the Diplomatic Note concerning legislation, that the laws of Japan will be, if they are not now abreast of the advanced spirit of the age, and that from them, every vestige of archaic principles, if any yet remain, will be eliminated before Japanese Jurisdiction becomes absolute.

It is not deemed necessary to enlarge upon the desirability of the third of the proposed amendments. It is not, however, out of place for me to explain to you, that it is the policy of His Imperial Majesty's Government to encourage small and permanent holdings of real-estate, and that their experience during

that the policy which they deem it prudent to purhibition concerning the right of aliens to own realshould retain the power to determine when the inwould inaugurate, but they are of opinion, that they intercourse, such as the opening of the interior ment, practically disappear after a in the judgment of His Imperial Majesty's Governopening of the country. capital into the interior contemporaneously with the be endangered by the introduction of cheap foreign sue, especially in respect of agricultural lands, would to sell and mortgage their property, teaches them, tenants, whereby those tenants were enabled readily ditional title-deeds were issued to the then permanent the years immediately succeeding 1872, when unconestate in Japan, can be safely removed. This danger would, however, few years of

In reference to the fourth amendment, it is sufficient for me to call your attention to the fact that it is in principle, a reproduction of the concluding paragraph of Article....., of the Treaty of.....between and Russia, and that the chief reason why the Imperial Government seek to introduce the reserva-

tion, is to enable them without question, to control, if necessary, the ownership of Japanese vessels and shares in the Bank of Japan, and cognate institutions in which the interests, either political or economical, of the State, are directly involved.

no menace whatever, neither is it intended to indicate connection with Consular Jurisdiction," attention to the declaration contained in the Memofelt bound to submit to the Government of..... amendments to the Treaty-revision Proposals, which curred to the Imperial Government, in support of the same time, to assure you that the proposition implies tions and those immunities which are claimed in compatibility randum, to the effect, that "an irreconoilable in-In presenting them to you, I desire to invite your they have for the reasons given in the Memorandum, These are the principal arguments that have ocany event, any particular line of policy exists between Constitutional Instituand at the Ħ. the

It was made with a profound conviction of its absolute verity. It was not explained or defended in

the Memorandum, because it was thought that any attempt to expound or vindicate it at that moment, might suggest a doubt as to its perfect soundness, but what would have been inopportune in the Memorandum, is not out of place in a communication of this nature.

I am, I believe, perfectly correct in asserting, that Consular jurisdiction, as it is understood and practiced at the present time in Japan, has never existed in a country in which Constitutional principles prevailed, and I think I am equally correct in declaring, that two elements, so antagonistic, cannot long abide together. They may exist side by side for a short time as is contemplated in the present proposals, but they cannot united, stand the strain of indefinite prolongation.

The actual stipulations contained in Japan's ancient Treaties are not so directly responsible for that incompatibility, as are the privileges and immunities, which are destitute of any express warrant for their existence, but which have been claimed upon the supposition,—a supposition which the Imperial Go-

vernment do not share,—that they are essential to the proper and complete enjoyment of guarantied rights.

The extra-conventional immunities which trench more directly upon the sovereign rights of Japan, and are at the same time, more diametrically opposed to Constitutional principles than any others, are those relating to legislation.

There are certrin laws, which, in order to be of any value of effect whatever, must necessarily be territorial in their application, such for instance, as the enactments relating to game, quarantine and neutrality. Notwithstanding this manifest necessity, some of the Powers have claimed, that the jurisdictional atipulations in the Treaties carry with them as an essential incident, complete immanity on the part of foreigners from obedience to Japanese laws.

Without pausing at the moment to discuss this aspect of the question farther than to remark, that the Imperial Government have never admitted the validity of such an interpretation of their international engagements, it is proper for me to point

out that His Imperial Majesty's Government, by consulting the wishes and thus securing the cooperation of the Powers concerning those laws which of necessity must be universal in their operation, have constantly endeavored, and not without some measure of success, to prevent those conflicts in reference to the reserved legislative power of the Imperial Government in respect of foreigners, which would, otherwise, naturally have grown out of the interpretations of Conventional stipulations, so antagonistic as those above alluded to.

While it might be possible under a Governmental organization such as exists in Japan to-day, to continue thus to *negetiate* the general laws of the Empire, it is clear, that in the presence of a Legislative Body, possessed of power to *enact* laws, that system must inevitably disappear.

It is impossible for me to predict what all the consequences of an attempt to perpetuate that system indefinitely would be, but it may well be imagined that, in respect of those enactments which confer benefits as well as imposs obligations, such for in-

stance, as the laws and regulations relating to travel; hunting; railway and stesmship passenger traffic, and the postal and telegraphic services, the Diet might deem it but just and proper to insist, that those who were not bound to observe the laws, should be excluded from the benefits of the statutes. The Imperial Government would seriously deprecate such a conjuncture and they would always exert their best endeavors to avert it, but in giving consideration to all the phases of Consular jurisdiction, this contingency ought not to be ignored.

The Treaties which to-day form the basis upon which Japan's international relations rest, have existed without material modifications, for two and thirty years. Of this fact, however, the Imperial Government do not complain. They prefer to regard it as an inevitable part of their national discipline, but they can no longer avoid the conclusion that, apart from Constitutional considerations, the changed and changing condition of affairs in Japan, render an immediate and comprehensive revision of the existing compacts, not only desirable, but necessary.

Having thus fully laid before you the circumstances which have compelled the Imperial Government at this moment to ask for amendments to the proposals now ander discussion, and the considerations which have led them to believe that the desired amendments are not unreasonable, I beg you will submit those circumstances and considerations to the Government of....., and at the same time, invite them to an exchange of ideas—confidential at the outset if deemed perferable—on the subject.

By the adoption of this course, the Imperial Government permit themselves to hope, that the new negotiations will lead to that conclusion, which has, on all sides, been long and anxiously awaited. To bring about a satisfactory accommodation at once, would certainly contribute to the mutual benefit of the Powers interested. Nevertheless, it is apparent, as was pointed out in the Memorandum, that the new Treaties cannot be brought into operation in advance of the anticipated meeting of the Diet, and consequently, the chief inducement for pushing on unduly the the great work, has been removed, and the subject

may now be approached with that deliberation and thoroughness, which are and must remain, the best guarantees of perfect accord and a satisfactory understanding.

I avail myself of this occasion, to renew to you the assurances of my highest consideration.

(Signed) AOKI

青木子「條約改正記事」ニョク

右ノ器書及書輸へ「ペルー」及墨西哥國ヲ除クノ外三右ノ器書及書輸へ「ペルー」及墨西哥國ヲ除クノ外三者ニモ他日ノ談判ヲ豫知スル参考書類トシテ交付シ漸者ニモ他日ノ談判ヲ豫知スル参考書類トシテ交付シ漸有・一・ (三、三文書) シ併 セテ 御 雇り改正談判ノ新地步ヲ占メタリキ依テ該兩種ノ書ハ在外我帝國公使ニモ送付(三、三文書)シ併 セテ 御 雇り (三、三文書) シ併 セテ 御 雇の回國立ニ (三、三文書) シ併 セテ 御 雇り (三、三文書) シ (一・) の (三、) の

三六〇 明治 子二年二月 青木外務大臣宛

rapports avec le Gouvernement Impérial du Japon ont été de tout temps empreints.

Veuillez agréer, Monsieur le Ministre, l'assurance de ma plus haute considération.

V. Biegeleben

Son Excellence

Monsieur le Conte Aoki,

Ministre des Affaires Etrangères,

1

一 伊國公使來翰

Tokio, le 2 Mars 1890

Monsieur le Ministre,

J'ai l'honneur d'accuser réception à Votre Excellence de Sa Note du 28 du mois passé concernant la révision des traités qui existent entre les Puissances Occidentales et l'Empire du Japon. Le Memorandum que Votre Excellence vient de me transmettre par cette Note, ainsi que celui qu'Elle a bien voulu me remettre précédemment, pour mon information "persennelle" à notre entrevue du 13 du même mois de Février, centiennent des bases de négociation qui outrepassent les peuvoirs qui m'ont été conférés par les instructions

大隈案修正ニ關スル覺書領收ノ件

一 墺國公使來翰

Tokio, le 1-er Mars 1890

Monsieur le Ministre,

J'ai en l'honneur, aujourd'hui, de recevoir le Memorandum en date du 8 Février dernier ainsi que la note explicative confidentielle en dete d'hier, par lesquels Votre Excellence veut bien m'annoncer la réselution du Gouvernement Impérial de retirer certaines propositions qu'il avait faites au commencement de l'année dernière aux Puissances Occidentales au sujet de la revision des traités existant entre le Japon et ces Puissances, et me faire connaître en même temps les nouvelles propositions du Gouvernment Japonais, ainsi que les considérations que ont déterminé, de sa part, ce changement de disposition.

Conformément au désir de Votre Excellence, je ne manquerai pas de transmettre cette communication importante au Gouvernement Impérial et Royal, qui, j'en suis convaincu, la prendra en examen dans le même esprit d'équité et de bienveillance dont ses

de mon Gouvernement. Je dois, par conséquent, m'obtenir de tout examen comme de toute opinion et me borner à la transmission pure et simple de ces documents à Son excellence le Ministre des Affairs Etrangères du Roi, mon Augusts Souverain.

Je saisis cette occasion pour Vous renouveler, Monsieur le Viscomte, les assurances de ma plus haute considération.

R. de Martino

A Son Excellence

Le Viscomte Aoki

Ministre des Affaires Etrangères

etc. etc. etc.

三 英國公使來翰

Tokio. March 5, 1890.

Monsieur le Ministre,

I have the honour to acknowledge the receipt of the Note which Your Excellency was good enough to address to me on the 28th ultimo, and of its enclosure, an Memorandum upon the subject of Treaty Revision to be communicated to my Government.

I avail myself of this opportunity to renew to Your

Excellency the assurance of my highest consideration.

Hugh Fraser

N. B. M's. Minister in Japan.

His Excellency

Viscount Aoki Shiuzo

&c. &c. &c.

四 佛國公使來翰

Tokio, le 21 Mars 1890

Monsieur le Viscomte

Par une lettre en date du 28 février dernier, Votre Excellence m'a fait l'honneur de m'adresser un memorandum dans lequel sont indiquées les modifications que le Gouvernement Impérial désirerait apporter au projet de traité que, vers la fin de l'année 1888, il a présenté à l'acceptation des Puissances.

Je me suis empresué, Monsieur le Vicomte, comme c'etait mon devoir, de communiquer le memorandum ainsi que la lettre de Votre Excellence au Gouvernement de la République, sans attendre les éclaircissements que ces documents me paraissent, comporter et que prochainement je prendrai la liberté de sollieiter

de votre bienveillance.

Il ne m'appartient pas, dans les circonstances aetuelles, de rechercher si une entente est possible sur telle ou telle des propositions qu'a pu formuler Votre Excellence. Je ne saurais, toutefois, me dispenser de relever l'opposition qui parait exister entre les propositions contenues dans le memorandum et les clauses des traités signés dans le courant de l'année dernière par les plénipotentiaires du Japon et ceux de plusieurs Puissances étrangères. Il y a là une question préjudicielle que je prends la liberté de signaler à l'attention de Votre Excellence.

Veuillez agréer, Monsieur le Vicomte, les assurances de ma très haute considération.

A. Sienkiewiez

Son Excellence

Monsieur le Vicomte Aoki,

Ministre des Affaires Etrangères

三六一 明治三三年三月四日 露頭公使宛

大隈緊修正ニ關スル覺書送附ノ件

Confidential

Department of Foreign Affairs, Tokio, March 4th 1890.

My dear. Mr. Minister:

I beg to hand you herewith a copy of the Memorandum and accompanying Note on the sujbect of Treaty revision which I have addressed to H. B. M's Minister.

The fact that the Treaty between our respective Governments has, as you are well aware, prevented the Imperial Government from approaching Your Government officially on the subject until after progress in negotiations is made with those Powers that have not yet signed Revised Treaties.

In the meantime I beg that you will regard this Note and accompanying papers as strictly confidential and believe me.

I am very faithfully yours

Aoki

謹 覺妻及附屬書翰寫省略ス

二十八二 明治ニナ三三月五日 鬱國公使ョリ

修正ニ關スル書類領收ノ件

Particulière.

Tokio, le 21 fevries, 1890.

5 mar

Monsieur le Ministre,

J'ai l'honneur d'accuser réception à Votre Excellence de Sa lettre privée et confidentielle d'hier par laquelle Elle a bien voulu me transmettre pour mon information personelle, une copie de Sa note au Ministre de la Grande Bretague à Takio en date du 28 février dernier, accompagnant un memorandum relatif à la révision des traités et annexée également à Sa lettre susmentionnée.

Veuillez agréer, Monsieur le Ministre, l'assurance de ma plus haute considération.

Schéwitch

CTIC WATCH

三六二 明治二三年三月七日 在歐米各帝國公使

大隈家修正ニ付テノ覺書送付ノ件

在歐米各公使宛(八名)

外務大臣子 青 木 周 藏

送第一五〇號

ル位置ニ遭遇シタリ

大隈伯遭難以後從前帝國政府ト諸外國トリ間ニ網繆セル條大隈伯遭難以後從前帝國政府ト諸外國トリ間ニ網繆セル條大門の連貫の大政正案中更ニ修正ヲ要求スルノ已ムル得サ大門伯遭難以後從前帝國政府ト諸外國トリ間ニ網繆セル條大限伯遭難以後從前帝國政府ト諸外國トリ間ニ網繆セル條大限伯遭難以後從前帝國政府ト諸外國トリ間ニ網繆セル條大限伯遭難以後從前帝國政府ト諸外國トリ間ニ網繆セル條大限伯遭難以後從前帝國政府ト諸外國トリ間ニ網繆セル條

十一日ヲ以テ新條約實施ノ計畫即開設前ニ於テ條約實施ノニ月十一日ヲ以テ新條約實施ノステニ月ン十二月ニ至リ同伯ハ外務大臣ノ職ヲ辭シタルヲ以テニ月外ナラス然ルニ大不顚國政府カ執議下ラス容易ニ商認調印外ナラス然ルニ大不顚國政府カ執議下ラス容易ニ商認調印外ナラス然ルニ大不顚國政府カ執議下ラス容易ニ商認調印外ナラス然ルニ大不順國政府カ執議下ラス容易ニ商認調印外ナラス然ルニ大不順國政府カ執議下ラス容易ニ商認調印が大阪伯カ條約實施ノ期日ヲ本年

幣ノ書翰ヲ熟覽アラハ必ラス行文ノ溫和ナルニ拘ラス旨趣 以テ目前ヲ瀰縫シ模稜技術ヲ以テ事ニ蒞ムノ手段ニ憑ルヲ 其志望ヲ達スヘキニ非ラサルナリ故ニ本大臣ハ巧言令辭ヲ 平均ヲ恢復セント欲セハ固ク樽爼辭令ノ間ニ折衝シテ能 歩手段ヲ棄絕シ更ニ更ニ彼我對等條約ヲ締結スルコトニ ノ誠意ヲ體膺シ此方針ヲ遵守シ任國政府ト交渉談判ノ ナリ本大臣ノ旨趣實ニ此ニ在リ故二貴官二於テモ學書及附 り是レ外ニ對シテハ堂々タル大國ノ體裁ヲ失ハス内ニ對 ノ福利ヲ損傷スルノ條約ヲ締結スル能ハサルノ旨ヲ明告セ 屑トセス特ニ酇乎トシテ立憲國ノ制度ニ適合セス且內國民 シテ特准裨益ヲ得セシメ牢乎トシテ動スヘカラサルモノア 増進スルノ途ヲ講究セシニ到底三十年來ノ積習固弊ハ彼ヲ ス低勵慮ヲ竭シ思ヲ彈シテ專ラ彼此ノ協和ト自他ノ便益ヲ 定シ本大臣ニ囑シ修正案ヲ提出セシメタリ此際本大臣ハ孜 進備ヲ整理スルノ企圖ハ畫餅ニ屬シ終ニ屬シ得 「嶄弼ナルコトヲ洞察セラルヘシ而シテ貴官ハ善ク本大臣 ハ國權ヲ鞏固ニシ福利ヲ增進スルノ誠意ヲ表彰スルモノ 若シ一朝ニシテ之ヲ滌掃シ本ヲ拔キ源ヲ塞キ彼我對等ノ 業ニ歸セリ是ニ於テ廟議ハ改正事業ニ關シ斷然從來ノ讓 シ 7

アリトス右訓令致候也と宜ヲ得ルニ至リテハ貴官ノ誠意従事時ヲ度リ慮ヲ致スニルノ道ヲ務メラルゝコト希望ニ堪エス將又應機制變方ニ隨ルヘク温潤和厚ナル辭令ヲ以テ嶄峻强硬ナル旨趣ヲ貫徹ス

獨、露へ

候也 附候ニ付無論其政府へ通知致候事ト存候此段爲念申添 附は、受害及附帶書翰ハ在本邦獨露公使へ參考之爲ノ交

米へ

蘭へ

添候也。「おり、「おり、」では、「おり、「おり」では、「おり、「おり」では、「おり、「おり」では、「おり、「おり」では、「おり、「おり」では、「おり、「おり」では、「おり、「おり」では、「おり、「おり」では、

お々 湯町 戸田 公使へ

間同政府へ對スル談判ノ手續ハ夫返ハ御見合相成度候尙々瑞西ニ對スル覺書及附帶ノ書翰ハ次便ニテ差遺候

帯書翰ヲ送附シヌルモノナリ帯書の歴ニ條約ニ調印シ居リ修正案ヲ提出スルノ餘

尚水覺書及附帶書翰ハ前田二付參照

三六四 明治二三五月四日 青木外務大臣宛

我修正案ニ對スル露國側ノ態度ニ關スル件

第六號 條約改正事件ニ付本年三月七日付第一五〇號ラ以テ御申越 最早セーウヰチ公使ョリ通知相成候哉ト相轉候處其事ハ未 日當國外務大臣ギルス氏ニ面接ノ序ヲ以テ右覺書等ノ事 書丼ニ書翰等閱讀數回御主意ノ在ル所逐一致了承候ニ付過 與ヘラレシ事ナレ 一有之候尤貴政府ニ於テハ初ヨリ好意ヲ表シテ我ニ滿足 ナレハ今我政府ノ此ニ一決セシハ拙官二於テハ甚夕喜フ所 テ本邦二於テモ到底一度ハ此地位ニ達セサルヘカラサル事 タ承知セストノ事ニ付拙官右覺書ノ大意ヲ陳述シタル上ニ ノ趣拜承仍テ右ニ關シ閣下ヨリ各國政府へ御提出相成候覺 ハ今回 1 提出案ハ大體上貴政府ニ 六月三十日到 關係ス ヺ *>*、

官二於テモ御同意ナラン如何ト尋ネ候處ジノーウヰエフ氏ルノ法右覺書丼ニ書翰ニ記載スル所ノ外良策ナキコトハ貴 選シタルへシ我方二於テ今日ノ場合二到リテハ本件ヲ處ス 長ジノウヰエフ氏ニ接シ右書類到達セシ哉否相尋候處同氏 右ハ今般ノ覺書ニ付テ相話シタル大略二御座候尤本件ニ付 改正之主意ヲ悉ク貫徹セシメラレンコトヲ希望スルノミト シ 唯此上ハ貴政府ニ於テ毫モ護與スル所ナグ御一決通リニ ニセラル、カ如キ虞八萬々可無之ト信シ居候故別二異論テ 何ナル變革ヲ來スコトアルモ外國人ニ對シテ其保護ヲ忽諸 ハ之ニ同意之旨ヲ表シ且申スニハ吾輩ハ貴國ニ於テ將來如 ハ既二之ヲ領受セリトノ事ニ付本邦之事情ハ追々貴聞ニモ ナリ猶水右覺書等篤ト閱讀スヘシト答へ候依テ又亞細亞局 ハ賞方二於テハ貴國ニ幇助スルノ機會ヲ得ルハ常ニ喜フ所 申越候哉二被伺候右爲御心得申進置候 ハセーウヰチ公使ヨリモ我邦ノ權理ヲ重ンシ善ク摯成シ 尚ホ年此上閣下ノ御幇助ヲ仰クトノ趣ヲ申添へ候處同 所少キ儀ニハ候へ共自ラ御協議ニ及フゴトモ可有之候得 敬具

明治二十三年五月十四日

在露國特命全權公使 西 德 狽

(右原文)

外務大臣子

靑 木 周

藏

July 15, 1890. Karuisawa

Monsieur le Ministre,

reply of Her Majesty's Government has just been confide me for that purpose in the beginning of March cion which of Salisbury the proposals in regard to Treaty Revitransmitted to me I did not fail to communicate at once to the Marquis They received immediate consideration, and the Your Excellency did me the honour to

namely the copy of a despatch, with its enclosures in accordance with Lord Salisbury's express desire, I would beg leave to recommend them very earnestly, Draft Treaty and a Draft Protocol, and in doing so State for Foreign Affairs the accompanying papers, hands by the direction of Her Majesty's Secretary of Your Excellency's favorable attention I hasten, therefore, to place in Your Excellency's

the assurance of the highest consideration I take this opportunity to renew to Your Excellency

> 外務大臣子爵 Œ 1 三六三文書

木 周 藏

殿

三六五 明治二三年七月宝日 青木外務大臣の英國公使ョリ 宛

英政府ノ對察送付ノ件

所屬書 英國政府ノ議定書案 英國政府ノ改正條約草案 六月五日附英首相訓令書

旨拙者二御依賴相成タル條約改正二關スル培議案ハ早班通 添書類トシテ條約草案及議定書草案等ニ有之候 中ノ書類ヲ閣下へ御送附候即チ拙者宛ノ訓令書ノ寫ト其付 拙者へ轉送有之候拙者ハ英皇帝陛下ノ外務卿ノ命ニ依リ在 達致候處該案ハ直チニ英政府ノ審査ヲ經テ其回答ハ正サニ 謹啓陳者閣下カ去三月初メニ於テソースベリ侯ニ涌達可致

得シコトラ希望スル旨ヲ申上候 拙者へ此ニソースベリ侯ノ求メニ應シ該案へ閣下ノ 敬具 好意ヲ

千八百九十年七月十五日輕井澤二於テ

ヒウ フ Z 1 ·¥`

His Excellency

Hugh Fraser

Viscount Aoki Shiuzo

&c. &c. &c.

Foreign Office

附屬書

1八十三年六月五日附英國公使へノ訓令書

保有スルコト是ナリ 動産所有權許與ノ拒絕若クハ延期及諸外國人一般ニ適用ス 國臣民ニ對シ司法ニ關シタル特種ノ取極及保證ノ撤去、不 スルニ該提議ハ左ノ箇條ラ包含スルモノノ如シ即チ不列顛 タリシカ其條項ハ英國政府ニ於テ詳細ニ調査ヲ爲シタリ要 該提議ノ概要ハ少シク以前ニ青木子ヨリ懇ロニ通知セラ 寫ヲ送付セラレ直チニ皇帝陛下ノ瀏覽ニ供シタ 關スル日本政府ノ新提議ヲ掲載セル青木子書翰並ニ覺書ノ 謹啓陳ハ去ル三月五日附第三十五號貴柬ヲ以テ條約改正 ル限リハ該臣民ニ對シテモ特種ノ規定ヲ制定スル 英國首相ノ書翰譯文(在東京英公使館ニ宛テタ ノ權利ヲ ルモノ

由ノ確實ナルコトニ關シテハ英國政府ハ更ニ疑ヲ容ルルコ 日本政府カ今回ノ提議ヲ採用スルヲ正當ト認メタル所 理

度ト矛盾スルヲ以テ之ヲ拒絕スルヲ必要ト爲シナカラ他ノ ル 與フルハ遠カラス日本ニ於テ施行セラルへキ憲法及代議制 ス 一方ニ於テハ外國人ヲ特種ノ束縛若クハ制限ニ服從セシ 、叉一方ニ 云フコトヲ得サルナリ ノ權利ヲ保存センコトヲ強議セラレタルハ全ク遺憾ナ ヲ欲 モノト大ニ デ 於テハ裁判管轄ニ關シテ外國人ニ特別ノ權利ヲ 自ラ提出シタル條欵即チ爾後談判ノ基礎ト ルナリ然 相違スルコトハ巌フ可ラサル ジリト 雖小 モ該操議ハ日本政府カ昨 ノ事實ナリ 成 年ノ シ 4 ŀ IJ

基クト云フト雖トモ該條款ノ區域ハ一層浩瀚ニシテ其主眼 大ナル故障ヲ有スルモノナリ蓋此條款ハ英露條約ノ規定 審察アランコトヲ以テス英國政府ハ斯ル條款ニ對 係ルカ如キ條款ヲ新條約ニ穀クルコトノ得失如何ヲ充分 此點ニ關シテハ英國政府ハ日本政府ニ希望スルニ其發議 惹起スへ半餘地ラ残サストノ計畫上二何等ノ勢力ヲ有スへ ラルル如ク將來外國トノ交際上二付テハ毫モ異議誤解ヲ セル目的ヲ達スルニ必要ナル程度ト頗ル權衡ヲ失スル ハ殆ント凝ヲ容レサルナリ將又英國政府ハ青木子ノ開陳 ト謂フヘシ斯ル條款ハ外國人社會ニ危疑恐慌ノ念ヲ生ス ヨシテハ重 ÷ = == =

唱フル 犯スル 裁判所ヲ設立シ最モ偏頗ナル意想ヲ把持スル シ易キ 其資格ノ完全ナル 不滿ヲ唱ヒ得サル程ノ完全ナル組織ヲ爲シ之ニ於テ訴訟手 ノ裁決ハ多少其法律制度ノ不完全ナルニ起緣スルモノト信 雖モ往々失當ノ裁決アルヲ冤レス而シテ敗訴者ハ斯 モ ノ方法ヲ 設ケ置クハ頗ル便益ナルヘシト思考シタ ヲ以テ成ルヘク外交談判ノ手續ニ由ラスシテ之ヲ處理スル スルニ際シテハ種々ノ葛藤愁訴ノ起由スルヲ免レサル 談判ニ因テ明瞭ニナリタルコトト希望ス年去新事體ニ推移 幾分为疑念ヲ存シタルニ由ルニ非ラサルコトハ旣ニ從來 ニ素案ヲ呈セシ所以ハ日本屬籍裁判官ノ公平ナル 外國裁判官ノ任用及其裁判管轄ノ區域ニ關シ英國政府 ヲ保存スルモ日本政府ニ於テ外國臣民ニ對シ其所屬國 完全ニシテ且ツ多年ノ實験ヲ經タル法制ノ行ハルル國ト カ過酷ト認ムル ヤ其理由 モ カ ノ權利ヲ失ヒタルモノト看做スヲ得サレハナ ノナリ故ニ兩政府ノ爲ニ便宜ナル方案ハ此ニーノ 如キ處置アルトキハ該外國政府カ之ニ ヲ知ルニ苦ュナリ何トナレ コト或ハ新定諸法典ノ寬大ナル 所 ノ法律ヲ制定シ若クハ條約ノ精神 ハ假令右ノ如キ權 モノト雖トモ リ縦シ最 コト コト シ故障 ý ル失賞 ヘキ 或 カ髪 = ラ = ノ 六 ヲ

二依 リ総テノ訴訟事件ヲ審理セシム ルニ在 リト思考シ IJ

亦隨テ少 法ヲ 設クル テ受納セラルヘキコト 困難ナカル 裁判權ヲ 實地經驗习積ムヲ待ツテ得策ト信スルナリ然ルトキハ日本 本ノ新法カー定ノ期限内施行セラレ且ツ其施行上幾分カノ 先ツ日本裁判權ヲ外國人ニ適用スル 幾分ヲ適用スル 領事裁判ヲ繼續スルト同時ニ直チニ外國人ニ日本裁判權 内國政略上ノ事情アルヲ以テ日本政府ハ右ノ如 一般ニ且ツ制限ナク外國人ニ適用スルニ於テ ナカラン 可シ英國政府ハ此方案ハ最モ便宜ナルモノトシ コトハ到底承諾シ難キコトト爲サハ英國政 ノ方案ニ比スレハ混雑ヲ惹起スル ヲ信ス而シテ彼ノ居留地内ニ於テ尚 ノ一項ハ之ヲ延期シ日 ノ虞モ 別 府 *>*>

ナ 昨年中ノ談判ニ因テ得タル結果ヲ放棄シ又ハ其實行ヲ際限 屬スル處置ヲ爲スノ必要ヲ見サルナリ因テ英國政府 全ク日本政府ニ同意ヲ表スルモノニシテ又此 ク延期スルヲ如キ考案ヲ排斥スルコトニ付テハ英國政府 談判委員力協議同意ヲ遂ケタル總テ 調印 セ ンコトヲ強議ス而シテ其條約ニハ從來 ノ條項ヲ掲載ス Ī 如 き機性 八直

> 事スル 顚國臣民ニ族券ヲ以テ內地ヲ旅行スルニ充分ナル便宜ヲ與 返延期スルコトトス而シテ日本政府ハ此經過期限間ハ不列 フ 年間且ツ裁判所構成法及新法典ヲ十二個月間實施セラ \exists ス보議定書ノ條項ハ不列顚國臣民ニ日本裁判權ヲ適用 ルコトヲ擔任スヘシ尤モ内地ニ於テ住居若クハ商業ニ ト及其適用ニ附着スル所ノ總テノ讓與ハ少クトモ今後五 ヲ要ス且ツ該條約ト同時ニ議定書ニ調印スル コトヲ許サス コト ・ラボ議 ル ス N ル

余ハ此 コ ル故二此書翰ト共二青木子二送附 トヲ懇切ニ申入レラルへ ニ右ノ目的ニ起算シタル條約案及議定書案ヲ封入 シ シ 同時一 子ノ 同意アラ > ス

千八百九十年六月五日外務省二於テ

ソ ス べ IJ

フレ

貴下

(右原文)

Foreign Office

June 5, 1890

Sir,

have received and laid before the Queen

your

青木外務大臣時代 對英交涉 三六五

despatch No. 35 of the 5th March last, in which you forward copies of a Note and Memorandum from Viscount Aoki, containing the new proposals of Japanese Government in regard to treaty revision.

These proposals, the general nature of which Viscount Aoki had been good enough to indicate some time before, have received the careful consideration of Her Majesty's Government. Briefly speaking, they may be said to involve the withdrawal of all special arrangements and assurances as regards the administration of justice to British subjects, the refusal or postponement of their admission to hold real property, and a reservation of a right to enact special measures in regard to them, provided such measures apply to all foreigners in general.

Her Majesty's Government do not wish in any way to question the cogency of the reasons which are assigned by the Japanese Government for the cause which they have thought it right to adopt. But it cannot be denied that the new proposals constitute a very serious departure from the terms which the Japanese Government themselves put forward at the

beginning of last year, and which have served as the basis of all subsequent negotiations. It must be regarded also as somewhat unfortunate, that while it is now thought necessary to refuse to foreigners any special privileges in regard to jurisdiction as incompatible with the Constitution and representative institutions about to be introduced in Japan, it should be proposed to reserve liberty to subject them to special disabilities or restrictions.

With regard to this latter point, Her Majesty's Government would wish that of Japan to consider seriously whether it would be desirable to introduce into the new Treaties such a clause as they propose. For themselves they see the gravest objections to such a stipulation. It is far more comprehensive in its scope than the provision in the Treaty between England and Russia on which it is said to be based, and goes greatly beyond what is necessary for the purposes for which it is stated to have been framed. It is almost certain to be viewed with suspicion and alarm by the foreign community; nor can Her Majesty's Government see that it would have, as Vis-

count Aoki states, the effect of removing "every possible cause for future discussion or misunderstanding" with other Powers, for no such reservation could be construed as depriving foreign Governments of the right to remonstrate against enactment which seem to them to press unjustly upon their nationals, or to be contrary to the greatest spirit of the Treaty arrangements.

difficulties and complaints which almost necessarily of things, provision should be made to settle those ly desirable that at the inaugulation of the new state be called upon to administer. rates, or of the liberality of the Codes which they will partiality or high qualifications of the native Magisthave not been dictated by any distrust of the imations that the proposals of Her Majesty's Government made abundantly clear in the course of the negotithe extent of their jurisdiction, I hope it has been best systems of jurisprudence, perfected by long pracpossible to diplomatic intervention. arise on such occasions, with as little recourse as As regards the appointment of foreign Judges and But it seemed eminent-Even with the

tice, miscarriages of justice will occasionally occur, and disappointed suitors are apt to believe in such miscarriages on grounds more or less inadequate. It would have been of advantage to both Governments that there should have been a Tribunal to the composition of which even the most prejudiced could take no exception, and to which all such cases would have been referred in the natural course of legal precedure.

give rise to much less embarrassment than as imforeigners without exception or limitation. to foreigners until the new system has been in operamediate but partial exercise will be found for more convenient and that it will Majesty's Government are convinced that this be no difficulty in arranging for its operation to all been had of its working. tion for some little time, and practical experience has pone altogether the extension of Japanese jurisdiction ment believe that the wisest course will be to postmaking such an arrangement, Her Majesty's Govern-Japanese Government see insuperable objections to If, however, for reasons of internal policy, the There would then probably of jurisdiction over Her

foreigners, with concurrent Consular jurisdiction within the foreign settlements.

upon it, should be postponed for a period of not less have been in operation for at least twelve months, the than five years and until the new Courts and Codes sions which the Japanese Government make dependent jurisdiction over British subjects, and all those concessigned at the same time, the extention of Japanese interior with passports but not to reside or trade there give full facilities to British subjects to travel in the Japanese Government engaging in the meanwhile, to and Japanese negotiators have already been able to containing all those provisions on which the British and they see no reason for such a sacrifice. Japanese Government in deprecating the abandonment would propose that a Treaty should at once be signed been obtained by the negotiations of the past year, or indefinite postponement of the results which have Her Majesty's Government entirely agree with the to an agreement, and that by a Protocos, to be They

I incloss drafts of a Convention and Protocol which have been prepared to this intent, and which I should

wish you to communicate to Viscount Aoki, with a copy of this despatch, and to recommand earnestly to his favorable attention.

I am &c.....

(signed) Salisbury

Hugh Fraser Esq.

&c. &c. &c.

附屬書二

英國政府ノ改正條約草案

Confidedtial

Draft Treaty of Friendship and Commerce between Great Britain and Japan.

Her Majesty the Queen of the United Kingdom of Great Britain and Ireland, Empress of India, and His Majesty the Emperer of Japan, being equally desirous of maintaining the relations of good understaeding which happily exist between them, by extending and increasing the intercourse between their respective states, and being convinced that this object cannot better be accomplished than by revising the Treaties hitherto existing between the two countries, have

resolved to complete such a revision, based upon principles of equity and mutual benefit, and, for that purpose, have named as their Plenipotentiaries, that is to say:

Her Majesty the Queen of the United Kingdom of Great Britain and Ireland, Empress of India, _____, and His Majesty the Emperor of Japan, _____.

Who, after having communicated to each other their full powers, found to be in good and due form, have agreed upon and concluded the following Articles:—

Article I.

All rights, privileges, and immunities enjoyed by British subjects under previous Treaties are, in so far as they are not abrogated or modified by the previsions of this Treaty, or of the Protocol signed this day, hareby expressly maintained and confirmed.

Article II

It is agreed by the High Contracting Parties that, in lieu of the Import duties hitherto levied and collected, the duties specified in the Tariff hereunto

annexed may, subject to the provisions of Article III, be levied by the Japanese Government on all goods, the growth, produce, or manufacture of the dominions and possessions of Her Britannic Majesty, upon importation into Japan.

The Japanese Government, however, reserves to itself the right to restrict or temporarily prohibit the importation of any article which, for sanitary reasons, or in view of public security or morals, might offer any danger.

It is understood by the Contracting Parties that the Japanese Government, in the event of its imposing or augmenting any internal duty on sake, shoyu, mirin, or tobacco, may impose a compensatory duty on such articles imported into Japan, provided such compensatory duty, with the customs duty added, shall not exceed the internal tax or duty.

Import duties payable *ad valorem* in Japan shall be calculated on the actual cest of the goods at the place of purchase, production, or fabrication, with the addition of the cost of insurance and transportation from the place of purchase, production, or fabrication,

to the port of discharge, as well as commission, if any exists. The sum thus obtained shall be regarded as the dutiable value of the goods upon which the rate of duty provided in the Tariff shall be paid.

Goods of foreign production or manufacture reimported into Japan, after having been exported therefrom, shall pay import duty in accordance with the Tariff, notwithstanding duty may have been paid upon such goods when originally imported.

Goods of Japanese production or manufacture brought back from foreign countries to Japan shall pay an *ad valorem* duty of 5 per centum.

Article III.

No other or higher duties shall be imposed on the importation into the dominions of His Majesty the Emperor of Japan of any article, the produce or manufacture of the dominions and possessions of Her Britannic Majesty, from whatever place arriving; and no other or higher duties shall be imposed on the importation into the dominions and possessions of Her Britannic Majesty of any article, the produce or manufacture of the dominions of His Majesty the

plants useful to agriculture. protecting the safety of persons or of cattle, or of other prohibitions occasioned by the last provision is not applicable to the sanitary and produce or manufacture of any other country. extend to the importation of the like article, being the into the dominions and possessions of the other, from whatever place arriving, which shall not equally and possessions of either of the Contracting Parties, article, the produce or manufacture of the dominions maintained or imposed on the importation of any other foreign country; nor shall any prohibition be on the like article produced or manufactured in any Emperor of Japan, from whatever place arriving, than necessity This

Article IV.

No other or higher duties or charges shall be imposed in the territories of either of the Contracting Parties on the exportation of any article to the territories of the other than such as are, or may be, payable on the exportation of the like articles to any other foreign country; nor shall any prohibition be imposed on the exportation of any article from the territories

of either of the two Contracting Parties to the territories of the other which shall not equally extend to the exportation of the like articles to any other country.

Article V.

The subjects of each of the Contracting Parties shall enjoy, in the dominions and possessions of the other, exemption from all transit duties, and a perfect equality of treatment with native subjects in all that relates to warehousing, bounties, facilities, and drawbacks.

Article VI.

All goods imported into Japan by British subjects on which the duty shall have been paid according to the Tariff annexed to this Treaty may be conveyed to any Japanese port free of duty, and when transported into the interior shall not, except as herein otherwise provided, be subject to any additional tax, excise or transit duty whatsoever in any part of the Japanese Empire.

Article VII.

ported in the cacks, bottles, cases, boxes, trunks, or addition, be entitled to receive a drawback certificate of export duty, and the importer thereof shall, in such goods shall be allowed to pass the Customs free the date of their importation, exported from Japan, control of the Customs, are, within two years from which have been removed from the custody original import permit shall accompany the application exported to a foreign country; that they are so exprovided that all charges upon the said goods to the for the amount of the import duties paid thcreon, described in the import permit. necessary to determine their identity with the goods and inspection as the Customs authorities may deem time of their exportation, subject to such examination authorities, and that the said goods shall be, at the for drawback of duty, and be retained by the Customs the Customs, without having been opened or unpacked, except by packages, &c., in which they were originally imported, Customs shall have been paid; that they are bond fide When goods of foreign production or manufacture, or with their permission; that the These drawback

certificates shall either be redeemed on demand, or be at any time accepted by the Customs authorities in payment of duties.

Article VIII.

be imported into these ports in Japanese vessels, withdenomination than if such articles were imported in into those ports in British vessels, without being liable of Japan in Japanese vessels may likewise be imported ports of the dominions of His Matesty the Emperor out being liable to any other or higher duties or Her Britannie Majesty in British vessels may likewise into the ports of the dominions and or from any other place such articles come directly from the place of origin ment shall take effect without distinction, Japanese vessels. to any other or higher duties or charges of whatever were imported in British vessels, and reciprocally all charges of whatever denomination than if such articles All articles which are or may be legally imported which are or may be legally imported into the Such reciprocal equality of treatpossessions of whether

In the same manner, there shall be perfect equality

of treatment in regard to exportation, so that the same export duties shall be paid, and the same bounties and drawbacks allowed, in the dominions or possessions of either of the Contracting Parties on the exportation of any article which is or may be legally exported therefrom, whether such exportation shall take place in Japanese or in British vessels, and whatever may be the place of destination, whether a port of either of the Contracting Parties or of any third Power.

Article IX

The coasting trade of both the Coutracting Parties in excepted from the provisions of the present Treaty, and shall be regulated according to the Laws of Great Britain and of Japan respectively. It is, however, understood that British subjects in Japan, and Japanese subjects in the dominions and possessions of Her Britannic Majesty, shhll enjoy in this respect the rights which are, or may be, granted under such Laws to the subjects or citizens of any other country.

A Japanese vessel, laden in a foreign country with cargo destined for two or more ports in the dominions

and possessions of Her Britannie Majesty, and a British vessel, laden in a foreign country with cargo destined for two or more ports in Japan, may discharge a portion of her cargo at one port, and continue her voyage to the other port or ports of destination where foreign trade is permitted, for the purpose of landing the remainder of her original cargo there, subject always to the Laws and Custem-house Regulations of the two countries.

But the Imperial Japanese Government makes the following concession in addition, that British vessels may carry cargoes between any of the ports hereinafter mentioned, namely, Yokohama, Kobé, Hiôgô, Nagasaki, and Hakodate.

Article X.

British subjects shall be entitled to charter ships to Japanese subjects for employment in the coasting trade of Japan, subject, however, to the observance of the following stipulations:—

No British vessels shall be permitted to engage in the coasting trade of Japan under the provisions of this Article except such as are chartered by Japa-

nese subjects alone, or by British and Japanese subjects trading jointly, either in partnerships or Companies. It is, hawever, understood that the fact of a Japanese subject being associated in a business Partnership with one or more British subjects shall not be field to debar his from the advantages conferred under this Article.

Any Japanese subject desiring to charter a British vessel for the coasting trade shall apply in writing to the Customs authorities of the port of charter.

Any Japanese subject desiring to charter a British vessel for the coasting trade shall apply in writing to the Customs authorities of the port of charter, setting forth in his application all the particulars relating to the vessel, so far as it is possible to give them, and the name and nationality of the master. The application shall be accompanied by a draft of the charter-party, to be signed by the owner, master, or agent of the vessel; this draft shall mention the object of the charter, its duration, and the amount of charter-money to be paid. Upon the receipt of this application, the Customs authorities shall, upon the payment of a fee of 50 yen, issue a permit, to be called the "charter-permit."

The term for which British vessels may be chartered

ginal charter. made in the same manner as in the case of the oria further fee of 50 yen, and upon application being a new charter-permit obtained upon the payment of returned to the Curtoms authorities of the port of charter. Expiration of the charter, the charterpermit shall be shall not exceed twelve calendar months. The charter may, howover, be renewed and At the

ring which their charters continue. per ton for every month, or fraction of a month, ducharter tonnage and light dues at the rate of 2 sen vessels shall pay from the date of first clearance under In addition to the foregoing fee, chartered British

shing flag to indicate that the vessels are chartered by Japanese subjects. Chartered British vessels shall carry a distingui-

shall, under no circumstances, be allowed to carry be obliged to carry mails when required to do so by the Japanese postal authorities. mails without permission from the said authorities They shall, in the same manner as Japanese vessels, But such vessels

Chartered British vessels shall only be permitted

prescribed export duties. the vessel was so chartered shall be subject to the goods as may have been shipped at any port while toms authorities of the port of clearance, and all such the charter-permit shall be surrendered to the Custo engage in the coasting trade. When going abroad

be deposited with the Customs authorities. cable, but their charter-permits shall, when in port, Regulations, in so far as such Regulations are appli-Chartered British vessels are subject to the Trade

Article XI.

bound to conform to the Regulations and Tariffs of cargo in order to defray the expenses, he shall be case, however, the master of a merchant-vessel should such as would be payable by national vessels. put to sea again, without paying any dues other than refit therein, to procure all necessary supplies, and to shelter in a port of the other, shall be at liberty to of weather, or by reason of any other distress, to take Contracting Parties which may be compelled by stress be under the necessity of disposing of a part of his Any ship of war or merchant-vessel of either of the

the place to which he may have come.

Consul, or Consular Agent of the nearest district. they shall inform the Consul-General, Consul, Viceoccurrence, or, if there be no such Consular officers, thorities shall inform the Consul-General, Consul, the Contracting Parties should run aground or be Vice-Consul, or Consular Agent of the district of the wrecked upon the coasts of the other, the local au-If any ship of war or merchant-vessel of one of

all measures of salvage relative to Japanese vessels, with the Laws or Great Britain. Her Britannic Majesty, shall take place in accordance wrecked or cast on shore in the territorial waters of accordance with the Laws of Japan; and, reciprocally, waters of the Japanese Empire, shall take place in vessels, wrecked or cast on shore in the territorial All proceedings relative to the salvage of British

been cast into the sea, or the proceeds thereof, if sold saved therefrom, including those which may have belonging thereunto, and all goods and merchandize parts thereof, and all furnitures and appurtenances Such stranded or wrecked ship or vessel, and all

> such owners or agents are not on the spot, the same as well as all papers found on board such stranded preservation of of the country, and such Consular officers, owners, shall be delivered to the respective Consuls-General, owners or their agents, when claimed by them. If or wrecked ship or vessel, shall be given up to the shall be exempt from all the duties of the Customs payable in the case of a wreck of a national vessel. salvage or other expenses which would have been or agents shall pay only the expenses incurred in the claimed by them within the period fixed by the Laws Consuls, The goods and merchandize saved from the wreck Vice-Consuls, or Consular Agents upon being the property, together with

shall pay the ordinary duties. unless cleared for consumption, in which case they

agent of the owner, is not present, to lend their ofauthorized, in case the owner or master, or other Consuls, Vice-Consuls, and Consular Agents shall be territories of the other, the respective Consuls-General, the Contracting Parties is stranded or wrecked in the When a vessel belonging to the subjects of one of

ficial assistance in order to afford the necessary assistance to the subjects of the respective states. The same rule shall apply in case the owner, master, or other agent is present, but requires such assistance to be given.

Article XII:

If any seaman should desert from any merchantship belonging to either of the Contracting Parties within the territory of the other, the local autherities shall be bound to give every assistance in their power for the apprehension and handing over of such deserter, on application to that effect being made to them by the Consul of the country to which the ship of the deserter may belong, or by the deputy or representative of the Consul.

It is understood that this stipulation shall not apply to the subjects or citizens of the country where the desertion takes place.

Article XIII.

British vessels entering Japanese ports shall pay tonnage and light dues at the time of entry at the

Custom-house according to one of the following rates at the option of the masters, owners, or agents of such vessels:—

- 1. 25 sen per ton for one Japanese port of call only
- 2. 30 sen per ton for a period of two months, with the option to call at any number of Japanese ports, but at no foreign port or ports.
- 3. 80 sen per ton for a period of six months, with the option to call at any Japanese or foreign port or ports.
- 4. Mail Companies may, if they desire, free their vessels from tonnage and light dues for seven consecutive schedule-voyages on paying a duty of 90 sen per ton on the average tonnage of the vessels making such voyages. This payment must be made at the time of the first entry. It shall be calculated according to the schedule arrangement of the Company, on condition that reimbursement shall be made either by the Customs authorities or by the Mail Companies, as the case may be, at the time of the seventh entry, of any excess or deficiency in the dues paid, arrising from any changes which may have taken place in

the vessels employed.

The net registered tonnage of vessels, as shown by the certificate of registry or other papers, shall be taken as the basis on which tonnage and light dues shall be calculated.

The following vessels shall be exempt from the payment of tonnage and light dues in Japan:—

- Men-of war.
- Pleasure yachts and pilot-boats duly licensed by the Japanese Government.
- 3. Fishing-vessels having no cargo on board.
- 4. Vessels of less than 20 tons burden.
- 5. Vessels putting into port in distress or for repairs, provided they do not engage in trade.
- 6. Vessels entering and clearing in ballast.
- 7. Vessels leaving port within forty-eitht hours after anchoring, provided they do not land, ship, or tranship cargo, or land or take on board passengers or mails. Such vessels shall, however, pay a Customs fee of 15 yen.

The fees hitherto paid on the entrance and clearance of British vessels in Japanese ports shall be no longer

levied.

Article XIV.

No duties of tonnage, harbour, pilotage, lighthouse quarantine, or other similar or corresponding duties of whatever nature, or under whatever denomination, levied in the name or for the profit of Government, public functionaries, private individuals, Corporations, or establishments of any kind, shall be imposed in the ports of the dominions and possessions of either country upon the vessels of the other country which shall not equally and under the same conditions be imposed in the like cases on national vessels in general. Such equality of treatment shall apply reciprocally to the respective vessels, from whatever port or place they may arrive, and whatever may be their place of destination.

Article XV.

Each of the Contracting Parties may appoint Consuls-General, Consuls, Vice-Consuls, Pro-Consuls, and Consular Agents in all the ports, cities, and places of the other, except in those where it may not be con-

to recognize such officers

being made likewise in regard to every other Power regard to one of the This exception, however, shall not be made in Contracting Parties without

to Consular officers of the most favoured nation. immunities which are, or may hereafter be, granted tions, and shall enjoy all privileges, exemptions, and Consuls, and Consular Agents may exercise all fune-Consuls-General, Consuls, Vice-Consuls, Pro-

Article XVI.

of the most favoured nation. be placed in all respects by the other on the footing Party; it being their intention that each country shall the Government or subjects of the other Contracting shall be extended immediately and unconditionally to Government, subjects, or citizens of any other State has actually granted, or may hereafter grant, to the favour, or immunity which either Contracting Party concerns commerce and navigation, any privilege, The Contracting Parties agree that, in all that

Article XVII.

the same. lations, shall be regarded as forming a portion of the Government Bonded Warehouse, and Harbour Regulations annexed to this Treaty, namely, the Trade, The High Contracting Parties agree that the Regu-

Article XVIII.

applicable, so far as the Laws permit, to all the is to say, except to Majesty, excepting to Colonies and foreign The stipulations of the those hereinafter named, that possessions of Her Britannic present Treaty shall be

India.

The Dominion of Canada. Newfoundland.

The Cape.

Natal

New South Wales

Victoria.

Queensland

Tasmania:

Western Australia. South Australia.

New Zealand

date of the exchange of ratifications of the present Representative at Tôkiô, within two years from the Treaty. the Japanese Government by Her Britannic Majesty's half notice to that effect shall have been given to named Colonies or foreign possessions on whose be-Treaty shall be made applicable to any of the above-Provided always, that the stipulations of the present

Article XIX.

the exchange of ratifications. ture, and shall remain in force for twelve years after take place at Tokio within one year after its signaafter the exchange of the ratifications, which shall The present Trarty shall come into force one month

notice to the other of its intention to terminate this the date of the exchange of the ratifications, to give at any time after eleven years shall have elapsed from and determine such notice is given this Treaty shall wholly coase Treaty, and at the expiration of twelve months after Either High Contracting Party shall have the right,

> English text shall decide. same meaning and intent, but in case of conflict the the English language. two copies being in the Japanese, and two copies in have signed and sealed this Treaty in quadruplicate, In witness whereof the respective Plenipotentiaries All of these copies have the

to the of the Christian era Done at the city of Tôkiô, this month day of year of Meiji, corresponding in the year day of the

附屬書三

英國政府ノ議定書案

Draft of Protocol.

subjects in Japan, and such other matters as it is also in regard to the question of the jurisdiction exercised considered advisable in the interests of both countries under existing Treaties by Great Britain over her being desirous of concluding an equitable arrangement the Government of His Majesty the Emperor of Japan, Great Britain and Ireland, and Empress of India and The Government of Her Majesty the Queen of

to regulate, apart from the Treaty of Commoree and Navigation signed this day, have, through their respective Plenipotentiaries, agreed upon the following stipulations:—

1. It is agreed between the two Governments that the Consular jurisdiction exercised by Great Britain over her subjects in Japan shall continue to be exercised for a minimum period of fieve yeary; that if, at the expiration of that period, the Japanese Codes and Laws now in process of elaboration shall have been promulgated and have been actually in operation for a term of twelve months, the Consular jurisdiction of Great Britain in Japan shall thereupon cease to be exercised, but that otherwise the said jurisdiction shall continue until the aforesaid torm of twelve months during which the Codês shall have been in operation has elapsed.

It is further agreed between the two Governments that, in anticipation of the cessation of the Consvlar jurisdiction, an arrangement shall be entered into between Her Majesty's Representative in Tôkiô and the Japanese Covernment, with respect to the future

tenure of land in Japan by British subjects, the incorporation of the existing foreign Settlements with Japanese communes, and the transfer of Municipal funds on the basis of Article XXII of the draft Treaty proposed by the Japanesn Government in December 1888; and that with the cessation of British Cor. lar jurisdiction all privileges and immunities in regard to jurisdiction which British subjects in Japan may have enjoyed under previous Treaties shall thereupon cease to exist.

2. It is agreed betwoen the two Governments that the opening of the whole of Japan, unconditionally, to British subjects shall take effect from the date of the cessation of British Consular jurisdiction; that from the same date there shall be entire freedom of commerce and navigation between the dominions and possessions of the two Governments; that British subjects in Japan and Japanese subjects in Great Britain shall, in regard to all rights of residence, travel, and the possession of real estate, and in all matters of jurisdiction, taxation, exemption from military service, or contributions in liou thereof, and bille-

ting, enjoy the same rights, privileges, and immunities, and shall be subject to no higher imposts or charges, than native subjects or the subjects or citizens of the most favoured nation; that the subjects of each Government shall enjoy in the territories of the other entire liberty to conscience, the right of private or public exercise of their worship, and the right of burying their respective countrymen according to their religious customs in such suitable or convenient places as may be established or maintained for that purpose—subject always to the Laws and Regulations of each country.

3. The Japanese Government, pending the opening of the country to British subjects, agrees to extend the existing passport system in such a manner as to allow British subjects, on the production of a certificate of recommendation from the British Representative in Tôkiô, or from any of Her Majesty's Consuls at the open ports in Japan, to obtain, upon application, passports available for any part of the country and for any period not exceeding twelve months, from the Japanese Foreign Office in Tôkiô, or from the

chief authorities in the Prefecture in which an open port is situated; it being understood that the bearers of passports thus issued shall not engage in commercial transactions while in the interior; the necessary Regulations to be determined by Her Majesty's Representative in Tôkiô and the Japanese Minister for Foreign Affairs.

- 4. The Japanese Government undertakes, before the cessation of British Consular jurisdiction in Japan, to join the International Conventions for the Protection of Industrial Property and Copyright, and to pass Laws giving full effect to these Conventions.
- 5. The Japanese Government, in view of the altered conditions of trade which may be created by the operation of the revised Tariff annexed to the Treaty of Commerce and Navigation signed this day, undertakes to establish a system of private bonded warehouses on the basis of the Regulations framed during the Conference for the revision of the Treaties in 1886–87, should the necessity for the establishment of this system arise.

六八四

三六六 明治二世年七月七日 英國公使ョリ

改正書類機密扱ニ關スル件

私信譯文)

日實施シ易キ方案へ之ヲ受納セラルヘシト信用致候條約改正ノ義ハ業已ニ充分研究シテ餘ス所ナキカ故ニ拙者ないと閣下ノ同役ナル閣員ハソースペリ侯カ本件ニ關シ(或及と閣下ノ同役ナル閣員ハソースペリ侯カ本件ニ關シ(或ル困難ナル事情ニ對シテ)出來得ヘキ丈ケ日本ノ要求ニ應ル困難ナル事情ニ對シテ)出來得ヘキ丈ケ日本ノ要求ニ應ル困難ナル事情ニ對シテ)出來得ヘキ丈ケ日本ノ要求ニ應ル困難ナル事情ニ對シテ)出來得ヘキ丈ケ日本ノ要求ニ應

青木子閣下

市八百九十年七月十五日

中八百九十年七月十五日

中八百九十年七月十五日

中八百九十年七月十五日

三六七 明治二三年七月二十日 英國公使宛

改正書類領收ノ件

(私信)

閣下ノ公翰及私信ヲ接受致候謹啓陳者去ル十九日ガツビンス氏ヲ經由シ附屬書類ト共ニ

込ヲ通知シ得ル迄ハ幾許カノ時日ヲ費スヘシト存候供スヘシ併至急ノ取扱ヲ爲スモ拙者カ閣下へ帝國政府ノ見拙者ハ成ルヘク速カニ貴政府ノ修正案ヲ帝國政府ノ展覽ニ

二新提議案ニ於テ友諠及ヒ寬裕ナル精神ヲ露示セラレタルト雖トモ玆ニ懇信ナル意味ヲ以テソースベリ侯カ甘書翰竝拙者ハ勿論帝國政府ノ返答ノ何タルヤヲ前以テ知ル能ハス

ハ此上ニモ際限ナキ護與ヲ要求シ若クハ充分且久

敬具室シ及其爲メニハ總テノ手段ヲ盡シテ漏洩ヲ豫防可成致候ニシ及其爲メニハ總テノ手段ヲ盡シテ漏洩ヲ豫防可成致候新案ニ關シデハ拙者ハ閣下ト共ニ充分機密ヲ保ツコトヲ切コトハ拙者ノ犬ニ喜悅スル所ナル旨ヲ開陳致候

明治二十三年七月二十二日

青木周藏

フレザー閣下

三六八 明治二三年九月三日 英國公使宛

英國政府ノ對家ニ關スル件

> プラ妨ケサルヘシト信用致候 掛者ハ帝國政府ノ提議ハ毫モ本問題ノ迅速且ツ滿足ナル結 雖トモ右修正ハ悉ク緊要且重大ナルモノニ非ラサルニ付キ 修正ヲ提出スルコトヲ請求スルノ必要ヲ感スルナリ然リト

柱臨アランコトヲ希望致候ニシテ若シ御妨ケナクンハ來ル十六日午前十一時本省ニ御ニシテ若シ御妨ケナクンハ來ル十六日午前十一時本省ニ御活コ要スルヤノ意思ヲ閣下ニ御通知致度存候ニ付閣下は満人其提議修正ノ性質及目的又ハ何故ニ帝國政府ハ此等

帝國政府ノ決意ヲ御通知申スト同時ニ於テ拙者ハ貴政府ノ帝國政府ノ決意ヲ御通知申スト同時ニ於テオ者ハ明治ニ十三年九月十三日

外務大臣子 青 木 周

英國特命全權公使ヒウ、フレーザー殿下

青木外務大臣時代

對英交涉

五六八

三六九 明治三宝年九月宝日 青木外務大臣宛英國公使ョリ

改正商議ノ爲メ登廳方ニ關シ回答ノ件

悉候就テハ拙者ハ右御指旨ノ時日ヲ以テ趨參候事欣喜ノ至 リニ存候 ル十六日午前十一時二貴省二罷出候樣御招待被下委曲致領 シテ承認セラルヘキ旨及右ノ提議ニ付商議ヲ開ラク爲メ來 へ差出置候所ノ條約改正ニ闘スル提議ヲ以テ談判ノ基礎ト 今般貴帝國政府ニ於テハ拙者カ去ル七月十五日ヲ以テ閣下 謹啓陳ハ昨日付閣下ノ書翰ヲ接受致候 敬具

千八百九十年九月十三日

フ ゖ

外務大臣子 靑 木 周 藏 殿

(右原文)

Tokio 13th September 1890

Monsieur le Minister

me that His Imperial Majesty's Government accept Your Excellency's Note of yesterday's date, informing I have the honour to acknowledge the receipt of

> 16th Instant at Eleven o'clock in the forenoon. posals at the Department for Foreign Affairs on the Excellency for the purpose of discussing those proon the 15th July last, and inviting me to meet Your Revision which I had the honour to lay before as basis for negotiation the proposals for Treaty you

more the assurance of my highest consideration at the time indicated and I beg to offer to you once I shall be very happy to wait on Your Excellency

Hugh Fraser

His Excellency

Viscount Aoki Shiuzo

&c. &c. &c.....

Foreign Office.

三七〇 明治二三年育二日 河瀬駐英公使宛(往電)青木外務大臣ョリ

我提案ヲ英國側ニテ商業會議所ニ回議

シタリヤ照會ノ件

From Aoki to Kawase

beration of Chamber of Commerce? submitted our treaty revision proposals to the deli-No. 241. Is it true that British Government has

(Via Petersburg)

September 12, 1890. Aoki.

三七 明治二三九月九日 青木外務大臣宛

我新寏英國商業會議所ノ議ニ附セラレタリヤ

否ヤ問合セニ關シ回答ノ件

第五號

訪致候得共當地愈議所議員ノ内ニハ或ハ粗承知致候者モ有 ノ承諾ニハ反對ノ決議ヲ得タリトノ事モ有之候ニ付種々探 會議所ニ於テ我帝國提出改正新案ヲ會議ニ附シ逐ニ無制限 無之候得共此頃ルーター電報ニ依レハ横濱外國居留地商法 有之哉否」御問合之趣敬悉右ハ當國ニ於テハ更ニ承及候事 條約改正新案ヲ其商法命議所之命議ニ下附セリト 本月十二日露京經由電信ヲ以テ「英政府ニ於我政府提出之 ノ情況ニ候得共事件秘密ニ屬シ候趣ヲ以其確實ヲ洩 ハ事實ニ

法會議所ノ會議二附セリトノ慣例ナリト承及候右ハ事實ニ v 二英政府訓令ノ趣ハ日本政府へ傳達セリトノ電報在東京フ 政府ニ於テ承諾相成候哉ハ目下ノ問題ニ可有之候付テハ旣 テハ他條約國ノ意見ヲ斟酌シ起草致候儀ニハ有之候得共貴 無之二付商務院へモ相廻不申候得共唯々領事裁判權ニ關シ セリ其中税目ニ關シテハ貴政府提出ノ案ニ對シ別ニ異見モ 哉今般英國政府ニ於テハ貴國ニ向ヒ新ニ條約改正案ヲ提出 認メ候分ニ限リ候云々同氏又云既ニ貴官御承知ニモ有之候 シ同院ノ意見ヲ質シ候義ニ有之候但當省ニ於手續キ緊要ト 候哉ト相尋候處同氏云否稅目案ハ秘密ヲ以テ商務院へ相廻 村書記官ヨリ貴省ニ於テハ通商條約改正ノ筋ハ稅目案ハ商 へ遣シ次官サー・トマス・サンダーソンニ面會談話ノ末島 他ニ探偵ノ途モ相盡候ニ付他事ニ託シ島村書記官ヲ外務省 ニ不如トノ事迄相分リ候得共此方法モ余リ得策ニ無之乍去 テ秘密ノ取扱ニ無之ニ付同省々員ニ就キ相訊シ候事ノ便利 於テ事務所理即稅目案ヲ命議所ニ交附スル等ノ順序ハ決シ 海關稅目案ニ限リ該會議所ノ下問ニ附セシ慣例ニ付同省ニ シ候老無之付テハ英國外務省ニ於テハ通商條約改正ノ節 ーザー公使ヨリ領收致候ニ付次便ニハ貴公使ニ於テモ我

明治二十三年九月十九日

在英特命全權公使 河 瀨 眞 考

外務大臣子 青 木 周 藏 殿

三七二 明治二三年九月中

青木外務大臣提出修正草案

註一 」ハ削除、()ハ修正

大不列顛國 通商及航海條約草案大日本國

正ヲ完了スルコトニ決定シ之レカ爲メニ日本國皇帝陛下ハルコトヲ確信シ公正ノ主義ト互相ノ利益ヲ基礎ト爲シ其政ルコトヲ確信シ公正ノ主義ト互相ノ利益ヲ基礎ト爲シ其政とハ光來兩國間ニ存在スル所ノ條約ヲ改正スルニ如カサ とれ後來兩國間ニ存在スル所ノ條約ヲ改正スルニ如カサ というのでは、一次の一方のでは、一方には、一方のでは

示シ其良好妥當ナルヲ認メ以テ左ノ諸條ヲ合議決定セリ各其全權委員ニ任命セリ因テ右全權委員ハ互ニ其委任狀ヲ何某ヲ大不列顚愛蘭聯合王國及ヒ印度國皇帝陛下ハ何某ヲ

第一個

時之ヲ禁止スルノ權ヲ有スヘシ時之ヲ禁止スルノ權ヲ有スヘシ時之ヲ禁止スルノ權ヲ有スヘシ時之ヲ禁止スルノ權ヲ有スヘシ時之ヲ禁止スルノ權ヲ有スヘシ時之ヲ禁止スルノ權ヲ有スヘシ時之ヲ禁止スルノ權ヲ有スヘシ

日本國政府ハ酒、醬油、味淋「或ハ」煙草(或ハ製薬)ニ日本國政府ハ酒、醬油、味淋「或ハ」煙草(或ハ製薬)ニ目本國政府ハ酒、醬油、味淋「或ハ」煙草(或ハ製薬)ニ

出地或ハ製造地ヨリ陸揚港ニ至ルマテノ保險料及に運賃ヲ其仕入地、産出地或ハ製造地ニ於ケル實價ニ其仕入地、産日本國ニ於テ輸入貨物ニ賦課スヘキ從價稅ヲ算定スルニハ

課スヘシ物ノ税價ト定メ此税價ニ對シテ税目ニ對ムル所ノ稅金ヲ賦物ノ稅價ト定メ此稅價ニ對シテ稅目ニ對ムル所ノ稅金ヲ賦加第シ又手數料アルトキハ之ヲモ加第シ其總額ヲ以テ該貨

トス 税シタルニ拘ハラス更ニ税目ニ從テ輸入税ヲ納ムヘキモノヲ日本國ニ輸入スルトキハ最初輸入ノ時該物品ニ對シテ納外國ノ生産物或ハ製造品ヲ日本國ヨリ輸出シタル後再ヒ之

日本國ノ生産物若クハ製造品ヲ外國ヨリ日本國へ積展スト

第二條

不列顛國皇帝陛下ノ版圖內ノ生産或ハ製造ニ係ル物品ヲ 造ニ係ル同種ノ物品ニ課スル所ノ税ニ異ルカ或ハ之ョリ 列顚皇帝陛下ノ版圖内ニ輸入スルモ總テ別國ノ生産或 陛下ノ版圖內ノ生産或ハ製造ニ係ル 他ノ一方ノ版圖内ノ生産或ハ製造ニ係ル同種ノ物品ヲ何ハ別國ノ生産或ハ製造ニ係ル物品ノ輸入ヲ禁止セサル間 ノ地ョリ日本國皇帝陛下ノ版圖内ニ輸入シ又日本國皇帝 税ヲ課セラルルコトナカルヘシ又締盟國ノ一方ノ版圖 地 =1 ッ 輸入スル コト ヲモ禁止スルコト 物品ヲ何レノ地ヨ ナカル へ シ リ不 但此 の製 独

ラサルモノトス保護スルニ必要ナル衞生上及ヒ其他ノ禁止ニハ適用スヘカ宋段ノ條別ハ人民、音類或ハ農業ニ有用ナル草木ノ安全ヲ

第三條

多額ノ税金叉ハ雜費ヲ賦課スルコトナカル 賦課シ又ハ賦課スルコトアルヘキ所ニ異サルカ或ハ之ョリ 品ヲ輸出スルニハ他ノ各外國へ輸出スル同種物品ニ對 兩締盟國ノ一方ハ版圖內ヨリ他ノ一方ノ版圖內へ一切 セサル間ハ他ノ一方ノ版圖内 ノ一方ノ版圖内ニ於テ他ノ各外國ニ向ヒ物品ノ輸出ヲ禁止 ヲモ禁セサルヘシ へ同種ノ物品 言ヲ輸出ス ヘシ又兩締盟國 ル = 1 シ ŀ テ

第四條

ニ就キ全ク内國臣民ト同一ノ待遇ヲ受クヘシ地涌關稅ノ免除、盧入、特別保護及ヒ稅金拂戾等ノ諸事項兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖內ニ在リテ總テ內

第五條

ヲ他ノ日本港へ運輸スルコトヲ得ヘク且「之ヲ内地ニ輸送本條約附錄稅目ニ從ヒ關稅ヲ約メタルモノハ無稅ニシテ之不列顧國臣民カ日本國へ輸入シタル所ノ一切ノ貨物ニシテ

コト ノ地ニ於テモ何等ノ追加税、製産税或ハ通關税ヲ賦課 ナキ シ」本條約ニ他ノ規定アル場合ヲ除キ日本帝國内 モノトス

定スル爲ヌ税關ニ於テ必要ト認ムル所ノ檢查ヲ行フヘキ ノ時右輸入免狀ニ記載セル貨物ト同一ノモノタルヤ否ヲ査ヲ其稅金拂戾願書ニ添ヘテ稅關ニ返納シ且該貨物ハ其輸出ハ此限ニ在ラス)之ヲ輸出シ最初輸入セシトキノ輸入免狀 切ノ徴收金ヲ税關ニ納メ該貨物ハ實際外國へ輸出スル 税金拂戾證書ヲ受領スルコト 出スルトキハ該貨物ハ輸出税ヲ納メスシテ涌關スル ヘシ且其輸入人ハ該貨物ノ爲メニ納メタル輸入税額ニ對 ノトス叉右税金拂戾證書へ請求ニ應ノテ貨幣 『カスノテ(税關ニテ開キ或ハ税關ノ許可ヲ得テ開キタル・ルヘク且其最初輸入ノタルママ其樽、瓶、箱或ハ包裝ヲバノ徴收金ヲ税關ニ納メ該貨物ハ實際外國へ輸出スルモノ レタルモノヲ其輸入ノ日ヨリ二箇年内ニ日本國ヨリ [ノ生産物若クハ製造品ニノテ旣ニ税關ノ看守及ヒ管理 モ税金納付ノ代ト シテ税關へ受取ル ヲ得ヘノ但該貨物 ï 引換へ或 ^ ` -關スル アラ許 -モ 2 ス

諸權利ヲ享有スルモノトス 臣民或ハ人民ニ許與セラレ叉ハ許與セフル ル不列顛國臣民ハ此事項ニ關シうハ右法律ニ因テ他ノ外國 ス然レトモ不列顛國ニ於ケル日本國臣民又ハ日本國ニ於ケ 日本國及び大不列顛國ノ法律ニ從ヒ之ヲ規定スヘキモノト ノ沿海貿易ハ本條約二於テ規定スルノ限ニ在 ル ルコトアル ヘキ ラス

船舶ハ仕向港ノーニ於テ其積荷ノ一部ヲ陸揚シ而シテ其最 間ニ荷物ヲ運搬スル 列顛國船舶ハ横濱、「兵庫」、神戸、長崎「及と函館」 然レトモ日本帝國政府ハ右ノ外左ノ讓與ヲ爲スヘシ即チ不 兩國ノ法律及ヒ税關規則ニ從フヘキヘキモノト レタル他ノ一港若クハ敷港へ進航スルコトヲ得ヘシ但常 上ノ港へ仕向ケタル荷物ヲ外國ニ於テ積載シタル不列顧國 物ヲ外國ニ於テ積載シタル日本國船舶及ヒ日本國ノ二個以 不列麒國皇帝陛下ノ版圖内ノ二個以上ノ港へ仕向ケタル帯 積載シタル貨物ノ剩餘ヲ陸揚スル爲メ外國貿易ヲ許 コトヲ得ル Ŧ ノト ス ス 諸港ノ サ =

不列顛國臣民ハ日本國沿海貿易ノ用ニ供スル爲メ日本國臣

青木外務大臣時代

對英交涉

三七二

ルヲ得ルコトアルヘキ一切ノ物品ハ不列顧船舶ヲ以テ之ヲ港ニ於テ日本國船舶ヲ以テ法律上輸入スルヲ得或ハ輸入ス キモノトス シ 或ハ賦課ヲ負擔スルヲ要セス又日本皇帝陛下ノ 船舶ヲ以テ輸入セルト同一ニ何等ノ餘分若クハ特種ノ稅金 法律上輸入スルヲ得或ハ輸入スルヲ得ルコトアルヘキ 不列顛國皇帝陛下ノ版圖內ノ諸港ニ於テ不列顛船舶 3 リ來ルト他ノ地方ヲ經テ來ルトニ 而シテ此相互平等ノ待遇ハ各方ノ物品カ直接二其生産 餘分若クハ特種ノ稅金或ハ賦課ヲ負擔スルヲ要セサル 港ニ輸入スルモ日本國船舶ヲ以テ輸入セルト同一ニ 日本國船舶ヲ以テ之ヲ同港ニ輸入スルモ不列顛國 關セス均シク實行ス 版圖内ノ諸 ヲ以 ル何等 一切

ノトス ヲ ス 右同様ニ輸出物品ニ關スル待遇モ充分平等ナラサ 輸出税ヲ拂ヒ特別保護ヲ受ケ若クハ拂戾稅金ヲ得ヘキ 海港タルトヲ論セス兩締盟國ノ版圖內ニ於テハ總テ同一 論セス又ハ其輸送地ハ各締盟國版圖內ノ海港タ 各物品ハ日本國又ハ不列顛國孰レノ船舶ヲ以テ輸出スル 卽チ法律上輸出スルヲ得或ハ輸出スルヲ得ルコトア ルト ル可 別國 iv カ ^ ラ

民ニ船舶ヲ貸與スルコトヲ得ヘシ但左ノ約款ヲ遵守ス ヺ

許サレ ルルモ妨ナキモノト 商業ヲ爲ス場合ト雖トモ本條ニ據リ大不列顛國船舶 リ)日本國臣民ハー名若クハ數名ノ大不列顚國臣民 ス時」ノ外本條ノ規定ニ從ヒ日本國沿海貿易ニ從事スル 凡ソ不列顛國船舶へ獨リ日本國臣民ノミニテ傭入レタ 「或ハ兩締盟國臣民カ共同組合若クハ會社ヲ結テ商業ヲ爲 サルモノトス但(大不列顛國領事裁判權廢止 ス ラ傭入 ト組合 ノ目 N 3 ヲ

圓ノ手敷料ヲ納メシメタル上ニテ船舶傭入觅狀ト 、文ニハ傭入ノ目的、期限及ヒ其傭入ノ爲メニ拂フヘキ金額 **理人ノ署名スヘキ傭入契約書ノ案文ヲ添へ差出スヘシ其案** 凡ソ日本國臣民ニシテ沿海貿易ノ爲メ不列顚國船舶ヲ傭入 ヲ記載スルヲ要ス税關ニ於テ其願書ヲ受領スルト ノ姓名及ヒ國籍ヲ記載シ且之ニ該船舶ノ持主、船長或ハ代 シ其願書ニハ其船舶ニ關スル事項ヲ可成詳細ニ認メ其船長 V ント欲スルモノハ書面ヲ以テ其傭入港ノ稅關へ願出ツヘ 狀ヲ下附ス . ヘ シ 丰 八五十 ス ル

不列巓國船舶ヲ傭入 N ヘキ 期限ハ十二箇月ヲ超過 ス ^ 力 ラ

ラ受クルコトヲ得ヘシ 増合ニ於ケルト同様ノ願出ヲ爲ストキハ更ニ船舶傭入免狀へシ然レトモ更ニ五十圓ノ手敷料ヲ納メ最初傭入ヲ爲セルス傭入滿期ノ時ハ其船舶傭入免狀ヲ傭入港ノ稅關へ返納ス

税及ヒ燈税ヲ納ムヘシー個月ニ潚タサルトキモ亦同ショリ起リ其傭入期限ノ間每月一噸ニ付二錢ノ割合ヲ以テ頓傭入不列顚國船舶ハ前掲手數料ノ外傭入後初メテ出港ノ日

ヲ表示スル所ノ旗章ヲ揭クヘシ 傭入不列顚國船舶ニハ其日本國臣民ノ傭入ニ係ルモノタル

モ驛遮廳ノ許可ナクシテ郵便物ヲ搬送スルヲ得サルモノトシ郵便物ヲ搬送スルノ義務アルヘシ但如何樣ノ事情アリト傭入不列顚國船舶ハ日本國船舶同樣日本驛遞官廳ノ需ニ應

ル貨物アラハ之ニ對シ定規ノ輸出税ヲ納Aヘシ 港ノ税關へ返納シ其傭入期限中ニ或ル海港ニ於テ船積シタノトス若シ外國へ航行スルトキハ其船舶傭入免狀ヲ其出帆 ノトス若シ外國へ航行スルトキハ其船舶傭入免狀ヲ其出帆

ヲ守ルヘシ但其船舶傭入免狀ハ滯港中之ヲ稅關ニ預ケ置ク傭入不列顛國船舶ハ貿易規則ノ適用シ得ラルヘキ限リハ之

ニ關スル救助ノ處分ハ不列顛國法律ニ從ヒ之ヲ爲スヘシ

モノトス

きょう

圖內ノ海上ニテ難破シ若クハ海岸ニ乘上ケタル日本國船舶ニをヲ為スヘク又互相ノ主義ニ基キ不列顚國島帝陛下ノ版年、領事、副領事又ハ領事代理へ其旨ヲ通知スヘシ 若シ該地方ニ 領事、計算の以の、 事、領事、副領事又ハ領事代理へ通知スヘシ 事、領事、副領事又ハ領事代理へ其旨ヲ通知、 事、領事、副領事又ハ領事代理へ通知、 事、領事、副領事及ハ領事代理へ通知、 事、治事・刑領國治・一方ノ沿岸ニ於 所為盟國ノー方ノ軍艦或ハ商船ニシテ他ノ一方ノ沿岸ニ於 所為盟國ノー方ノ軍艦或ハ商船ニシテ他ノ一方ノ沿岸ニ於

他ノ費用ノミヲ支拂フヘキモノトス 他ノ費用ノミヲ支拂フヘキモノトス 他ノ費用ノミヲ支拂フヘキモノトス 他ノ費用ノミヲ支拂フヘキモノトス 他ノ費用ノミヲ支拂フヘキモノトス 他ノ費用ノミヲ支拂フヘキモノトス 他ノ費用ノミヲ支拂フヘキモノトス

捌ク場合ニハ通常ノ税金ヲ納ムルヲ要スルモノトス捌クニ非サレハ一切ノ關税ヲ觅除スヘシ伹消費ノ爲メニ賣難破船ヨリ救上ケタル貨物及ヒ商品ハ消費ノ爲メニ之ヲ賣

與フルヲ要スル場合ニハ亦適用スヘキモノトス

第十一條

カラセルモノトス此約款ハ右海員ノ逃亡シタル國ノ臣民ナルトキハ適用ス

第十二條

撰フ所ニ任セ左ノ税率ノーニ從ヒ噸税及ヒ燈税ヲ納ムヘシ從ヒ)税關へ入港屈ヲ爲ス時ニ其船長、持主或ハ代理人ノ日本國各港ニ進入スル不列顚國船舶ハ〈第十三條ノ條欵ニ

一 二箇月内ニ日本ノ敷港ニ入港シ外國ノ一港若クハー 單ニ日本ノ一港ニ到ルトキハ毎噸二十五錢

數

- キ県込ナレハ右期限ニ對シ毎噸八十鐘 ニ 六箇月内ニ日本或ハ外國ノ一港若クハ敷港ニ到ルヘ ニ 六箇月内ニ日本或ハ外國ノ一港若クハ敷港ニ到ルヘ
- 四 郵船會社ニシテ其船舶發着表ニ從ヒ引續キ七回ノ航

青木外務大臣時代

對英交涉

ミセニ

得ヘシニ對シ每順八十錢ノ稅ヲ納メテ之ヲ免カルルコトヲはスルトキハ右七回ノ航海ヲ爲ス諸船舶ノ平均噸數海ヲ爲ス間其船舶ニ對スル噸稅及燈稅ヲ免カレント

キ噸販及ヒ燈税額ヲ算定スヘシ」「船舶登錄證書指クハ其他ノ書類ニテ證明セル純噸數ニ基

(大不列顛國船舶ノ課稅噸數ハ日本ノ現行船舶測度規則ニ と測定シタル純噸數別定法ヲ採用シ隨テ日本國船舶ハ該國ノ諸 とがテ再測定ヲ免カル、ニ因リ該測定法ニ從ヒ測度シタル共不列顛國船舶モ亦日本ノ諸港ニ於テ再測定ヲ免カルル と対し、このリを測定法ニ役ヒ測度シタル大不列顛國船舶ノ課稅噸數ハ日本ノ現行船舶測度規則ニ に大不列顛國船舶ノ課稅噸數ハ日本ノ現行船舶測度規則ニ

左ノ船舶ハ日本二於テ頓稅及と燈稅ヲ免除スヘシ

一軍艦

勺骨 遊船及ヒ日本政府ヨリ正営ノ認可ヲ受ケタル水先案

三 荷物ヲ積載セサル漁船

四 積量二十噸未滿ノ船舶

サルトキニ限ル 避難又ハ修覆ノ爲メ入港シタル船舶但商業ニ從事

若クハ郵便物ヲ陸揚シ或ハ搭載セスシテ投錨後四十七 碇泊中貨物ノ陸揚、船積或ハ船移ヲナサス又ハ船客六 荷物ヲ積載セスシテ入港及出港スル船舶

手數料へ以後徴收セサルヘシ是迄日本港ニ於テ不列顚國船舶ノ納メ來レル入港及び出港

テ金十五圓ヲ納ムヘシ

八時間内ニ出港スル船舶但右船舶へ税關手敷料ト

第十三條

ハ兩締盟國ノ一方ノ狀圖內ノ諸港ニ於テ他ノ一方ノ船舶ニ檢疫其他何タル名義ヲ以テスルヲ論セス同種同質ノ各課稅ハ名義ニ於テ課スル各噸稅、港稅、水先案內料、燈臺稅、政府、官吏、一私人、會社若クハ其他ノ施設等ノ利益若ク

クハ何處ニ行クヲ論セス相互ニ適用スヘシル待遇上ノ平等ハ各締盟國ノ船舶カ何港何地ヨリ來着シ若自國ノ船舶ニ課スルヨリ餘分ノ額ヲ課セサルヘシ而シテ斯

第十四條

第十五條

キコトヲ兩締盟國ニ於テ之ヲ約定ス卽チ其目的ハ兩締盟國ノ政府、臣民或ハ人民ニモ之ヲ直接且條件ナシニ許與スヘ民ニ許與スル所ノ一切ノ特權、殊遇若クハ免除ハ他ノ一方項ニ於テ現時或ハ將來其一方ョリ別國ノ政府、臣民或ハ人爾締盟國ノ版圖內ニ於ケル通商或ハ航海ニ關スル一切ノ事

青木外務大臣時代

對英交涉

三七二

在リトスへ他ノ一方二於テ總テノ場合二付テ最惠國待遇ヲ受クルニ

第十六條

ヲ兩締盟國ニ於テ約定ス「及ヒ港則」ハ本條約ノ一部ヲ成スモノト看做スヘキコト「及ヒ港則」ハ本條約ノ一部ヲ成スモノト看做スヘキコト本條約附錄ノ諸規則卽チ貿易規則(及ヒ)官設 倉 庫規 則

第十七條

用スヘキモノトスノ外總テ大不列顧國皇帝陛下ノ各殖民地及ヒ外國領地ニ適本條約ノ約欵ノ法律ノ許ス限リハ左ニ列擧スルモノヲ除ク

印度

加奈太領地

ニユー、フオントランド

喜望峰殖民地

新南ウイルス

ナ

夕

ル

ウイクトリア

クイーンスランド

タスマニア

ブマニブ

南濠洲

西濠洲

ニユー、ゼーランド

地ニモ之ヲ適用スヘシ皆ヲ日本國政府へ通知スルトキハ其殖民地若クハ海外所屬以二簡年以内ニ東京駐剳大不列顛國皇帝陛下ノ公使ヨリ其條約ノ條欵ヲ適用センコトヲ欲シな條約批准書交換ノ日ヨ然レトモ以上列擧シタル殖民地若クハ海外所屬地ノ内ニ本然レトモ以上列擧シタル殖民地若クハ海外所屬地ノ内ニ本

ルモノヲ維持スルノ効力ヲ有セサルモノトス)特権若クハ免除ニシテ本條約ニ因リ廢止セラレ或ハ牴觸ス行條約ニ因リ日本ニ於テ大不列顛國臣民カ享有スル權利、(然レトモ本條ハ前記ノ殖民地若クハ海外所屬地ノ爲ニ現

第十八條

認スルモノトス以テ廃止シ若クハ變更セサルモノハ總テ特ニ保續シ且ツ確以テ廢止シ若クハ變更セサルモノハ總テ特ニ保續シ且ツ確と免除ニシテ本條約若クハ本日調印シタル議定書ノ條款ヲ從前ノ諸條約ニ因リ不列顚國臣民カ享有セル權利、特權及

第十九條

何月何日ョリン「調印後一年間ニ東京ニ於テ批准シ其 批 准本條約ハ(明治二十何年何月何日卽チ西曆千八百九十何年

後一箇月 有スル 兩締盟國ノ何レノ一方ニテモ モノト ニッテ之ヲし 實行 シ 本條約實行ノ日 一而 シ テレ 滿十二年間効 3 リ十一箇年 力 Ŧ

お効力ヲ有スル條款ト共ニ)全ク廢止組了スルヒノトスシタル後十二箇月ヲ經過セハ本條約ハ(從前ノ諸條約中尚セント欲スル旨ヲ通知スルノ權利ヲ有シ而シテ右通知ヲ爲ヲ經過シタル後ハ何時ニテモ他ノ一方ニ對シ本條約ヲ廢止

第二十條

換スヘキモノトス)(本條約ハ成ルヘク速カニ批准シ東京ニ於テ其批准書ヲ交

アル場合ニハ英文ヲ以テ正確ノモノト爲スヘシ總テ同一ノ意義及ヒ目的ヲ有スト雖モ若シ其牴牾スルコト通及ヒ英文二通ニ記名調印スルモノナリ而シテ右ノ四通ハ右證據トシテ雙方ノ全權委員ハ本條約書四通即チ日本文二

明治二十 年 即手西曆千八百九十 年

東京ニ於テ書ス

議 定 書

國皇帝陛下ノ政府ハ日本ニ於テ現行條約ニ因リ大不列顛國日本國皇帝陛下ノ政府及ヒ大不列顛愛蘭聯合王國及ヒ印度

委員ハ左ノ約款ニ同意セリ統海條約ノ外更ニ公正ナル取極ヲ爲サント欲シ雙方ノ全權統海條約ノ外更ニ公正ナル取極ヲ爲サント欲シ雙方ノ全權スルコトヲ必要トスル事項ニ關シ本日調印シタル通商及ヒカ共臣民ニ對シ執行スル裁判權及ヒ共他兩國ノ利益上立約

′第一、 滿足二十二箇月間引機半實施シアラサリシ場合ニハ該領事 テ若シ該年限經過ノ時ニ於テ日本ノ諸法典及ヒ諸法律カ旣 約定ス)「少クトモ五箇年間ハ尙ホ繼續スルモノトシ 而 シ テハ領事裁判權ノ廢止ヲ實行セサルコトヲ兩締盟國ニ於テ 典及と諸法律カ少クトモ一箇年間現ニ且全ク雪施ラルルマ 實施セラルトキコトヲ豫期シ此約款ヲ設クルニ因リ右諸法 ノ諸法典及ヒ法律ハ各々勅令ヲ以テ定メラレタル期日ヨリ ス但シ左ニ明記セル制限ニ從フヘキモノト 箇年ニシテ其執行ヲ廢止スヘキコトヲ兩締盟國ニ於テ約定 於ケル大不列顚國ノ領事裁判權ハ直チニ廢止セラルヘキコ 二十二箇月間引續キ滿足二實施セラレタル場合二八日本ニ 兩締盟國ニ於テ約定ス但シ該諸法典及ヒ諸法律カ實際 大不列顛國カ日本ニ於テ其臣民ニ對シ執行スル ハ斯ル實施ノアルマテ繼續ス (本日調印シタル通商及ヒ航海條約ノ實施ヨ ヘキモノトス」 ス即チ本年公布 リ五 領事

領事裁判権廢止ノ準備トシテ東京駐割大不列顚國皇帝陛下ノ代表官ト日本政府トノ間ニ於テ千八百八十八年十二月日日本二於ケル大不列顚國臣民ノ土地所有ニ關スルコト」現民留地ヲ內國市區ニ編入スルコト(將來居留地ニ於ケル大不列顚國臣民ノ土地所有ニ關スルコト」現定スス不列顚國領事裁判權廢止ト共ニ從前ノ諸條約ニ因リ定ス又不列顚國領事裁判權廢止ト共ニ從前ノ諸條約ニ因リ定ス又不列顚國領事裁判權廢止ト共ニ從前ノ諸條約ニ因リ定ス又不列顛國領事裁判權廢止ト共ニ從前ノ諸條約ニ因リ定ス又不列顛國領事裁判權廢止ト共ニ從前ノ諸條約ニ因リ定ス又不列顛國領事裁判權廢止ト共ニ從前ノ諸條約ニ因リ定ス又不列顛國軍表判權廢止ト共ニ從前ノ蔣權及ヒ死政策を持入。

第二、兩國政府ハ左ノ事項ニ同意ス

- 施セラルヘキ事 開ラクコトハ不列顛國領事裁判權廢止ノ日ヨリ實
- 商航海上ニ充分ナル自由ヲ與フル事 一領事裁判權廢止ノ日ヨリ兩國ノ版圖間ニハ互ニ通
- ノ權利(及ヒ家屋、倉庫ノ賃借使用)丼ニ裁判管在留スル日本臣民ハ住居、旅行「及ヒ不動産所有」――日本ニ在留スル大不列顚國臣民若クハ大不列國ニ

課ヲ負擔セサル事國人民ヨリ餘分ノ租税又ハ賦國人民ト同一ノ權利、特權及ヒ免除ヲ享有シ且其國人民ト同一ノ權利、特權及ヒ免除ヲ享有シ且其理以明の、以申項ニ關シテハ其自國臣民若クハ最惠

権利ヲ享有スヘシ
を開シ完全ナル自由及ヒ公私ノ禮拜ヲ行フノ権心ニ關シ完全ナル自由及ヒ公私ノ禮拜ヲ行フノ権利竝ニ其設置保存スヘキ適當且便宜ノ埋葬地ニ於テ固有ノ宗教上ノ慣習ニ從ヒ自國人ヲ埋葬ルニ於

則ニ邈由スルヲ要ス右各項ノ場合ニ於テハ常ニ各締盟國ノ法律へ勅令及ヒ)規

テ約定ス)一ノ租税手敷料及ヒ賦金等ヲ納ムヘキコトヲ兩締盟國ニ於槽機續中ト雖ヒ同種ノ營業ニ對シ內國臣民ニ賦課スルト同(又工業若クハ製造ニ從事スル大不列顚國臣民ハ領事裁判

現行ノ旅券方法ヲ擴張スルコトニ同意ス卽チ不列顚國臣民第三、日本政府ハ不列顚國臣民ニ對シ內國ヲ開ラクマテハ

論内國ニ於テ商業ニ從事スへカラサルモノトスか本東京同國公使若クハ日本國開港場ニ駐在スル不列顛國 京外務省若クハ開港場ノアル府縣ノ主任官ヨリ交付スへシ京外務省若クハ開港場ノアル府縣ノ主任官ヨリ交付スへシ京外務省若クハ開港場ノアル府縣ノ主任官ヨリ交付スへシ京外務省若クハ開港場ノアル府縣ノ主任官ヨリ交付スへシ京外務省若クハ開港場ノアル府縣ノ主任官ヨリ交付スへシ京外務省若クハ開港場ノアル府縣ノ東京同國公使若クハ日本國開港場ニ駐在スル不列顛國カ在東京同國公使若クハ日本國開港場ニ駐在スル不列顛國カー

本國外務大臣ノ決定スル所トス右旅券ニ關シ必要ナル諸規則へ在東京不列顚國公使及ヒ日

擔任スヘシシテ該會ノ規程ニ對シ充分有効ナル法律ヲ制定スルコトヲシテ該會ノ規程ニ對シ充分有効ナル法律ヲ制定スルコトヲスル所有權及ヒ版權ノ保護ニ關スル萬國聯合會ニ加入シ而第四、日本政府へ不列顛國領事裁判權廢止ノ前ニ工業ニ關

任スヘシ年スへシ田本政府へ本日調印シタル通商及と航海條約ニ附隨第五、日本政府へ本日調印シタル通商及と航海條約ニ附隨第五、日本政府へ本日調印シタル通商及と航海條約ニ附隨

注 青木子「條約改正記事」ニロク

情ヲ損セサランコトヲ勉メタルニアリ此ニ英政府提出案ニ就キ少シク綾述セントスルモノアリ藍シウ各國間ニ通用スル條約ト同樣即チ互相對當ナル體裁ヲ存シク各國間ニ通用スル條約ト同樣即チ互相對當ナル體裁ヲ存シク各國間ニ通用スル條約ト同樣即チ互相對當ナル體裁ヲ存シク各國間ニ通用スル條約ト同樣即チ互相對當ナル體裁ヲ存シル他ナラヌ根フニ於テハ種則ナル治外法權及要求個條即チ臨時的能に英政府提出案ニ就キ少シク綾述セントスルモノアリ藍シ此ニ英政府提出案ニ就キ少シク綾述セントスルモノアリ藍シ

> へ全権委員ニ勅任セラレタリ ・全権委員ニ勅任セラレタリ ・全権委員ニ勅任セラレタリ ・全権委員ニ勅任セラレタリ ・全権委員ニ勅任セラレタリ ・全権委員ニ教任フ全フスルコヲ得タリト依テ更ニ右英國ノ ・大管・周嶽驤カニ以為ラク。陛下欽訓ノ大旨ト内閣ノ定談ニ ・大管・周嶽驤カニ以為ラク。陛下欽訓ノ大旨ト内閣ノ定談ニ ・大管・周嶽驤カニ以為ラク。陛下欽訓ノ大旨ト内閣ノ定談ニ ・大管・周嶽驤カニ以為ラク。陛下欽訓ノ大旨ト内閣ノ定談ニ ・大管・周嶽驤カニ以為ラク。陛下欽訓ノ大皆・内閣ノ定談ニ ・大管・周荻縣カニ以為ラク。陛下欽訓ノ大皆・内閣ノ定談ニ ・大管・周荻縣カニ以為ラク。とい、 ・大学をレラレサル個條ナシ是ラ以 ・大学をレラレサル個條ナシ是ラ以

三七三 明治三三年五月七

條約改正ニ關シ內閣會議

思ハレサリシ其異議ノ重ナル點ハ槪ネ左ノ如シシタルニ豈計ラン異議百出シ到底閣僚ノ同意ヲ得ヘシトモ山縣總理大臣ハ此案ヲ受理シ數日ヲ出スシテ之ヲ閣議ニ付

- 一 規約ノ附隨セサル最惠國條款へ我國ニ利アラス
- 同様ノ待遇ヲ受ケシムルハ不利益ナリ11 航海通商ノ區域ニ於ケルト雖トモ外國人ヲシテ内國人
- 間通用ノ旅行券ヲ交付スルハ不得策ナリニ 領事裁判廢止前內地ニ旅行スル外國人ニ對シ十二箇月
- 規定スルハ不可ナリ四 沿海貿易ハ許ス可カラス外國船舶ノ傭入ヲ條約ヲ以テ

Ŧî. 英國ノ所屬地ニ對シ本條約二加盟ノ為メ二箇年ノ ヲ與ユル得失如何

ヲ以テ最早列記外ノ注文若クハ所謂「負ハントスレハ抱ョ 方針ノ範圍内ニ於テ臨機運動シ得ルノ旨ヲ判然ト記載セル 條二過キス加之決定書ノ末尾二全構委員ハ該案ニ指示セル V 、等ノ星議ハ實ニ周蔵ノ意想外ニ出 コトニ決シ且其修正ハ決定書及覺書二載セク ハ常初内閣ハ大隈伯蹉躓ノ後ヲ承ケテ其提出案ヲ修正ス ノ請求ハアルマシト豫期シタレハナリ ニテタル ル所ノ ナリ 四箇

1前掲青木外務大臣ノ修正草案ナリ

三七四 明治 11二宝 年十月

條約改正ニ關シ內閣會議

明治二十三年十月中條約改正二 關シ内閣ニ於テ決議ノ

縣 務大臣

西 內

大 樞密院議長

ナリ

山田司法大臣目

ノ即 ル 外務大臣ノ言然リ覺書ノ第四項即外國人一般ニ適用 第二項ヲ云 寧ロ概轄主義ニ止ムルモ可ナラン英國案議定書 寧ロ概轄主義ニ止ムルモ可ナラン 制限ノ簡條ニ關シ列擧主義ヲ取ルトナレ ハ本文ハ ス

第二 外視スルノ制限ヲ取極ムヘシ 得タル大隈案ハ質際我國ニ不利アルカ如シ故ニ山縣總理 ヲ取テ商議スヘク若シ英公使ニシテ徹頭徹尾我議ヲ容レ サルトキハ大隈案ニ退歩シ別ニ宣言書ラ 大臣ノ提出案ニ據リ所謂「規約若クハ條件附隨」ノ主義 **通商航海ニ關スル最惠國條款ニシテ英政府ノ協賛ヲ** 裁シ テ清國ヲ除

令ヲ以テ豫メ發布スヘシ 官設倉庫規則丼ニ浩規則へ之ヲ條約書中ョリ脫シ勅

以上八箇條

スルモ全權委員ニ任スへ 間ラ云 兩國間ノ關係ハ 「法律ノ許ス限リハ」ナル文字ハ之ヲ刪除スルモ存置 英國ノ殖民地及海外所屬地ニ適用スル條約中ノ第一 山縣總理大臣提出案ノ旨趣ニ據 シ然レトモ本約條ヲ適用セサ ル

議定書第一項 「全ク」ノ字ヲ删ルヘシ

青木外務大臣時代 **科英交涉 三七四**

> 雱 農商務大臣 文 部 外務大臣 軍 信 大臣 大 大 臣 臣

第一項結尾ノ「但シ書」ハ之ヲ存シ其修正ハ全權委員ノ 會テ大隈前外務大臣ヨリ同政府へ提出シタル條約案ノ第 商議ニ任ス 一及第二條(寫省略)ヲ以テ其第二項及第三項トナシ且 英政府フ提出案中議定書第二項ヲ廢シ之ニ代ユルニ

青木外務大臣曰

判廢止後ノ質施ニ關スル事項ハ議定書ニ於テ耶極置度 ヲ議定書ニ挿入シタル旨趣ハ他ニ非ス條約書ニハ調印 英政府ニシテ大隈案ノ第一及第二條ヲ短縮ニナシ且之 理由ニ似タリ且英國案議定書ノ第二項へ甚タ簡單ナレ トモ大隈案第一及第二條ノ憲味ヲ都合ヨク概轄スルモ 後直二實行スヘキ通商航海ノ事項ノミラ載セ領事裁 ノ事テリ是な條約ノ體裁上ニ取リテハ甚タ都合ヨ キ

第六 ル ヘ シ 約書ノ題號ハ通商航海條約ト改メ「修交」ノ字ヲ刪

第七 有セシムルノ可否如何 改メテ所有權トナシ該區域ニ限リ外國人ヲシテ土地ヲ所 現今我開港場ニ於ケル外國人居留地ノ永代借地權ヲ

山縣、西鄉、山田、 青木各大臣之ヲ可トナセリ 大木、 後藤、 芳川、 樺山、

ノ各地方へ旅行セシムヘシトノ英政府請求ヲ容ル可キ敷 西鄉、山田、後罴、 外國人ヲシテ十二箇月間通用ノ旅券ヲ提携シ我內國 樺山、青木各大臣之ヲ可ト ナセ IJ

字ノ修正ニ關シ決議未々成ラス 定轉第二項「Subject always to the Laws &c.」ナル文 右八箇條中第一「十二箇月通用ノ旅券交付」第二「最惠國 制限ニ關スル陸奥大臣ノ議」第三「英政府提出宏議

第三 英政府提出案議定書第二項ノ「Subject always to

三七五 明治三四年三月三日

條約改正ニ關シ內閣會議

明治二十四年三月三日二至り內閣二

遞信 大臣

木 外務大臣

決定シタリ

第一 十二箇月ヲ期シ內地旅行ノ爲メ英國人へ該期限內通

用ノ旅祭ヲ交付スヘシトノ英政府ノ請求ヲ容ルル事

事情ノ結果トシテ或ル國ニ對シ蛙別ノ取極ヲ爲シ得ルノ第二 最惠國條款ニ關スル制限卽チ「彊土接近其他特別ノ 權利ヲ維持ス」トノ陸奥大臣提議ハ同大臣ニ於テ强テ之 ヲ主張セス依テ西鄕、 山田、大山、 後藤及青木各大臣之

二同意シテ主張セサル事ニ決議ス

臣ノ商量ニ任スト 「右本日閣議ニ於テ決定ス但其節目ノ事柄ハ全權委員三大 **竣ヲ貮拾五錢トナシ八拾錢ヲ七拾錢ト減スルモ可ナリト但條約草案ニ豫定セル每噸貳拾五錢ヲ貳拾錢トナシ參拾邓四 噸稅ニ關スル規則へ勅令トシテ發布スル事** the Laws &c.」ナル英文ハ 「前綴ノ諸簡條ハモ何時各 修正スル事 締盟國ノ法律、勅令及規則ニ從フモノトス」トノ意味ニ 其他陸奥大臣ノ動議ニ由テ

三七六 明治 pu 月 75 Ħ

條約改正ニ關シ內閣會議

明治二十四年四月四日前項ニ關シ重テ閣議ヲ開キ左ノ決 議ヲナス

川藤山方田木

サル時ハ「制度ヲ擴張スル」如キ文字ヲ改メ文章ヲ圓滑第一 期限ヲ六箇月ニ爲スヘク談判スヘシ若シ協議相調ハ ニ書換ヘシ

第二 英國ノ殖民地ニ關スル事項ニ付デハ英公使ョリ 正案ヲ提出スル趣ナリ仍テ同公使ト商議ノ際相互人民及ニー 茣凾ノ殖民地ニ關スル事項ニ付デハ英公使ヨリモ修 除外視スルノ宣言ヲ爲ス事 英國ノ領事裁判權ヲ廢止スルニ付テハ英國ニ向テ支那ヲ ヒ商品ノ取扱ニ付不利ナラサル取極ヲ爲スヘシ

通商航海ニ關シ英國ニ向テ最惠國條款ニ制限ヲ設クル コトハ到底行フヘカラス各締盟國ト改正調ヒタル上へ 青木外務大臣時代 對英交涉 三七六

支那ヲシテ强テ之ニ同意セシムヘシ

第三 英國提出案ノ議定書第二項ヲ採用シ其末尾ニ「然レ 從スヘキセノトス」ノ文字ヲ付ス トモ前記ノ諸約款へ常ニ兩國各自ノ法律勅令及規則ニ選

第四 噸税ニ付法律ヲ以テスルカ勅令ヲ以テスル 仕方へ別ニ議案ヲ具シ決定ヲ乞フヘシ

右之旨意ニ依リ談判スヘシ

四月四日

松 大 山大 外務大臣 **司法大臣** 陸軍大臣 大藏大臣 農商務大臣 樞密院議長 軍大臣 部大臣 花押 花印 花押 濫印 花押 蓋印 **花押**

鮭 青木子「條約改正記事」ニ

看)ヲ内閣ノ決議書トナシ之ニ據テ英公使ト談判ヲ開クコ **西郷伯、後藤伯及陸奥氏ニ通シ姑ク左ノ粲(次號修正案参** 但シ前段閣員ノ調印ヲ領スルニ先チ周藏ニ於テハ巳ニ後段 **ハ閣僚ヲシテ先ツ難キニ決シ後日周藏ト共ニ之ヲ易ニ居ヲトニ決セリ此際周蔵閣員ニ對シ公然此腹案ヲ吐露セサリシ** ノ條項ヲ腹案トシテ所持セルニ由リ竊ニ其大意ヲ山縣伯、 ント希望シタレハナリ

三七七 明治三四年三月三四日(假) 英青太外 3

我修正案 英國側ヨリ提出ノ條約草案ニ對スル

修正草寀ニ對スル青木外務大臣意見民修正説明書

大不列頭國 通商及航海條約草案

陛下ハ倶ニ兩國臣民ノ交際ヲ皇張增進シ以テ幸ヒニ兩國間 達センニハ從來兩國間ニ存在スル所ノ條約ヲ改正スルニ如 日本國皇帝陛下及ヒ大不列顚愛蘭聯合王國及ヒ印度國皇帝 存在スル所ノ厚誼ヲ維持センコトヲ欲シ而シテ此目的ヲ

> 決定セ 狀ヲ示シ其正式ニ適フモノナルヲ認メ以テ左ノ諸條ヲ合議 某ヲ各其全權委員ニ任命セリ因テ右全權委員ハ互ニ其委任 下ハ何某ヲ大不列巓愛蘭聯合王國及ヒ印度國皇帝陛下ハ何 其改正ヲ完了スルコトニ決定シ之レカ爲メニ日本國皇帝陛 カサルコトヲ確信シ公正ノ主義ト互相ノ利益ヲ基礎ト爲

定ス ヲ第二條ノ規定ニ遵ヒ賦課シ得ルコトヲ兩締盟國ニ於テ約 課徴收セル輸入税ノ代リニ本條約附錄稅目ニ揚クル所ノ稅 下ノ版圖內ノ天産、生産或ハ製造ニ係ル貨物ニ對シ從來賦 日本國政府ニ於テハ日本國へ輸入スル別ノ不列顧國皇帝陛

之ニ關稅ヲ加算シ內國稅ニ超過スヘカラサルモノ 税ヲ課スルヲ得ルコトヲ兩締盟國ニ於テ約ス但右割増稅 スル場合ニ於テハ日本國へ輸入スル同種ノ物品ニ對シ割增 製薬若クハ專賣薬品)ニ對シ内國稅ヲ賦課シ或ハ之ヲ增加 有スヘシ日本國政府ハ酒、醬油、味淋「或ハ」煙草(或ハ 虞アル物品ノ輸入ヲ制限シ或ハ一時之ヲ禁止スルノ權ヲ保 但日本國政府ハ衞生風俗或ハ公ケノ安寧ニ危害ヲ及ホス

課スヘシ 税價格ト定メ此税價格ニ對シテ税目ニ定ムル所ノ稅金ヲ賦 又手敷料アルトキハ之ヲモ加算シ其總額ヲ以テ該貨物ノ課 ハ製造地ヨリ陸揚港ニ至ルマテノ保険料及と運賃ヲ加算シ 地、生産地或ハ製造地ニ於ケル實價ニ其仕入地、生産地或 日本國ニ於テ賦課スヘキ從價輸入稅ヲ算定スルニハ其仕入

再ヒ之ヲ日本國ニ輸入スルトキハ最初輸入ノ時該貨物ニ對 外國ノ生産或ハ製造ニ係ル貨物ヲ日本國ヨリ輸出シタル後 キモノトス デ納税シタルニ拘ハラス更ニ税目ニ從テ輸入税ヲ納ム

|本國ノ生産或ハ製造ニ係ル貨物ヲ外國ヨ キハ之ニ對シテ百分五ノ從價稅ヲ納ム リ日本國へ

「顚國皇帝陛下ノ版圖内ニ輸入スルモ總テ別國ノ生産或 iv ノ地ヨリ日本國皇帝陛下ノ版圖内ニ輸入シ又日本國皇帝 ,税ヲ課セラルルコトナカルヘシ叉兩締盟國ノ一方ノ版ニ、係ル同種ノ物品ニ課スル所ニ異ナリ或ハ之ヨリタ額 一願國皇帝陛下ノ版圖內ノ生産或ハ製造ニ係 ノ版圖内ノ生産或ハ製造ニ係ル物品ヲ何レ レノ地ョリ不 ル物品ヲ何 \sim

> 人身、 要ナル衞生上及ヒ 岡内へ輸入スルモノニ對シテハ其何レノ地ヨリ輸入スル 圖内へ別國ノ生産或ハ製造ニ係ル物品ニシテ他ノ一方ノ版 ス サ 論セス總テ別國ノ生産或ハ製造ニ係ル物品ニモ均シク及ホ ルルノ禁制ヲ設置スルコトナカルヘシ但此末段ノ規定ハ 其他 ノ禁止ニハ適用スヘカラサル 屯 ヲ

\equiv

ニ對シ 盟國ノ一方ノ版圖内ヨリ他ノ一方ノ版圖内へ輸出スル ナル税金又ハ「徴收金」ヲ賦課スルコトナカルヘシ又爾締 課シ又ハ賦課スルコトアルヘキ所ニ異ナリ或ハ之ヨリダ額 品ヲ輸出スルモ他ノ各外國へ輸出スル同種物品ニ對 兩締盟國ノ一方ノ版圖內ヨリ他ノ一方ノ版圖內へ何等ノ物 ルルノ禁制ヲ設クルコト テハ總テ別國へ輸出スル同種ノ物品ニ ナカル \sim モ均シ ク及ホ コシテ賦

車 地通關稅ノ冤除、庫入、 兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖内ニ在リテ總テ 項ニ就キ全ク内國臣民ト 獎勵金、便益及と税令排戾等ノ 同一ノ待遇ヲ受クヘ シ

第五條

コトナキモノトス 不列顛國「臣民カ日本國へ輸入シタル 所ノ」(皇帝陛下ノノ田本港へ運輸スルコトヲ得ヘク且「之ヲ内地ニ輸送スルノ田本港へ運輸スルコトヲ得ヘク且「之ヲ内地ニ輸送スルノ地ニ於テモ更ニ何等ノ稅、間稅或ハ關稅ヲ追加賦課スルノ地ニ於テモ更ニ何等ノ稅、間稅或ハ關稅ヲ追加賦課スルノ地ニ於テモ更ニ何等ノ稅、間稅或ハ關稅ヲ追加賦課スルノ地ニ於テモノトス

第六條

調ニ受取ルヘシのルヤ否ヲ査定スル爲メ稅關ニ於Δ必要ト認ムル所ノ査明及に檢視ヲ行フヘキモノトス又右稅金坲戾證書ハ請求ニ應及に檢視ヲ行フヘキモノトス又右稅金坲戾證書ハ請求ニ應のルヤ否ヲ査定スル爲メ稅關ニ於Δ必要ト認ムル所ノ査明貨物ハ其輸出ノ時右輸入免狀ニ記載セル貨物ト同一ノモノ

第七條

シク實行スヘキモノトス接二其生産地ヨリ來ルト他ノ地方ヲ經テ來ルトニ コトナカルヘシ而シテ此相互平等ノ = テ之ヲ同港ニ輸入スルモ日本國船舶ヲ以テ輸入セル 入スルヲ得ルコトアルヘキー切ノ物品ハ不列顧國船舶ヲ以 徴收金ヲ賦課セラルルコトナク又日本國皇帝陛下ノ版圖內 ヲ以テ輸入セルト同一ニ何等ノ特殊若クハ多額ノ稅金或 品ハ日本國船舶ヲ以テ之ヲ同港ニ輸入スルモ不列顛國船舶 テ法律上輸入スルヲ得或ハ輸入スルコトアルヘキ 不列顛國皇帝陛下ノ版圖內ノ諸港ニ 何等ノ特殊若クハ多類ノ税金或ハ徴收金ヲ賦課セラル 諸港ニ於テ日本國船舶ヲ以テ法律上輸入スルヲ得或ハ輸 待遇へ各方ノ物品カ直 於テ不列顛國船舶 一切ノ物 關セス均 ト同一 ヲ N

右同様ニ輸出物品ニ關スル待遇モ先分平等ナラサル可カラ

ス郎チ法律上輸出スルヲ得或ハ輸出スルヲ得ルコトアルヘス即チ法律上輸出スルヲ得或の輸出國力に避免のと対し、海港タルトヲ論セス兩締盟國が國内ニ於テハ總テ同一ノ海港タルトヲ論セス兩締盟國が國内ニ於テハ總テ同一ノ 輸出税ヲ拂ヒ同一ノ 奬勵金ヲ受ケ若クハ拂戻税金ヲ得ヘス郎チ法律上輸出スルヲ得或ハ輸出スルヲ得ルコトアルヘス郎チ法律上輸出スルヲ得或ハ輸出スルヲ得ルコトアルヘス

第八條

ル、コトアルへキ諸權利ヲ享有スルモノトス日本國及ヒ大不列顧國ノ法律ニ從ヒ之ヲ規定スヘキモノト民本國及ヒ大不列顧國ノ法律ニ從ヒ之ヲ規定スヘキモノトと下ノ版圖內ニ於ケル日本國臣民ハ此事項ニ關シテハ右法と、大不列顧國」と、大不列顧國上、大平列與國ノ法律ニ從ヒ之ヲ規定スルノ限ニアヲス所結盟國ノ治海貿易ハ本條約ニ於テ規定スルノ限ニアヲス所結盟國ノ治海貿易ハ本條約ニ於テ規定スルノ限ニアヲス所統盟國ノ治海貿易ハ本條約ニ於テ規定スルノ限ニアヲス

レタル他ノ一港若クハ敷港へ進航スルコトヲ得ヘシ但常ニ初ニ積載シタル貨物ノ剩餘ヲ陸揚スル爲メ外國貿易ヲ許サ船舶ハ仕向港ノ一ニ於テ其精荷ノ一部ヲ陸揚シ而シテ其最品ハ仕向港ノ一ニ於テ其精荷ノ一部ヲ陸揚シ而シテ其最不列顛國皇帝陛下ノ版圖內ノ二個以上ノ港へ仕向ケタル積不列顛國皇帝陛下ノ版圖內ノ二個以上ノ港へ仕向ケタル積

ルコトヲ許スヘシ併大阪、函館、新潟及ヒ夷ノ諸港ハ例外此迄ノ通不列顚國船舶カ帝國ノ現開港場間ニ積荷ヲ運搬ス(然レトモ日本國政府ハ本條約實施ノ日ヨリ六箇年ヲ限リ兩國ノ法律及ヒ税關規則ニ從フヘキモノトス

第九岭

ŀ

則及と稅目ヲ遵守スヘキモノトスニ遭遇シ避難ノ爲メ無據他ノ一方ノ海港ニ進入スルモノハニ遭遇シ避難ノ爲メ無據他ノ一方ノ海港ニ進入スルモノハ門國船舶ノ拂フベキ稅金ノ外一切ノ稅金ヲ拂フコトナク其港ニ於テ更ニ織裝ヲ爲シ一切ノ需用品ヲ求メ再と航行スル港ニ於テ更ニ織裝ヲ爲シ一切ノ需用品ヲ求メ再と航行スルアー部ヲ賣却スルヲ要スル場合ニハ該船長ハ其衛地ノ危難

日本帝國版圖內ノ海上ニテ難破シ若クハ海岸ニ乘上ケタル

舶難破ノ場合ニ於テ拂フヘキ所ノ物品保存費丼ニ難破救助 圖內 ケタル貨物及ヒ商品ハ消費ノ爲メニ税關ヲ通過スルノ外ハ 費及ヒ其他ノ費用ノミヲ拂フヘキモノトス難破船ヨリ救上 **之ヲ引渡スヘシ而シテ右領事官、持主或ハ代理人ハ内國船** 代理人ノ現場ニ在ラサルトキハ内國法律ニ定メタル期限内 或ハ代理人ヨリ要求スルトキハ之ニ引渡スヘシ右持主或ハ = シテ海中ニ投棄セラレタルモノ或ハ之ヲ賣却セル賣得金丼 ヒ該船舶ヨリ救上ケタル貨物井ニ商品及ヒ右等ノ諸物件ニ 右遭遇ノ船舶及其各部丼ニ其器具及ヒ其他一切ノ附屬品及 テ之ヲ爲スヘク又互相ノ主義ニ基キ不列顚國皇帝陛下ノ版 不列顛國船舶 ニ常該總領事、領事、副領事或ハ領事代理ヨリ請求スレハ 一切ノ阔税ヲ冤除スヘシ但消費ノ爲メニ税關ヲ通過スル 一關スル 該遭難船内ニ發見セラレタル一切ノ書類ハ右船舶ノ持主 ニハ通常ノ税金ヲ納ムルヲ要スルモノトス ·ノ海上ニテ難破シ若クハ海岸ニ乘上ケタル日本國船舶 救助ノ處分へ不列顧國法律ニ從ヒ之ヲ爲スヘシ ノ救助ニ關スル一切ノ手續ハ日本國法律ニ從 場

内ニ於テ澪瀨ニ乘上ケ或ハ難破シタルトキ其持主、船長若兩締盟國ノ一方ノ臣民ニ屬スル船舶ニシテ他ノ一方ノ版圖

キモノトス即領事代理人其地ニ在ラサル場合ニハ常該總領事、領事のの持主代理人其地ニ在ラサル場合ニモ亦適用スヘトス此規則ハ持主、船長若クハ持主代理人現ニ其場ニ在ルトス此規則ハ持主、船長若クハ持主代理人現ニ其場ニ在ルトス此規則ハ持主、船長若クハ持主代理人現・領事、領事ののが持主代理人其地ニ在ラサル場合ニハ常該總領事、領事

第十級

比約款へ逃亡ノ生シタル國ノ臣民ニ之ヲ適用スヘカラサルス爲メ助力ヲ與フルノ義務アルモノトスの其代理官ヨリ其逮捕引渡ノ事ヲ地方官へ依賴スルトキハス代理官ヨリ其逮捕引渡ノ事ヲ地方官へ依賴スルトキハ為代理官ヨリ其逮捕引渡ノ事ヲ地方官へ依賴スルトキハ若シ締盟國ノ一方ニ屬スル商船ノ海員ニシテ他ノ一方ノ版

モノトス 此約款ハ逃亡ノ生シタル國ノ臣民ニ之ヲ適用スヘカラサル

第十一條

一 單ニ日本ノ一港ニ到ルトキハ每噸貮抬五錢規定ニ依リ)左ノ税率ノーニ從ヒ噸税及ヒ燈税ヲ納ムヘシ時ニ其船長、持主或ハ代理人ノ撰フ所ニ任セ(第十二條ノ日本國各港ニ進入スル不列顛國船舶ハ稅關へ入港屆ヲ爲ス

- 頓三合邊 クハ敷港ニ到ルコトナキモノハ二箇月期限ニ對シ毎11 日本ノ敷港ニ出入スルノ便宜ヲ取ルモ外國ノ一港若
- 箇月ノ期限ニ對シ每噸八拾錢 日本或ハ外國ノ一港若クハ敷港ニ到ルヘキモノハ六
- 四 郵船會社 ヲ得ヘシ 數二 海ヲ爲ス間其船舶ニ對スル頓稅及ヒ燈稅ヲ免カレ 生スルコトアラハ郵船會社ヨリ之ヲ追納スヘシ 算定スへキモノトス但其所有ノ船舶二就キ其後 飲スルトキハ右七回ノ航海ヲ爲ス諸船舶ノ平均 [ヲ生スルコトアラハ稅關ヨリ之ヲ拂戾シ又不足ヲ |セシ變更ノ爲メ第七回入港ノ時其既納ノ税額ニ剩 テ其納税額ハ該會社郵船發着表ノ取極メニ從テン 對シ每順八拾錢ノ稅ヲ納メテ之ヲ强カル 此税ハ第一回入港ノ時ニ之ヲ納付スヘシ而 ニシテ其船舶發着表ニ從ヒ引續キ七回 ルコト 1 噸 ~

(不列顛國船舶ノ課稅噸敷ハ日本ノ現行船舶測度規則ニ領キ噸敷及ヒ爘稅額ヲ算定スヘシ」

「船舶谷、総書者クハ其他ノ書類ニテ證明セル純噸數ニ

基

ヒ量定シタル純噸敷タルヘシ日本國及ヒ不列顚國ハ同一ノ(不列顚國船舶ノ課稅噸敷ハ日本ノ現行船舶測度規則ニ遵

- 軍艦
- 内語 一 遊船及ヒ日本政府ヨリ正當ノ認可ヲ受ケタル水先案
- 三 積荷ヲ積載セサル漁
- 四 積量二十噸未滿ノ船舶
- ガルトキニ限ル 選が入港シタル船舶但商業ニ従事と
- 六 荷物ヲ積載セスシテ入港及ヒ出港スル船舶
- ア金拾五圓ヲ納ムヘシ 不会拾五圓ヲ納ムヘシ 不時間内ニ出港スル船舶但右船舶ハ稅・調手敷料トシ 若クハ郵便物ヲ陸揚シ或ハ搭載セスシテ投端後四十

手敷料ハ以後徴收セサルヘシ是迄日本港ニ於テ不列顛國船舶ノ納メ來レル入港及ヒ出港

第十二條

を成立に では、「官吏、一私人、會社或ハ其他各種建設場ノ利益若ク では、「官吏、一私人、會社或ハ其他各種建設場ノ利益若ク

第十三條

財かモノトス関事、領事、副領事、領事小得及と領事代理ヲ置クコトヲ得例外タルヘシ然レトモ右ノ例外ハ他ノ諸外國ニ對シ之ヲ適ヲ得ヘシ但領事官ノ駐在ヲ認許スルニ便宜ナラサル場所ハシ県のルヘシ然レトモ右ノ例外ハ他ノ諸外國ニ對シ之ヲ適サルモノトス

領事官ニ現ニ許與セラレ或ハ將來許與セラルルコトアルへ總領事、領事、副領事、領事心得及と領事代理ハ最惠國ノ

ルヘキモノトスキー切ノ特権及と免除ノ享受ヲ許與セラ

第十四條

受クルニ在リトスの特殊其一方ヨリ別國ノ政府臣民或ハ人民ニ許與スル所ノハ將來其一方ヨリ別國ノ政府臣民或ハ人民ニ許與スル所ノハ將來其一方ヨリ別國ノ政府臣民或ハ人民ニ許與スル所ノの將來其一方ヨリ別國ノ政府臣民或ハ人民ニ許與スル所ノ

第十五條

適應スヘキモノトスノ外總テ大不列顚國皇帝陛下ノ各殖民地及ヒ外國所屬地ニノ外總テ大不列顚國皇帝陛下ノ各殖民地及ヒ外國所屬地ニ本條約ノ約款ハ法律ノ許ス限リハ左ニ列擧スルモノヲ除ク

印度

加奈陀領地

ニユー・フオンドランド

喜望峰殖民地

ナタル

新南ウイルス

ヴィクトリア

クイーンスランド

タスマニア

南濠洲

ニュー・ゼーランド

トキハ其殖民地若クハ海外所屬地ニモ之ヲ適用スヘシ地若クハ海外所屬地ノ爲メニ其旨ヲ日本國政府へ通知スル箇年以内ニ東京駐剳大不列顧國皇帝陛下ノ公使ョリ該殖民條約ノ約款ヲ適用セント欲シ本條約批准書交換ノ日ヨリニ然レトモ以上列擧シタル殖民地若クハ海外所屬地ノ内ニ本然レトモ以上列擧シタル殖民地若クハ海外所屬地ノ内ニ本

第十六條

確定スルモノトス「而シテ該領事裁判權廃止ノ日ョリ後へ款ヲ以テ廢止シ若クハ變更セサルモノハ總テ特ニ保續シ且スヘキモノトス)「本日調印シタル本條約又ハ議定書 ノ 條豆民カ(日本ニ於テ)享有シタル一切ノ權利、特權及と免臣民カ(日本ニ於テ)享有シタル一切ノ權利、特權及と免臣民カ(日本ニ於テ)享有シタル一切ノ權利、特權及と免性前ノ諸條約「ニ因リ」(及と取極ニ依リ從來)不列 顚 國

別見してようでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、一般では、日本のでは、日本

約定ス) 粉定ス) が定式 が開國政府ニ對シ本條約第一條第五條及と第六條ハ其效力ヲ失フモノタルコトヲ兩締盟國ニ於テルノ旨ヲ通知スルノ權ヲ有シ而シテ不列顚國政府カ右ノ通知ヲ受ケタル後十二箇月ヲ經過スレハ前記ノ第一條第五條及と第六條ヲ廢止ス列顚國政府ニ對シ本條約第一條第五條及と第六條ヲ廢止ス將又本條約實施ノ日ョリ五箇年經過ノ後ハ日本國政府ハ不將又本條約實施ノ日ョリ五箇年經過ノ後ハ日本國政府ハ不

第十七條

11年間效力ヲ有スルモノトス 批准書ヲ交換シ其後一箇月ニシテ之ヲ實行シ而シテ」滿十 財何日ヨリ)實施シ「調印後一年間ニ東京ニ於テ批准シ其

第十八條

換スヘキモノトス)(本條約ハ成ルヘク速カニ批准シ東京ニ於テ其批准書ヲ交

アル場合ニハ英文ニ依リ之ヲ決スヘシ總テ同一ノ意義及ヒ趣旨ヲ有スト雖モ若シ其牴牾スルコト通及ヒ英文二通ニ記名調印スルモノナリ而シテ右ノ四通ハ

デ書ス 即チ西暦千八百九十 年 東京ニ於明治二十 年

議定書

構委員へ左ノ約款ニ同意セリ日本國皇帝陛下ノ政府ハ不列顧國カ日本ニ於テ現行條約ニ依リ其臣民ニ野ン執行スル裁判權ニ關スル問題及ヒ其他兩國ノ利益上規
受スルコトヲ必要トスル事項ニ關ン本日調印シタル通商及
定スルコトヲ必要トスル事項ニ關ン本日調印シタル通商及
定スルコトヲ必要トスル事項ニ関シ本日調印シタル通商及

箇年ニシテ其執行ヲ廢止スヘキコトヲ)兩國政府ニ於テ約裁判權ハ(本日調印シタル通商及ヒ航海條約ノ實施ヨリ五第一、大不列顱國カ日本ニ於テ其臣民ニ對シ執行スル領事

ニ實施セラルヘキコトヲ豫期シテ締結セルモノナリ)公布セラレタル日本ノ諸法典及ヒ諸法律カ領事裁判廢止前機ニ關シ日本ニ於テ享有セル各特權、免除ハ不列顚國領事権ニ関シ日本ニ於テ享有セル各特權、免除ハ不列顚國領事

賃借シタル不動産ハ純粹ナル所有ニ變換セラルヘシ而シ 有セル裁判管轄ニ關スル一切ノ特權及ヒ免除ハ直チニ廢棄 第二十二條ノ主旨ニ基キ將來日本ニ於ケル大不列顛國臣民 ノ方法ニテ永代借地券ノ名義ニ據リ日本政府ヨリ所得或ハ 止ト同時ニ不列顚國臣民カ組合或ハ各箇又ハ代管或ハ其他 スルモノトス」(日本 國二於ケル不列顛國領事裁判權ノ廢 ト共ニ從前ノ賭條約ニ因リ不列顛國臣民カ日本國ニ於 キ ル ノ土地所有ニ關スルコト、現居留地ヲ内國市町村ニ編入 二於テ千八百八十八年十二月日本政府ノ提出ニ係ル條約案 期シ日本政府ト東京駐剳大不列顧國皇帝陛下ノ公使トノ間 兩國政府ハ又左ノ約定ヲ爲ス即チ「領事裁判權ノ廢止ヲ豫 コトヲ兩國政府ニ於テ約定ス又不列顧國領事裁判權廢止 コト、及ヒ共有資金ヲ引渡スコトニ關スル取極ヲ爲スへ 不動産賃借者ハ純粹ノ 所有者ト爲リ其借 地祭ヲ引渡 ハテ 享 ス

方税ヲ徴收セラルヘシ郷類ノ不動産ニ對シ徴收セラルルモノト同様ノ國税及ヒ地郷類ノ不動産ニ對シ徴收セラルルモノト同様ノ國稅及ヒ地シ其代リニ右等ノ不動産ニ對シ納ムル所ノ借地料ノ徴收ヲ許スト同時ニ日本政府ハ之ヲ純粹ナル所有者トシテ登記スヘスト同時ニ日本政府ハ之ヲ純粹ナル所有者トシテ登記スヘ

引渡スへキモノトス 引渡スへキモノトス 引渡スへキモノトス 引渡スへキモノトス 引渡スへキモノトス の外國人居留地ニ属スル共有資金及と財産ハ右日本國官廳へ があが政上ノ責任及と義務ヲ悉皆負擔スヘシ之ト同時ニ右 が方施政上ノ責任及と義務ヲ悉皆負擔スヘシ之ト同時ニ右 があん居留地ニ属スル共有資金及と財産ハ右日本國官廳へ 外國人居留地ニ属スル共有資金及と財産ハ右日本國官廳へ 外國人居留地ニ属スル共有資金及と財産ハ右日本國官廳へ 引渡スへキモノトス

税及と徴收金ヲ免スヘシ併土地收用權ニハ從フヘキモノト初付與セラレタル所ノ公共ノ目的ヲ有スル限リハ都テノ租賃ニテ付與シタル各地所ハ水代ニ保存スヘシ且該地所カ最外國人居留地内ニ於テ日本國政府ヨリ公共ノ目的ヲ以テ無

第二、兩國政府ハ左ノ事項ヲ約定ス

- ヘキ事 ペキ事
- 航海上ニ充分ナル自由ヲ與フル事 一 領事裁判權廢止ノ日ヨリ兩國ノ版圖間ニハ五ニ通商
- 日本國ニ在留スル不列顛國臣民若クハ大不列顛國ニ在留スル日本國臣民ハ住居、旅行ノ權「及ヒ不動產倉庫ヲ所有シ(丼ニ住居及ヒ商業ノ爲メ土地ヲ借用シ 家屋判管轄、租稅、軍役若クハ軍役代辨金或ハ軍人宿營リ免除等ノ事項ニ關シテハ內國臣民若クハ最惠國人民ョリ餘分ノ租稅又ハ徵收金ヲ負擔若クハ最惠國人民ョリ餘分ノ租稅又ハ徵收金ヲ負擔セサル事
- ノ慣習ニ從ヒ自國人ヲ埋葬スルノ權利ヲ享有スヘシ存スヘキ滴當且ツ便宜ノ埋葬地ニ於テ固有ノ宗教上ナル自由及ヒ公私ノ禮拜ヲ行フノ權利幷ニ其設置保兩國臣民ハ他ノ一方ノ版圖內ニ於テ良心ニ關シ完全

(然)、これ己,皆り欠いちょ 可聞 トヨ・ませい 加「尤モ兩國ノ法律規則ヲ遵守スヘキモノトス」

規則ニ邈從スヘキモノトス)(然レトモ前記ノ諸約款ハ常ニ兩國各自ノ法律、勅令及ヒ

第三、日本國政府ハ不列顧國臣民ニ對シ內國ヲ開クマテハ現行ノ旅祭制度ヲ擴張スルコトニ同意ス即チ不列顧國臣民現行ノ旅祭制度ヲ擴張スルコトニ同意ス即チ不列顧國臣民理の方が、済事官ヨリノ紹介證書ヲ所持シテ出願スル限リテ祖別フ得へキ旅祭ヲ東京外務省若クハ開港場ノアル縣ノモ到ルヲ得ヘキ旅祭ヲ東京外務省若クハ開港場ノアル縣ノ民ニ關スル現行規定ハンヲ保續スヘキモノトス)「右等ノ民ニ關スル現行規定ハンヲ保續スヘキモノトス)「右等ノ民ニ關スル現行規定ハンヲ保續スヘキモノトス)「右等ノ民ニアが持スル者へ勿論內國ニ於テ商業ニ從事スヘカラサ旅祭ヲ所持スル者へ勿論內國ニ於テ商業ニ從事スヘカラサ旅祭ヲ所持スル者へ勿論內國ニ於テ商業ニ從事スヘカラサ旅祭ヲ所持スル者へ勿論內國ニ於テ商業ニ從事スヘカラサ旅祭ヲ所持スル者へ勿論內國ニ於テ商業ニ從事スヘカラサ

本國外務大臣ノ決定スル所トス」右旅券ニ關シ必要ナル諸規則へ在東京不列顧國公使及ヒ日

ノ條件及ヒ手續ニ從ヒ版權、專賣特許、商標及ヒ意匠ニ關民へ他ノ一方ノ版圖内ニ在テハ其國ノ法律ヲ以デ定ムル所好ル不列顧國領事裁判權廢止ノ日ヨリ兩締盟國ノ一方ノ臣第四、日本國政府ハ日本國ニ於

定スルコトヲ擔任スヘシ」加入シ而シテ該同盟書ニ對シ充分效力ヲ與フヘキ法律ヲ制工業ニ關スル所有權及ヒ版權ノ保護ニ關スル萬國同盟會ニシ內國臣民ト同一ノ保護ヲ受クヘキコトヲ約定 スン「前ニ

ノ制ヲ設置スルコトヲ擔任スヘシの制ヲ設置スルコトヲ擔任スヘシので、日本國政府ハ本日調印シタル規則ノ主旨ニ基キ私設倉庫のが、日本國政府ハ本日調印シタル通商及で航海條約ニ附

力、價値及ヒ期限ヲ有スヘシ)本議定書ハ該條約ノ一部ヲ爲スモノト認メラレ且同一ノ效本議定書ハ該條約ノ一部ヲ爲スモノト認メラレ且同一ノ效

(右英文)

高木外務大臣ョリ英國公使ニ送付セル草案 Confidential

Draft Treaty of Commerce and Navigation between Great Britain and Japan.

Her Majesty the Queen of the United Kingdom of Great Britain and Ireland, Empress of India, and His

Majesty the Emperor of Japan, being equally desirous of maintaining the relations of good understanding which happily exist between them, by extending and increasing the intercourse between their respective States, and being convinced that this object cannot better be accomplished than by revising the Treaties hitherto existing between the countries, have resolved to complete such a revision, based upon principles of equity and mutual benefit, and, for that purpose, have named as their Plenipotentiaries, that is to say. Her Majesty the Queen of the United Kingdom of Great Britain and Ireland, Empress of India,—, and

His Majesty the Emperor of Japan,—.

Who, after having communicated to each other their full powers found to be in good and due form

Who, after having communicated to each other their full powers, found to be in good and due form, have agreed upon and concluded the following Articles:—

Article I.

It is agreed by the High Contracting Parties that, in lieu of the import duties hitherto levied and collected the duties specified in the Tariff hereunto annexed may, subject to the provisions of Article II,

be levied by the Japanese Government on all goods, the growth, produce, or manufacture of the dominions and possessions of Her Britannic Majesty, upon importation into Japan.

The Japanese Government, however, reserves to itself the right to restrict or temporarily prohibit the importation of any article which, for sanitary reasons, or in view of public security or morals, might offer any danger.

It is understood by the Contracting Parties that the Japanese Government, in the event of its imposing or augmenting any internal duty on sake, shoyu, mirin, tobacco, or prepared or proprietary medicines, may impose a compensatory duty on such articles imported into Japan, provided such compensatory duty, with the customs duty added, shall not exceed the internal tax or duty.

Import duties payable ad valorem in Japan shall be calculated on the actual cost of the goods at the place of purchase, production, or fabrication, with the addition of the cost of insurance and transportation from the place of purchase, production, or fabrica-

tion, to the port of discharge, as well as commission, if any exists. The sum thus obtained shall be regarded as the dutiable value of the goods upon which the rate of duty provided in the Tariff shall be paid.

Goods of foreign production or manufacture reimported into Japan, after having been exported therefrom, shall pay import duty in accordance with the Tariff, notwithstanding duty may have been paid upon such goods when originally imported.

Goods of Japanese production or manufacture brought back from foreign countries to Japan shall pay an *ad valorem* duty of 5 per centum.

Article II.

No other or higher duties shall be imposed on the importation into the dominions of His Majesty the Emperor of Japan of any article, the produce or manufacture of the dominions and possessions of Her Britannic Majesty, from whatever place arriving; and no other or higher duties shall be imposed on the importation into the dominions and possessions of Her Britannic Majesty of any article, the produce or manufacture of the dominions of His Majesty the

Emperor of Japan, from whatever place arriving, than on the like article produced or manufactured in any other foreign country; nor shall any prohibition be maintained or imposed on the importation of any article, the produce or manufacture of the dominions and possessions of either of the Contracting Parties, into the dominions and possessions of the other, from whatever place arriving, which shall not equally extend to the importation of the like article, being the produce or manufacture of any other country. This last provision is not applicable to the sanitary and other prohibitions occasioned by the necessity of protecting the safety of persons or of cattle, or of plants useful to agriculture.

Article III.

No other or higher duties or charges shall be imposed in the territories of either of the Contracting Parties on the exportation of any article to the territories of the other than such as are, or may be, payable on the exportation of the like articles to any other foreign country; nor shall any prohibition be imposed on the exportation of any article from the

territories of either of the two Contracting Parties to the territories of the other which shall not equally extend to the exportation of the like articles to any other country.

Article IV.

The subjects of each of the Contracting Parties shall enjoy, in the dominions and possessions of the other, exemption from all transit duties, and a perfect equality of treatment with native subjects in all that relates to warehousing, bounties, facilities, and drawbacks.

Article V.

All goods the growth, produce or manufacture of the dominions and possessions of Her Britannic Majesty imported into Japan by British subjects on which the duty shall have been paid according to the Tariff annexed to this Treaty may be conveyed to any Japanese port free of duty, and when transported into the interior shall not, except as herein otherwise provided, be subject to any additional tax, excise or transit duty whatsoever in any part of the Japanese Empire.

Article VI

Customs shall have been paid; that they are bond fide of export duty and the importer thereof shall, in examination and inspection as the Customs authorities at the time of their exportation, subject to such Customs authorities, and that the said goods shall be, tion for drawback of duty, and be retained by the original import permit shall accompany the applicathe Customs, or with their permission; that the without having been opened or unpacked, except by packages, &c., in which they were originally imported, ported in the casks, bottles, cases, boxes, trunks, or exported to a foreign country; that they are so exprovided that all charges upon the said goods to the for the amount of the import duties paid thereon, addition, be entitled to receive a drawback certificate such goods shall be allowed to pass the Customs free the date of their importation, exported from Japan, control of the Customs, are, within two years from which have been removed from the custody and When goods of foreign production or manufacture,

may deem necessary to determine their identity with the goods described in the import permit. These drawback certificates shall either be redeemed on demand, or be at any time accepted by the Customs authorities in payment of duties.

Article VII.

reciprocal equality of treatment shall take effect withcharges out being liable to any other or higher duties or be imported into these ports in British vessels, withinto the ports of the deminions of His Majesty the articles were imported in British vessels, and reciprointo the ports of the dominions and possessions of out distinction, whether such articles come directly Emperor of Japan in Japanese vessels may likewise cally all articles which are or may be legally imported charges of whatever without being liable to any other or higher duties or be imported into those ports in Japanese vessels, Her Britannic Majesty in British vessels may likewise All articles which are or may be legally imported were imported in Japanese vessels. of whatever denomination than if such denomination than if such Such

from the place of origin or from any other place

In the same manner, there shall be perfect equality of treatment in regard to exportation, so that the same export duties shall be paid, and the same bounties and drawbacks allowed, in the dominious or possessions of either of the Contracting Parties on the exportation of any article which is or may be legally exported therefrom, whether such exportation shall take place in Japanese or in British vessels, and whatever may be the place of destination, whether a port of either of the Contracting Parties or of any third power.

Article VIII.

The coasting trade of both the Contracting Parties is excepted from the provisions of the present Treaty, and shall be regulated according to the Laws of Great Britain and of Japan respectively. It is, however, understood that British subjects in Japan, and Japanese subjects in the dominions and possessions of Her Britanic Majesty, shall enjoy in this respect the rights which are, or may be, granted under such Laws to the subjects or citizens of any other country.

A Japanese vessel, laden in a foreign country with cargo destined for two or more ports in the dominions and possessions of Her Britannic Matesty, and a British vessel, laden in a foreign country with cargo destined for two or more ports in Japan, may discharge a portion of her cargo at one port, and continue her voyage to the other port or ports of destination where foreign trade is permitted, for the purpose of landing the remainder of her original cargo there, subject always to the Laws and Customhouse Regulations of the two countries.

But the Imperial Japanese Government makes the following concession in addition, that British vessels may carry cargoes between any of the ports hereinafter mentioned, namely, Yokohama, Kobé, Hiôgô, Nagasaki and Hakodate.

The japanese Government, however, agrees to allow British vessels to continue as heretofore for the period of six years from the date the present Treaty goes into operation, to carry cargo between the existing open ports of the Empire, excepting to or from the ports of Osaka, Hakodate, Niigata and Ebisuminato.

Article IX.

Any ship of war or merchant-vessel of either of the Contracting Parties which may be compelled by stress of weather, or by reason of any other distress, to take shelter in a port of the other, shall be at liberty to refit therein, to procure all necessary supplies, and to put to sea again, without paying any dues other than such as would be payable by national vessels. In case, however, the master of a merchant-vessel should be under the necessity of disposing of a part of his cargo in order to defray the expenses, he shall be bound to conform to the Regalations and Tariffs of the place to which he may have come.

If any ship of war or merchant-vessel of one of the Contracting Parties should run aground or be wrecked upon the coasts of the other, the local authorities shall inform the Consul-General, Consul, Vice-Consul, or Consular Agent of the district of the occurrence, or, if there be no such Consular offcers, they shall inform the Consul-General, Consul, Vice-Consul, or Consular Agent of the nearest district.

All proceedings relative to the salvage of British

vessels, wrecked or cast on shore in the territorial waters of the Japanese Empire, shall take place in accordance with the Laws of Japan; and, reciprocally, all measures of salvage relative to Japanese vessels, wrecked or cast on shore in the territorial waters of Her Britannic Majesty, shall take place in accordance with the Laws of Great Britain.

Such stranded or wrocked ship or vessel, and all parts thereof, and all furnitures and appurtenances belonging thereunto, and all goods and merchandize saved therefrom, including those which may have been cast into the sea, or the proceeds thereof, if sold, as well as all papers found on board such stranded or wrecked ship or vessel, shall be given up to the owners or their agents, when claimed the them. If such owners or agents, are not on the spot, the same shall be delivered to the respective Consuls-General, Consuls, Vice-Consuls, or Consular Agents upon being claimed by them within the period fixed by the Laws of the country, and such Consular officers, owners, or agents shall pay only the expenses incurred in the preservation of the property, together with the salvage

or other expenses which would have been payable in the case of a wreek of a national vessel.

The goods and merchandize saved from the wreck shall be exempt from all the duties of the Customs unless cleared for consumption, in which case they shall pay the ordinary duties.

When a vessel belonging to the subjects of one of the Contracting Parties is stranded or wrecked in the territories of the other, the respective Consuls-General, Consuls, Vice-Consuls, and Consular Agents shall be authorized, in case the owner or master, or other agent of the owner, is not present, to lend their official assistance in order to afford the necessary assistance to the subjects of the respective States. The same rule shall apply in case the owner, master, or other agent is present, but requires such assistance to be given.

Article X.

If any seaman should desert from any merchant ship belonging to either of the Contracting Parties within the territory of the other, the local authorities shall be bound to give every assistance in their power

for the apprehension and handing over of such deserter, on application to that effect being made to them by the Consul of the country to which the ship of the deserter may belong, or by the deputy or representative of the Consul.

It is understood that this stipulation shall not apply to the subjects or citirens of the country where the desertion takes place.

Article XI.

British vessels entering Japanese ports shall, *subject* to the provisions of Article XII, pay tonnage and light dues at the time of entry at the Custom-house according to one of the following rates at the option of the masters, owners, or agents of such vessels:—

- 1. 25 sen per ton for one Japanese port of call only
- 2. 30 sen per ton for a period of two months, with the option to call a any namber of Japanese ports, but at no foreign port or ports.
- 3. 80 sen per ton for a period of six months, with the option to call at any Japanese or foreign port or ports.
- 4. Mail Companies may if they desire, free their

vessels from tonnage and light dues for seven consecutive schedule-voyages on paying a duty of 80 sen per ton on the average tonnage of the vessels making such voyages. This payment must be made at the time of the first entry. It shall be calculated according to the schedule arrangement of the Company, on condition that reimbursement shall be made either by the Customs authorities or by the Mail Companies, as the case may be, at the time of the seventh entry, of any excess or deficiency in the dues paid, arising from any changes which may have taken place in the vessels employed.

The net registered tonnage of vessels, as shown by the certificate of registry or other papers, shall be taken as the basis on which tonnage and light dues shall be calculated.

The dutiable tonnage of British vessels shall be the net registered tonnage according to the Rules for the measurement of vessels at present in force in Japan. The Japanese and British systems of tonnage measurement being identical and Japanese vessels being in consequence exempt from re-measurement in British

ports, the Japanese Government agrees that British vessels measured according to the system above referred to shall likewise be exempt from remeasurement in the ports of Japan.

The following vessels shall be exempt from the payment of tonnage and light dues in Japan:—

- Men-of-war.
- 2. Pleasure yachts and pilot boats duly licensed by the Japanese Gevernment.
- 2. Pilot-boats duly licensed by the Japanese Government and Pleasure yachts.
- 3. Fishing-vessels having no cargo on board.
- 4. Vessels of less than 20 tons burden.
- 5. Vessels putting into port in distress or for repairs, provided they do not engage in trade.
- 6. Vessels entering and clearing in ballast.
- 7. Vessels leaving port within forty-eight hours after anchoring, provided they do not land, ship, or tranship cargo, or land or take on board passedgers or mails. Such vessels shall, however, pay a Customs fee of 15 yen.

The fees hither to paid on the entrance and clearance

of British vessels in Japanese ports shall be no longer levied.

Article XII.

No duties of tonnage, harbour, pilotage, lighthouse quarantine, or other similar or corresponding duties of whatever nature, or under whatever denomination, levied in the name or for the profit of Government, public functionaries, private individuals, Corporations, or establishments of any kind, shall be imposed in the ports of the dominions and possessions of either country upon the vessels of the other country which shall not equally and under the same conditions be imposed in the like cases on national vessels in general. Such equality of treatment shall apply reciprocally to the respective vessels, from whatever port or place they may arrive, and whatever may be their place of destination.

Article XIII.

Each of the Contracting Parties may appoint Consuls-General, Consuls, Vice-Consuls, Pro-Consuls, and Consular Agents in all the ports, cities, and pluces of the other, except in those where it may

not be convenient to recognize such offcers.

This exception, however, shall not be made in regard to one of the Contracting Parties without being made likewise in regard to every other Power.

The Consuls-General, Consuls, Vice-Consuls, Pro-Consuls, and Consular Agents may exercise all functions, and shall enjoy all privileges exemptions, and immunities which are, or may hereafter be, granted to Consular offcers of the most favoured nation.

Article . XIV.

The Contracting Parties agree that, in all that concerns commerce and navigation, any privilege, favour, or immunity which either Contracting Party has actually granted, or may hereafter grant, to the Government, subjects, or citizens of any other State shall be extended immediately and unconditionally to the Government or subjects of the other Contracting Party; it being their intention that each country shall be pleced in all respects by the other on the footing of the most favoured nation.

Article XV.

The stipulations of the present Treaty shall be applicable, so far as the Laws permit, to all the Colonies and foreign possessions of Her Britannic Majesty, excepting to those hereinafter named, that is to say, except to—

India.

The Dominion of Canada

Newfoundland.

The Cape

Natal.

New South Wales.

Victoria.

Queensland

Tasmania.

South Australia.

Western Australia.

New Zealand.

Provided always, that the stipulations of the present Treaty shall be made applicable to any of the above-named Colonies or foreign possessions on whose behalf notice to that effect shall have been given to the Japanese Government by Her Britannic Matesty's

Representative at Tôkio, within two years from the date of the exchange of ratifications of the present Treaty.

Article XVI.

All rights, privileges, and immunities hitherto enjoyed by British subjects in Japan under previous Treaties are in so far as they are not abregated or modified by the previsions of this Treaty, or of the Protocol signed this day, hereby expresely maintained and confirmed, and arrangements are maintained during the continuance of British Consular jurisdiction, in so far as they are not abrogated by the stipulations of this Treaty or by the Protocol signed this day; and from the date such Consular jurisdiction ceases to exist, all such rights, privileges and immunities shall be regarded as abrogated unless maintained by this Treaty or by the Protocol aforesaid.

It is also agreed by the High Contracting Parties that at any time after the expiration of five years from the date the present Treaty goes into operation, the Japanese Government shall have the right of

giving to the British Government notice of its intention to terminate Articles I, V and VI of the present Treaty; and that at the expiration of twelve months after such notice shall have been received by the British Government the said Articles shall cease to be binding.

Article XVII.

The present Treaty shall come into force one month after the exchange of the ratifications, which shall take place at Tôkiô within one year after its signature, on the.....day of the.....month, of the.....year of Mehi, or the.....day of.....189..... and shall remain in force for twelve years. after the exchange of ratifications.

Either High Contracting Party shall have the right, at any time after eleven years shall have elapsed from the date of the exchange of the ratifications, this Treaty goes into operation, to give notice to the other of its intention to terminate this Treaty the same, and at the expiration of twelve months after such notice is given this Treaty, shall wholly cease and

determine

Article XVIII.

The present Treaty shall be ratified and the ratifications shall be exchanged at Tokio as soon as possible.

In witness whereof the respective Plenipotentiaries have signed and sealed this Treaty in quadruplicate, two copies being in the Japanese, and two copies in the English language. All of these copies have the same meaning and intent, but in case of conflict the English text shall decide.

Done at the city of Tôkiô, this day of the month year of Meiji, corresponding to the day of , in the year of the Christian era.

(英文)

青木外務大臣ョリ英國公使ニ送付セル議定書草案

Draft of Protocol

The Government of Her Majesty the Queen of Great Britain and Ireland, and Empress of India, and the Government of His Majesty the Emperor of Japan, being desirous of concluding an equitable arrange-

ment in regard to the question of the jurisdiction exercised under existing Treaties by Great Britain over her subjects in Japan, and such other matters as it is also considered advisable in the interests of both countries to regulate, apart from the Treaty of Commerce and Navigation signed this day, have, through their respective Plenipotentiaries, agreed upon the following stipulations:—

1. It is agreed between the two Governments that the Consular jurisdiction exercised by Great Britain over her subjects in Japan shall, continue to be exercised for a minimum period of five years; that if, at the empiration of that period, the Japanese Codes and Laws have been in actual and satisfactory operation for a continuous term of twelve months, the Consular jurisdiction of Great Britain in Japan shall thereupon cases to be exercised, but that otherwise the said jurisdiction shall continue until the aferesaid continuous term of twelve months during which the Codes shall have been in actual and satisfactory operation shall have elapsed. cease to be exercised five years after the Treaty of Commerce

and Navigation, signed this day, goes into operation; and that with the cessation of British Consular jurisdiction, all privileges and immunities in regard to jurisdiction which British subjects in Japan may have enjoyed under previous Treaties and arrangements, shall cease to exist. The foregoing stipulation are based upon the expectation that the Japanese Codes and Laws recently promulgated are in the meantime to be put into force.

It is further agreed between the two Governments that, in anticipation of the cessation of the Consular jurisdiction, an arrangement shall be entered into between Her Majesty's Representative in Tôkiô and the Japanese Government, with respect to the future tenure of land in Japan by British subjects, the incorporation of the existing foreign Settlements with Japanese commerce, and the transfer of Municipal funde on the basis of Article XXII of the draft Treaty preposed by the Japanese Government in December 1883; and that with the cessation of British Consular jurisdiction all privileges and immunities in regard to jurisdiction which British subjects in Japan may have

enjoyed under previous Treaties shall thereupon cases to the laws of Japan relating to real property. respect of similar real property owned by native subsame Imperial and local taxes as are imposed in thereof, such real property shall be subject to the property shall then cease to be collected, and, in lieu nese Government. leases, be registered as absolute owners by the Japaowners thereof, and shall, upon surrendering their such real property shall thereupon become absolute property then held or rented by British subjects either Consular jurisdiction in Japan, the titles to all real to exist simultaneously with the cessation of British jects, and shall also, in all other respects, be subject be converted into absolute titles, and the lessees of Japanese Government under leases in perpetuity, shall jointly or severally, in trust or otherwise, from the The rents now paid on such real

It is, however, understood that, in all cases where a reduction in rent on land held under leases in perpetuity has been made by the Japanese Government on account of the uses to which such land has been devoted, the taxes hereafter to be levied in lieu of such

rent shall not exceed the amount of such reduced rent.

When the foregoing changes in the tenure of real property have been effected, the several foreign settlements shall be completely incorporated with the respective Japanese communes. They shall thenceforth form integral pertions of the municipal system of Japan, and the competent authorities shall assume all municipal obligations and duties in respect thereof. At the same time the municipal funds and property belonging to such settlements shall be transferred to the said Japanese Authorities.

All lands which have been hitherto given by the Japanese Government free of rent for public purposes in the foreign settlements shall, subject to the right of eminent domain, be permanently reserved, free of all taxes and charges, for the public purposer for which they were originally set apart.

2. It is agreed between the two Governments that the opening of the whole of Japan, unconditionally, to British subjects shall take effect from the date of the cessation of British Consular jurisdiction; that from the same date there shall be entire freedom of

country. subjects in Japan and Japanese subjects in Great commerce and navigation between the dominions and tary service, or contributions in lieu thereof, and billehouses, and the possession of real estate and in all and travel, as well as in regard to the right, for possessions of the two Governments; that British public exercise of their worship, and the right of entire liberty of conscience, the right of private or ernment shall enjoy in the territories of the other most favoured nation; that the subjects of each Govthan native subjects or the subjects or citizens of the and shall be subject to no higher imports or charges, ting, enjoy the same rights, privileges, and immunities; matters of jurisdiction, taxation, exemption from miliand owning, hiring and occupying houses and wareresidential and commercial purposes, of leasing land Britain shall, in regard to all rights of residence as may be established or maintained for that purpose religious customs in such suitable or convenient places burying their respective countrymen according to their -sulject alwage to the Low and Regulation of each

It is, however, understood that the foregoing stipulations are subject always to the Laws, Ordinances and Regulations of each Country respectively.

authorities in the Prefecture in which an open port passports available for any part of the country and allow British subjects, on the production of a certifithe Empire are to be maintained governing British subjects who visit the interior of for Foreign Affairs. Representative in Tôkiô and the Japanese Minister Regulations to be determined by Her Majesty's transactions while in the interior; the necessary passports thus issued shall not engage in commercial is situated; it being understood that the bearers of Japanese Foreign Office in Tôkiô, or from the chief for any period not exceeding twelve months, from the at the open ports in Japan, to obtain upon application, tative in Tôkiô, or from any of Her Majesty's Consuls cate of recommendation from the British Representhe existing passport system in such a manner as to of the country to British subjects, agrees to extend The Japanese Government ponding the opening existing Rules and Regulations

4. The Japanese Government undertakes, before

the cessation of British Consular jurisdiction in Japan, to join the International Conventions for the Protection of Industrial Property and Copyright, and to pass Laws giving full effect to these Conventions.

4. It is agreed between the two Governments that from the date of the cessation of British Consular jurisdiction in Japan, the subjects of each of the Contracting Parties shall enjoy in the dominions and possessions of the other the same protection as native subjects in regard to copyrights, patents, trade-marks and designs, subject to the conditions and formalities prescribed by laws, ordinances and regulations of each Country.

5. The Japanese Government, in view of the altered conditions of trade which may be created by the operation of the revised Tariff annexed to the Treaty of Commerce and Navigation signed this day, undertakes to establish a system of private bonded warehouses on the basis of the Regulations framed during the Conference for the revision of the Treaties in 1886-87, should the necessity for the establishment of this system arise.

The present Protocol, which shall be ratified at the same time as the Treaty of Commerce and Navigation, concluded this day, shall be considered as forming an integral part of that Treaty and shall have the same force, value and duration

附屬東

政府カ提出スル修正ノ説明書大不列顧國政府ノ條約改正對案ニ就キ帝國

ヲ除クノ外ハ別紙修正條約草案ニ掲載スル所ニ據ル此說明書ニ於テ用フル箇條ノ番號ハ特ニ指示スル場合

的ハ該必要ノ起因セシ理由ヲ指示スルニ在ルナリヲ提起スルノ必要ヲ感スルニ至レリ卽チ此說明書ノ目ニ帝國政府ハ該條約草案井ニ議定書ニ就キ些少ノ修正特神ノ親睦且ツ寬裕ナルコトヲ承認シ就中之ヲ結構シタルシ其簡明且完全ナルコトヲ承認シ就中之ヲ結構シタルシ其簡明且完全ナルコトヲ承認シ就中之ヲ結構シタル

傑 約

フルニ在リ將叉此新條ヲ殖民地ニ關スル簡條ノ次ニ編除シ千八百八十八年ノ提案第二十條ヲ回復シテ之ニ換帝國政府カ挿入セント欲スル第一ノ修正ハ第一條ヲ削

モノナルコトヲ開陳スルハ至當ナル可シノ所ニ於テ充分ニ之ヲ說明スヘシト雖トモ此ニ該俟款が別の一般更の毫モ其勢力叉ハ價値ノ損減ニ關モサルノ位置ノ變更の毫モ其勢力叉ハ價値ノ損減ニ關モサルクは一般を受して、

此提議ヲ助成スル爲ヌ左ノ事件ヲ開陳ス可シ油、味淋及ヒ煙草ト同一ノ取扱ヲ受ケシムルニ在リノ牧稅上外國ノ製藥又ハ專賣藥品ヲシテ輸入ノ酒、醬第一條 本條ニ於ケル修正ノ目的ハ條約ニ依リテ內國

文字ヲ刪除シタルカ故ニ第一條ニ載セサル輸入品 税ヲ賦課スル權利ニ關スル先頃ノ議論ニ於テ提起セラ シ日本カ内國税ヲ賦課スル權利ノ抑止ヲ明瞭ニスル 包含セラル可シ而シテ後段ノ修正ハ運搬ニ關スル形樣 ヲ擴張スルカ故ニ先頃ノ議論ヲ惹セル物品モ亦其中ニ 議セル修正ト對照シテ思考セサル可カラス尤モ此兩個 輸入二係ル貨物ヨリハ寧ロ不列顛國ノ貨物ニ關スへキ 及ヒ第二條ト照應セシメンカ爲メノ必要ナリ通商條約 モノナリ又本條二於ケル第二ノ修正ハ第一條二就キ提 チ此規則ニ遼フナリ而シテ本條ハ勿論不列顚國臣民ノ 人ノ本國ヲ問ハサルヲ常例トス第一條及モ第二條ハ卽 = 臣民カ」ナル文字ニ代用シタルハ本條款ヲシテ第一條 天産、生産或ハ製造ニ係ル」ナル文字ヲ「大不列顚國 テ種スナル異論ラ含容スル所ノ問題ヲ撤去スル 於テハ互相條款ノ限目トシテ物品ノ本國ヲ問フテ商 タリ前段ノ修正ハ内國割增税ヲ課スヘキ物品ノ區域 修正ハ共ニ現行條約ニテ帝國政府カ輸入物品ニ内國 本條ニ於テ「大不列顚國皇帝陛下ノ版圖內ノ コト 三對 ヲ

神奈川ノ開港場タルト同一ナリ尤兵庫ハ別ニー港ヲ有事實アルニ因ル夫レ神戸カ兵庫ノ開港場タルハ横濱カ 大ニ殺減シタルヲ以テ護與ノ價值ハ殆シト烏有ニ歸シ 開港場ナレトモ外國商人カ關係ヲ有スル貿易ノ部分ハ 外||一人港ヲ許可セシコトナク且ツ外國商人ハ兵庫 シ内國船ノ往來スル所ナレトモ稅關アルニ非ラスシテ カラサルナリ帝國政府カ本條中ヨリ兵庫港ヲ除カント 業ヲ廢止シタル港場ニ及ホス可シトノ要求ヲ維持ス可 ササル港場ニ及ホシ若クハ外國商人为實際既ニ貿易事 ナ 尚ホ幾分カノ活氣ヲ有スルモノナリト見做スモ之ヲ以 實際ニ其勢力ヲ失ヒタルモノナリ假令へ該理由ニシテ 水運業二於テ何等ノ利益ラモ有セサルナリ又函館ハ ル希望ハ郎チ同港ハ未タ外國貿易ノ爲メ開カサル リ終リニ臨ミ帝國政府ハ外國船舶ノ有スヘキ沿海貿 十八年中ニ唯夕二艘ニシテ合計千九百六十噸ナリチ 即チ貨物ヲ搭載シテ函館ニ入源セシ外國船ハ千八百 ルモノナリ此論ヲ確證スル爲ヌ左ノ統計ヲ揭示スヘ 沿海貿易ニ關スル讓與ヲ擴張シテ從來外國貿易ヲ許 十九年中ニハ三艘ニシテ合計四千二百五十五幅 1

> 需要ニ應スル能ハス隨テ外國商人力常ニ相當ノ運賃ニ 業ヲ認許セラルヘシトノ發議ヲ提出シタル唯一否ナ重 ヲ繼續スルニ過キサルナリ而シテ帝國政府へ此意義 貿易上制限付ノ回漕ヲ認可スルモ更ニ新讓與ヲ允准ス 修正ノ受納如何ニ屬セシムルコトヲ希望スル ヲ得ヘシ隨テハ帝國政府ハ本條約修正ノ採用ハ レトモ近年内國商船ノ大ニ増加シタルヲ以テ該理由 テ其貨物ヲ運搬スハ能ハサルノ虞アリト云フニ在リ然 要ナル理由ハ内國船ノ噸數不足ニシテ充分ニ該事業ノ カ帝國沿海貿易ニ就キ外國船舶ハ少クモ制限付ノ回漕 顚國政府 / 同意 ヲ 得ル充分ナルモノナリ夫レ締盟各國 ス テ不列顚國船舶ニ沿海運輸ヲ認許スヘキ港場ニ關シ不 テ第八條ノ末節ヲ修正スルコトヲ希望シ且新條約ニ於 ルモノト看假ス可カラスシテ該船舶ハ單ニ現在ノ質業 ニ積荷ヲ運搬スル故ニ帝國政府カ今後該船舶ニ其沿海 ルコト 、顚國ノ對案ニ掲載スル港名中ヨリ兵庫及箱館ヲ削除 .提議ノ由テ起リタル思議へ卽チ今般ノ變更ニ付不列 不列顛國船舶ハ現今實際上帝國ノ諸開港場間 ヲ希望スルモノナリ帝國政府ノ判斷ニ於テハ モノナ =

據リ 得サルノ場合ニ遭遇セリ千八百九十年二月ノ覺書ニ 第十條(不列顧國草案)帝國政府ハ不列顧國政府ニ 帝國政府ハ正義若クハ其半途ノ約東ニ加入セサル 締結スルコトハ斷然爲ササルコトニ決心セルヲ以テ斯 該覺書ヲ提出シタル後ニ發達セル事情ノ必要ニ迫ラレ 未夕此請求ヲ載セサリシニ外ナラスト雖モ帝國政府 易權ノ期限ヲ短縮スルコトヲ切望ス不列顧國草案ノ第 主義ニ反對スルヨリハ寧ロ帝國政府ハ鞏固ナル政略 ナリ此反對論ハ沿海貿易ノ爲メ外國船舶ヲ雇入ルル 決心ニ反省スルトキハ此反對論ヲ度外視スル能ハサ ナリ本條ニ關シテハ自今强硬且ツ鞏固ナル反對論アリ 現在ノ事態ヲ其儘無期限ニ維持スルコトヲ欲スル ル場合ニ遭遇センヨリハ寧ロ帝國ノ利益上ニ有害チル シ本條ノ削除ニ同意セラレンコトヲ請求スルノ己ム 十條ヲ削除シ新稅則ノ有效期限ヲ短縮セントスル提議 モ完全且滿足ナル實行ヲ遂クル能ハサル所ノモ ヲ得ス此ニ及フモノナリ帝國政府ハ何タル條約タリ 理由ハ拘シク本條ニ於ケル修正ニ適用スルモノナリ 羈絆ヲ受ケサ ル ノ方向ヲ取ルヘキニ左 ハナク テ國 モノ ノヲ ŀ 1

青木外務大臣時代

對英交涉 三七七

スル 府ノ滿足ヲ得ヘシト帝望スルモノナリ帝國政府ハ該請 我商船ハ殆ント皆ナ不列顚國ニ於テ築造ス チ不列顧國ノ利益ヲ增進スルノ傾向ヲ有ス何トナレ 求ヲ助成スル爲メ提出セシ思議ヲ確信シ深ク之ニ依頼 有スルニ非ラサルコトヲ示スニ足ルヲ以テ不列顛國政 府二於テ敵意ヲ挾ミタル立法ニ從事セントスル 從事スルノ事實ハ即チ本條ニ揭クル請求ハ敢テ帝國政 際上ノ契約ヲ以テ自己ヲ東縛シタリトノ觀念ニ反 サルヘシ卽チ我國ノ航業ヲ擴張セントスル各方案ハ卽 ノ外國船舶カ或ル未開港場間ニ於テ荷物運搬ノ業ニ モ ト雖モ尚水此ニ左ノ一件ヲ附加スルモ不當ニ非ラ ノナリ帝國政府カ自三設定セル法律ニ據リ ルセノに 意望ヲ 現今夥 ~

ノ目的ハ噸税ヲ計算スル基礎ノ畫ーヲ保持スルニ在リ保證ヲ與フルノ必要ヲ廢止スルニ在リ輸入税ニ關シテ特別ノ保證ヲ與フルノ必要ヲ廢止スルニ在リ輸入税ニ關シ右同様ノ與フルノ必要ヲ廢止スルニ在リ輸入税ニ關シ右同様ノ與コルノ必要ヲ廢止スルニ在リ輸入税ニ關シ右同様ノ與コルノ必要ヲ廢止スルニ在リ輸入税ニ関シ右同様ノ

様ノ文字ノ範圍ニ關スル疑義ヲ盡ク撤去スルニ在 船舶ハ帝國及ヒ不列顧國ノ船舶ニ課スル所ト總額上相 以テ他國ト締結スヘキ條約ノ模範ト爲スコトヲ希望ス 目的ハ「日本政府ヨリ正當ノ認可ヲ受ケタル」ナル 増加ヲ計ルコトヲ障碍スルノ效アルヘシ第三修正中 ルカ如キハ「ムールソン」ノ量度法ヲ採用セサル國ノ 現在帝國ニ實行スル船舶量度法ハ不列顧國ト同様ナ ノ條令ハ少クモー部分ハ該港ニ適用セサルヘシ將又他 ル築港工事且ツ計畫中ナル倉庫ノ建設ニ關シテハ提議 ル」ナル文字ハ新量度法ノ方便ヲ用ヒテ間接ニ噸稅 ハ純噸數ハ其量度法ノ相ヒ異ナルニ隨テ差アル ヒ異ナリタル頓税ヲ徴收スルノ結果ヲ見ルヘシ何ナレ カ故ニ本修正ハ不列顛船舶ニ關スル分ハ全ク不要テレ コト ハナリ且又提議ノ修正中ノ「現今日本ニ於テ實行ス モノニシテ若シ各新條約二於テ該原文ノ文字ヲ存ス モ帝國政府ハ今回不列顧國ト締結セントスル條約 倉庫規則及ヒ港則ヲ制定スルノ權ヲ自ラ保有ス ヲ望ムモノナリ現今横濱二於テ施行中ノ廣大ナ (英國草案)帝國政府ハ都テ必要ナル 貿易 モノナ IJ

港ノ保存並ニ航業ノ統轄及ヒ差配ハ特ニ内國立法ノ節 盟國ト同一ナル利害關係ヲ有スルコトヲ信シ且ツ港灣 調製シタル條令草案ヲ以テ將來立法ノ基礎トスルコト 圍內及と其管理ニ屬スヘキノ車項ナリトノ意見ヲ把持 樣ノ結果ヲ呈スヘシ加之ノミナラス帝國政府 ノ改良スルニ隨ヒ假令へ特ニ地方條令ヲ制立セサルト ニ同意スヘシト雖モ本問題ニ對シテハ帝國政府ハ各締 ルモ 得策ニ (ノ結果ヲ呈スヘシ加之ノミナラス帝國政府ハ常ニ諸港場ニ於テモ右ニ均シキ工事ヲ起スカ如キアラハ同 キヲ以テ帝國政府ハ芸條令ノ國際契約ノ問題ト ルモ必ラス右ノ條令ヲ修正スル ノニシテ千八百八十六年井二七年ノ命議二於テ 非ラサルコトヲ思量スル ニ至レく ノ必要ヲ見ルニ至ル 爲ス

事裁判 除棄ス 續中ハ新條約又ハ議定書ニ於テ特ニ廢止セサル習慣上 單々契約上ノ特許、 顧國對案ノ第一條ハ一種ノ廢棄條款トシテ質施セラル 然レトモ帝國政府ハ左ノ確信ヲ有ス卽チ總テ此等ノ特 維持スルノ當然ナルコトヲ承認スルニ憚カラサル シテ其積極上ノ形式ニ於テハ新契約カ特ニ 以後トノ期限ノ區別ヲ爲ササルモノナリ而 ヲ有セサルモノナレハ領事裁判廢止ト共ニ消滅スヘキ ヘシ此新條ハ其消極上ノ形式ニ於テハ領事裁判權ノ綴 モノナリ此ニ本條ヲ以テ換置カント希望スル所ノ不列 ニシテ該裁判ノ存セサル限リハ獨リ成立スヘキノ事由 ニ於テハ消極上ノ形式ヲ有スルノミナラス其應用 免除ハ直接ニ領事裁判ニ關係ヲ有スルモノニ非ラ モ尚ホ之ニ附隨スル事項ナリト認メラレタル 都テノ特許、 契約上ノ特許、觅除ハ總テ全ク之ヲ維持セシメ ニ提出スル代用條款ニ於テ之ヲ補充スル ルコトヲ明示スルモノナリ故ニ一方ニ於テハ 存スル限リハ特許、 **発除ハ領事裁判ノ廢止ト同時ニ之** 免除ニ止マリ領事裁判廢止以前ト 免除ニ關スル現事態ヲ 繼續セ シテ コトヲ得 、此缺點 モ シ 而 メ

タルモノニシテ若シ之ヲ實施後六年ニシテ期限ノ經過又今回提讓ノ税則ハ千八百八十三年ニ於テ採用セラレ 帝國政府ノ各部カ承認スヘキ調和的性質ヲ帶フルモノ 與フル爲メ新條項ヲ本條ニ挿入セントスル 若クハ通知ニ由テ終了スルトスルモ尚ホ遠ク最初ノ 不列顧國對案ノ第十條ヲ削除スル爲メニ ヒ最惠國ノ諸條款ハ之ヲ阻碍スルノ效力ヲ有スヘシ且 = 一層强ク適用スルモノナリ而シテ此ニ指示スル期限 帝國政府ニ六年ノ後ハ關税契約ヲ終了スル たし 依賴スル傾向アリトスルモ提議條約中ノ互相待遇及 對シテ特種ノ關稅ヲ賦課スルカ如キ不當不親ノ計畫 ルニ至ラシメタル考案ノ外ニ該提議ヲ助成センカ爲 リ將又帝國政府ヲシテ此修正ヲ要求スルノ已ムヲ得 ニ延長スヘシ而シテ帝國ハ唯タ該期限ノー小部分 開陳ヲ爲ス可シ即チ萬一帝國カ不列顧國ノ貨物 提出セ た意見ニ對 ノ權利 ル 期 ニ

モノナリモノ貴施ニ關スル擔保ヲ新條約ニ明記スルハ保リ新法典ノ實施ニ關スル擔保ヲ新條約ニ明記スルハイの原とニ際シ新法典ノ實施ヲ豫リスル事實ヲ表明スルノ廢止ニ際シ新法典ノ實施ヲ豫リスル事實ヲ表明スルハアをよっ

市國政府ハ諸約款ヲ可成的完全ニシ且ツ將來協議ニ付忠の手不列顧國政府ニ於テ將來談判ノ基礎ト爲スヘキセ即チ不列顧國政府ニ於テ將來談判ノ基礎ト爲スヘキセ即チ不列顧國政府ニ於テ將來談判ノ基礎ト爲スヘキセリチ不列顧國政府ニ於テ將來談判ノ基礎ト爲スヘキセリチ不列顧國政府ニ於テ將來談判ノ基礎ト爲スヘキセリチ不列顛國政府ニ於テ將來談議ニ付

サル可ラスト 同時ニシテ且ツ其廢止ノ為メナルヲ以テ之ヲ削除セト同時ニシテ且ツ其廢止ノ為メナルヲ以テ之ヲ削除セナル文字ハ帝國ノ內地ヲ開クハ領事裁判權ヲ廢止スル第二節 帝國政府ノ所見ニテハ本條ノ「條件ナシニ」

帝國政府ハ土地ノ所有權ニ關シ本條二第二ノ修正ヲ加

青木外務大臣時代

對英交涉

ニセセ

ニ非ラサルヘシ

要ナラシム
要ナラシム
要ナラシム
要ナラシム
要ナラシム

ト云フノ外更ニ説明ヲ要セサル可シシテ第十七條ノ修正ハ此變更ヲ要セシムルニ至リタル第十八條 本條約ノ修正ハ唯其形式上ニ止マルモノニ

静 坛 書

ヌサルニ昨ラスト雖モ前記ノ豊書ニ掲クル理由アハニア適施シ得ルハ帝國政府ハ領事裁判權ノ廢止ニ先チ新法典ヲ實施スルノ必要ニ關シテハ更ニ疑ヲ容ルルノ意ナ典ヲ實施スルノ必要ニ關シテハ更ニ疑ヲ容ルルノ意ナルミナラス外國人ニ對シ裁判權ヲ行フニ當リ新法典第一節 新法典ニ關スル約束ノ撤回ハ千八百九十二年第一節 新法典ニ關スル約束ノ撤回ハ千八百九十二年

開陳セサル可ラス抑モ日本國ノ位地ハー種特別 年二月ノ覺書幷ニ其附屬書翰ニ揭ケシ論旨ヲ茲ニ再 自ノ處置ニ任スヘシトノ說ヲ維持スル爲メ千八百九 今回始メテ外國人居住及ヒ生産業ノ爲メ全開通ノ フノ不得策ナルハ帝國政府ノ益々確信スル所ナル旨 百七十年ノ事ニシテ其主要ナル諸殖民地ニ於 不列巓國ニ於テ外國人ニ土地所有權ヲ許與セシハ千八有權ヲ領得セシメントスルハ穩當ナリト云フヲ得ス大 條件ノ存スルニ非サレハ充分ニ享有シ難キ所ノ所ノ所 ナリ因テ帝國政府ノ判斷ニテハ此本件ヲ試設期 スルモ更ニ何等ノ危險ナキヲ認ムルト雖モ其結果ノ ヲ試ミントスルモノナリ帝國政府ハ固ヨリ全國ヲ開通 ヘント欲ス即チ外國人土地所有權ノ問題ハ關係諸國各 **ホ全ク此権利ヲ許與スルコト** ヘキ 至リ此 ラ正確ニ且ツ充分ニ豫見スルヲ得ヘシト思考 ノ必要ナシト雖モ本件ニ關シ差當リ國際條約ヲ結 時期間ニ於テ外國人ヲシテ敢テ一定明確ナル ラ附シ 特典ヲ撤回スルヲ必要ト認メタリ テ之ヲ許與スルニ ナ シ又其他ノ殖民地 過キス合衆國ハ 而 ルテハ今尚 ニシ テ歐洲 ጉ セ モ稱 サ N 如 ァ ヲ

臣民ニ附與スル覺悟ナリ此約款ノ有益ナルコトラ示ス 國政府ニ於テ外國人ニ土地所有權ヲ享有セシムルヲ安 ルコト ハ三十年ニシテ永貸借期ハ五十年ナルコトヲ明言 爲メ新民法ノ規定ニ依レハ通常不動産ノ有效貸借期限 屋倉庫ヲ所有シ使用シ賃借スルノ權利ヲ大不列顚國ノ ハ帝國政府ハ居住及ヒ商業ノ爲メ土地ヲ賃借シ丼 ハ法律ノ精神寛大ナルヘキヲ期スルカ故ナリ尤モ其間 全ト認ムルトキハ直ニ之ヲ許與スヘキコトヲ確言スル セシーノ特典ナル 大陸ノ諸國ニ於テモ悉ク全體ニ此特典ヲ許與スト云フ 非ラス前述ノ事情ニ徴シ且ツ古來交通貿易ノ關係ア 諸國間ニ於テスラ土地所有權ハ最終ニ外國人ニ許與 ニ關シテハ敢テ疑ヲ容ルルノ要ナシ然レトモ帝 コトヲ顧ミルトキハ該修正ノ公正ナ ご家 ス

スルヲ要スルモノトス

八充分ナルヘキヲ以テ本節ハ其節ニ明示スル如ク修正

依り帝國政府ハ該修正ヲ撤回シ唯タ本件ニ關シ大不列斯ノ如キ約款ヲ加フルヲ欲セサルノ意ヲ表明シタルニ政府ノ確信スル所ナリ然レトモ大不列顧國政府ニ於テ政府ノ確信スル所ナリ然レトモ大不列顧國政府ニ於テ政府ノ確信スル所ナリ然レトモ大不列顛國政府ニ於テ

關スル現行規則ハ新條約ヨリ生スル新事件ニ應スルニ第三節 帝國政府ノ所見ニテハ内地ニ於ケル外國人ニ認スル所ナルヘキヲ確信スルナリ 観國政府ノ提案ニ掲クル提議ノ文體ニ聊カ變更ヲ加ヘ 顧國政府ノ提案ニ掲クル提議ノ文體ニ聊カ變更ヲ加へ

ル諸國ニ限ルヲ可トスラスト雖モ差當リ本件ニ關スル約定へ新條約ヲ締結ス種及ヒ版權ニ關スル萬國條約ニ加盟スルコトナキニ非第四節 帝國政府ニ於テ將來時宜ニ依リ工業上ノ所有

論

二及と第三ノ修正ハ新案ニシテ該覺書調製以後ニ發生第一ノ修正ハ千八百九十年二月ノ覺書中ニ包含セリ第第三ニ契約税則ノ繼續期限ヲ短縮スルコト是ナリキス即チ第一ニ土地所有權ヲ許與スル條款ヲ削除スルコト及ヒコト第二ニ不列顛國草案ノ第十條ヲ削除スルコト及ヒキス即チ第一ニ土地所有權ヲ許與スル條款ヲ削除スルコト及ヒキニッのでは、

於テハ 修正ヲ提出スレハ今般ノ改正事業ハ大ニ其利益ト爲ル 現行條約ヲ基礎トシテ之ヲ考フルトキハ帝國政府 與ニ起由スル關係リ爲メ幾時カ其獨立主權ヲ抑制セラ 亦當然ナルヘシ卽チ帝國ハ斯ル例外且ツ無報酬ナル讓 キモノタルコトヲ要求シ難キヲ以テ左ノ問題ヲ起スモ 判ニ關スル主權ヲ回復スルニ對シ永久其阻碍ヲ爲 一方二於テハ不列顚政府ノ親厚ナル擧措ヲ感荷スル旨 ノ事實へ充分ニ諒知スル所ナル故ニ帝國政府ハー方ニ スヲ以テ充分ナリトノ案ニ同意センコト是ナリ ハ不列顧國政府为該利益關係ハ新税則ヲ六年限リト ルルノ義務アルヤ是ヲ以テ帝國政府カ眞ニ希望スル所 表彰スル手段ヲ發見スルコトニ勉メタリ此等ノ目的 ヲ以テ帝國政府ハ左ノ取極ヲ爲スコト 實際二於テ該事實ヲ承認スルコトヲ示シ又他ノ **=** 同意 入此 ス 爲

第二、噸税及燈税ノ率ヲ低減スルコト卽チ左ノ變更第一、領事裁判權ノ繼續期限ヲ一箇年延長スル事

、
貳拾五錢ヲ改メテ貳拾錢ト爲ス

ハ之ヲ度外視スルノ得策ニ非ラサルヲ思惟スルモノナシタル寓情ソ必要ニ起由シタルモノナレトモ帝國政府

サレハ初ョリ存在セルモノナリー 第一及ヒ第二ノ修正ハ全ク新問題ニ屬スルヲ以テ毫モ ベデル閑難ニ遭遇スルコトヲ豫期セサルヘシト雖モ第 ニノ修正ニ關シテハ帝國政府ハ重大ナル不利益ヲ負擔 ニノ修正ニ関シテハ帝國政府ハ重大ナル不利益ヲ負擔 メルモノナリ即チ此不利益ハ岩シ該問題カ全ク新規ニ メルモノナリ即チ此不利益ハ岩シ該問題カ全ク新規ニ メルモノナリ即チ此不利益ハ岩シ がレハ初ヨリ存在セルモノナリ

二世カラス而シテ連等ス利益關係ハ帝國カ關稅丼ニ裁ルヲ以テ之ヲ全ク度外視スヘカラサルコトヲ承認スルルヲ以テ之ヲ全ク度外視スヘカラサルコトヲ承認スルガニ裁判権ニ關シテハ利益關係ノ業已ニ生スルモノア井ニ裁判権ニ關シテハ利益關係ノ業已ニ生スルモノア井ニ裁判権ニ關シテハ利益關係ノ業已ニ生スルモノア井ニ裁判権ニ關シテハ利益關係ノ業已ニ生スルモノア共ニ裁判権ニ関シテハ利益關係ハ帝國カ關稅丼ニ裁ルヲ以テ之ヲ全ク度外視スヘカラサルコトヲ承認スルニ軍カラス而シテ連等ス利益關係ハ帝國カ關稅丼ニ裁ルヲ以テ之ヲ全ク度外視スヘカラス市シテ直チ治シ帝國ニシテ連等ス利益關係ハ帝國カ關稅丼ニ裁ルヲ以テ之ヲを持た対域の、

青木外務大臣時代 對英交涉 三七七

案中ノ條項中ニ編入スルコトヲ好マス何ナレハ此等ノ 帝國政府ハ以上ノ提議ヲ以テ此說明書ニ附隨スル條約 所及ヒ形式ニ於テ挿入シ得ルノミナラテ直チニ新條約 若シ不列顛國政府二於テ修正簡條ヲ採納セラル 箇條ハ全ク他ノ修正ノ採納如何ニ屬スレハナ 帝國政府ニ於テハ管ニ以上ノ提議ヲ以テ相當ノ場 二、参拾酸ヲ改メテ貳拾五錢ト爲ス 三及四、八拾錢ヲ改メテ七拾錢ト爲ス ij ルカ如

右發遣ノ目付明カナラザルモ青木子「條約改正記事」 テ假リニ英公使回答ノ日付トスニョレハ英國公使ハ直チニ回答ヲ寄セヌリトア 依

締結スルヲ得ヘシ

别

條約草案ニ對スル青木外務大臣意見

非ス況ンヤ對外ノ國務ヲ處裁スルニ當リ曾テ失ヘルノ國權 當時周藏退テ事ノ情勢ヲ沈思默考セルニ隴ヲ得テ蜀ヲ望ム 、恢復セント欲セハ旣ニ一步ヲ得ルニ及テハ更ニ進テ一步 恰モ人生ノ常情ニシテ未タ必スシモ之ヲ非望視スヘキニ ĒĒ 以下ハ青木子「條約改正記事」所載ノ意見ナリ

ァ

表シ能 者ナリ而シテ我縮盟國ハ單ニ英國ノミニ限ラス其他十數國 枉テ無規約條款ヲ承諾スルモ其政府ニ對シ大ニ吳險ヲ踏ム 最惠國條款ノ認可ヲ要求スルカ如キハ英公使ノ到底同意ヲ 誤ルカ如キハ周藏ノ決テ與セサル所ナリ例へハ規約附隨 苦慮セシナリ去ナカラ斯ル難事ヲ處スルニ方リ成ルヘキモ 全ナル條約ヲ締結シ十分朝野ノ希望ヲ滿足セシメンコト ス故ニ何卒シテ層一層進收ノ籌ヲ還ラシ出來得ヘキ丈ケ完 ルヲ以テ誰何ヲ問ハス凡ソ英國公使ノ位地ニ立ツ者ハ縱令 千八百七十年ノ頃布哇國ト彼ノ世評ニ喧シキ砂糖ノ問題起 國條款ニ關シ必ス無規約ノ文字ヲ挿入シタルノ事實アリ且 千八百六十五年以後ニ締結シタル十二箇ノ條約中ニハ最惠 收採セシ以來ハ大二該條款二注意ヲ爲スニ至リタルヲ以テ ヲ取リ之カ爲メ却テ英國ノ好意ヲ害シ隨テ曠日彌久時機ヲ カ所謂世界若クハ萬國經濟ノ區域ニ於テ固執スル通商政 リ故ニ縱令英國ニシテ我請求ヲ納ルルモ佛獨墺伊露等諸 タル以來ハ英國議院モ大ニ此點ニ注意ヲ加フルニ至リタ ト成ル可ラサル ハサル處ナリ何トナレハ英國鄉二自由貿易ノ主義ヲ カラス是レ當時周藏ト雖モ亦感念セサルニ非 モノトヲ區別セスシテ濫リニ 强硬的手段 ヲ

例ヲ調査シタルニは類例正シク左ノ如クナルヲ以テ到底今 時二方リ規約附隨ノ條款ヲ主張スルモ各國ノ承認ヲ得難 トヲ洞觀シタリ 意嚮ヲ祭知セサル可ラス依テ該條款ニ關スル各國ノ慣

種ト 國トノ間ニ締結セル條約中ノ最惠國條款ヲ類別シテ五 他國モ其主義ヲ認許シタルヲ以テ千八百六十五年後ニ 英政府カ其貿易上ノ利ヲ保護スルノ目的ヲ主張シ及ヒ 於テ外國ト締結セル十二條約中ノ最惠國條款ニ無條件 何ヲ挿入セルノ事實ヲ明證スル 爲シ參考ノ材料ニ供ス 卜同時二英國卜豁外

惠國條款ノ拔萃 大不列顛國ト西洋各國ト ノ現行條約中ノ 相互最

條件附キノ明文ヲ有スル 分

コ スタリカ國ト

スルコトヲ目的トスル故ニ此ニ通商及ヒ航海上ノ事 八前二條ノ主旨ニ依り相互ニ最惠國ノ待遇ヲ (千八百四十九年十一月二十七日締結條約第四條)

> 即二 スヘシ 與スヘシ但別國ニ讓與シタルモノニシテ無條件ナレ 現二許與シタルカ若クハ將來許與スルコトアルヘキ恩 項ニ關シテハ兩締盟國ノ一方カ別國ノ臣民或ハ人民 ルヘク丈ケ同様ノ價値及ヒ效力アル交換ヲ得テ讓與 無條件ニシテ之ヲ許與スヘク若シ條件附キナレ 特許若クハ兎除ハ他ノ一方ノ臣民或ハ人民ニモ許 ハ ハ

= 現條約ノ字ヲ換置ケリ 題ノ條約文ト粗ホ相同シ ·IJ ベリア國ト 千條千 八約 百第百 六十年九月七日締結條約第六條)七條及ヒ「ドミニカン」共和國トレ四十八年十一月二十一日締結ノ) 唯前二條ト云フ三字ノ代リ

此二」ノ所ヨリ起項セ 條約文ト同一ナレトモ其前項ヲ略シ 布哇國ト (千八百五十一年七月十日締結條約第三條) 「兩締盟國

<u>-</u>-

蘭國ト (千八百三十七年締結條約第一條)

及と航海ノ事項ニ關シ他ノ一方ニ於テ最惠國ノ臣民ニ 無條件トモ條件付キトモ明文ヲ有セサル分 兩締盟國ノ臣民ハ他ノ一方ノ國内ニ於テハ

自由、殊遇免除及と除役ヲ享有スヘシ 許與セシカ若クハ許與スルコトアルへキ權利に特許、

尾締盟國公文左ノ約東ラ爲ス即チ通商上ノ事項ニ關シ テハ甲ノ一方カ將來別國三許與スルコトアルへキ總テ 殊遇へ同時三於テ乙ノ一方ニモ許與スヘシ 瑞與國上《千八百五十五年九月六日締結條約第十條》

若クハ將來許與スルコトアルヘキ總テノ特許、殊遇及 顧國皇帝陛下カ別國ノ臣民或ハ人民ニ現ニ許與シ若ク ヒ航海ニ關シテハ別國ノ臣民若クハ人民ニ現ニ許與シ 通商上ノ關係ヲ党進スルコトヲ希望スルカ故ニ通商及 除ヲ享有スルコトヲ約ス又全露國皇帝陛下へ兩國間ノ へ將來許與スルコトアルへキ總テノ特許、殊遇及ヒ兔 ハ全路國皇帝陛下ノ臣民ハ不列顛國領地内ニ於テ不列 不列國顯皇帝陛下ハ通商及ヒ航海上ノ各事項ニ關シテ ヒ莬除公不列顚國皇帝陛下ノ臣民ニモ許與スルコトヲ 露國上八千八百五十九年一月十二日締結條約第千條)

(千八百六十二年七月二十三日締結條約第三條)

方ノ臣民ニ均一及と直接ニ許與スル所ノ總テノ特許と 總元航海及と通商上ノ關係ニ付テハ兩締盟國へ他ノー 殊遇或へ免除ノ外へ別國ニ許與セサルヘシ

第三種

無條件ツ明文ヲ有スル分

獨逸國 『ツウルフヘルアイン』ト

無條件ニテ他ノー方ニモ之ヲ許與スヘシ 各殊遇、特許若クハ輸出入關稅ノ輕減ニ關シテハ兩締 (千八百六十五年三月三十日締結條約第五條)

墺、匈國ト

兩締盟國ノ一方カ別國ノ臣民及と通商上ニ許與スルモ 輸出入關稅ノ各輕減ニ關シ及ヒ各殊遇及ヒ免除ニシテ ハ他人一方三七同様且ツ無條件ニテ許與スヘシ (千八百七十六年十二月五日締結條約第三條)

羅馬尼國ト

前條ト同一ナレトモ航海及ヒ臣民、 テモ讓與スルトノ字句ヲ加フ (千八百八十年四月五日締結條約第六條) 通商ノ事項ニ關シ

及と冤除ハ他ノ一方ニモ同様且ツ無條件ニテ許與スヘ 許與シタルカ若クハ將來許與スルコトアルへキ各殊遇 兩締盟國ノ一方ニ於デ別國ノ臣民或ハ通商ニ對シ旣ニ (千八百八十二年一月二十一日締結條約第八條)

佛國ト

ウル

グイ國ト

(千八百八十五年十一月十三日締結條約第一條)

(千八百八十四年十月十六日締結條約第二條)

伊國ト

イクヰドール國ト

(千八百八十年十月十八日締結條約第十二條)

パラグイ國ト

(千八百八十三年六月十五日締結條約第十一條)

若クハ護與スルコトアルヘキ各殊遇、免除或ハ特許ノ ヲ約ス 前略、兩締盟國ハ通商若クハ工業上ニ關スル總テノ事 利益ハ他ノ一方ニモ即時且ツ無條件ニテ讓與スルコト 項ニ付テハ兩締盟國ノ一方カ別國ニ既ニ護與シタルカ (千八百八十二年二月二十八日締結條約第一條)

葡萄牙國ト

事項ニ就キ最惠國ノ基礎ニ置クヘシトノ意思ヲ有スル

因り通商及と航海ニ關スル一切ノ事項ニ於テ現時或

兩締盟國ハ其一方ノ貿易ラシテ他ノ一方ニ於テ各般ノ

以上六個國條約同文

(千八百八十八年十一月二十七日締結條約第二條)

(千八百八十六年十一月十日締結條約第十條)

墨西哥國ト

希臘國小

件ニテ護與スルコトヲ約ス即チ總テ利益、權利、殊遇 内二於テ兩締盟國ハ左ノ事項ニ關シ五二即時且ツ無條 大不列颠聯合王國及と愛蘭土國ト葡萄牙國及と其領地 **免除及ヒ商品ノ輸出入ニ關シ關税ノ特許若クハ輕減ニ** シテ兩締盟國ノ一方カ都テノ外國ニ讓與シタルカ若ク (千八百八十二年五月二十二日締結條約第一條) 白耳義國人

殊遇或へ冤除へ他ノ一方ノ臣民ニモ即時且ツ無 テ之ヲ許與スヘキコト ヲ兩締盟國ニ

於テ

將來其一方ョリ別國ノ臣民へ許與スル

ルコトアル

ヘキ

ンテネグロ國ト

青木外務大臣時代

對英交涉 三七七

ハ讓與スルヘキコトアルモノ是レナリ

摘要

前來ノ條款ヲ分析スレハ左ノ專實ヲ視察スヘシ卽チ

- **闖スル問題ノ範圍内ニ止マル** 列擧スル所ノ條款中其二十ハ特ニ貿易及ヒ通商
- 右中ノ四ハ無條件トモ條件付トモ宣言スルコト

年乃至千八百六十年間ニ成ルモノナリ 而シテ最モ注意スヘキハ條件付ノ條款ハ千八百四十九 右中十二ハ特ニ無條件タルコトヲ宣言ス

年間ニ成レリモ宣言セサル條款ハ千八百五十五年乃至千八百六十二帯國トノ古キ條款ヲ除クノ外ハ無條件トモ條件付キト

第四種

(千八百五十六年十二月九日締結條約第一條) 大不列顧國女皇陛下ノ領内ニ於テ最惠國臣民或ハ人 南スヘシ又「モロコー」國素丹殿下ノ臣民ハ其返報ト 有スヘシ又「モロコー」國素丹殿下ノ臣民ハ其返報ト 有スペシ又「モロコー」國素丹殿下ノ臣民ハ其返報ト 民ニ許與セラレ若クハ許與セラルヘキ同様ノ保護及ヒ 民ニ許與セラレ若クハ許與セラルへキ同様ノ保護及ヒ 特許ヲ享有スヘシ

チーニス國ト

トンガ國ト

(千八百七十九年十一月二十九日締結條約第二條)

青木外務大臣時代

對英交涉 三七七

行條約中ノ最惠國條款不列巓國ト領事裁判ヲ執行スル諸國トノ間ノ現

益互ノ約

モスカツト國ト

(千八百三十九年五月三十一日締結條約第一條)

ボルネオ國ト

(千八百四十九年五月二十七日締結條約第二條)

以上三國同文(千八百六十五年六月二十七日締結條約第二條)

「モスカツト」國素丹殿下ノ臣民ハ歐羅巴及ヒ亞細亞「モスカツト」國素丹殿下ノ領内ニ於テ通商若クハ其他ノ事輿スルコトアルヘキ總テノ特許及ヒ利益ヲ享有スヘシ與スルコトアルヘキ總テノ臣民ハ右同様ニ「モスカツト」
薬丹殿下ノ領内ニ於テ總テノ通商及ヒ利益ニ關シ最惠
製田民若クハ人民ニ許與セラレ若クハ許與スルコトアルヘキモノヲ享有スヘシ

モロコー関ト

「トンガ」國王陛下、同國ニ於テ不列顧國皇帝陛下ニ皇帝陛下ノ臣民ニ均一且ツ無條件ニテ許與セサル所展の主持の、計與セサルコトヲ約定ス又不列顧國皇帝陛下ノ臣民ハ「トンガ」國ニ於テ「トンガ」國臣民ハ不列顧國皇帝陛下ノ臣民ニ均一旦ツ無條件ニテ許與セサル所願皇帝陛下ノ臣民ニ均一旦ツ無條件ニテ許與セサル所の皇帝陛下ノ臣民ニ均一旦ツ無條件ニテ許與セサル所ノ權利、特許或ハ免除ヲ他ノ外國ノ臣民ニ許與セサルハノ權利、特許或ハ免除ヲ他ノ外國ノ臣民ニ許與セサルハノ權利、特許或ハ免除ヲ他ノ外國ノ臣民ニ許與セサルハン

第五種

非相互ノ約

土耳其國卜

テ之ヲ遵守シ向後之ヲ破毀シ若クハ之ヲ違反スル者ア依テ右治外法權、特許丼ニ條款ハ必ス約スル所ニ從ヒ條款ハ朕カ特別ノ勅命ヲ以テ之ヲ英國人ニ惠與シタリ府ト國際ヲ有セルモノニ讓與セシ治外法權、特許丼ニ佛蘭西「ウエネシア」及ヒ其他ノ君主ニシテ土耳其政(千八百七十五年締結條約第十八條)

ラシムヘカラス

遷羅國ト

(千八百五十五年四月十八日締結保約第三條) 國政府丼ニ其臣民ニ於テ自由且ツ均等ニ之ヲ享有シ得後讓與スルコトアル特許ハ其何タルヲ問ハス大不列顛 選羅政府カ巳ニ他國政府若クハ其臣民ニ讓與シ或ハ向

波斯國ト

靑國ト

失倘若他國今後別有潤及之處英國無不同獲其美上年立約所有英國官民理應取益防損各事今仍存之勿上年立約所有英國官民理應取益防損各事今仍存之勿

均霑 他國幷他國臣民人等之處英國及英國臣民人等亦可一體

埃及國ト

(千八百八十四年三月三日締結條約)

シテ護典シ且ツ之ニ其享有ヲ許容スヘシニ共享有ヲ許容スル所ノ權利、特典又ハ兗除ハ總テ均現ニ護與シ若クハ將來讓與スルコトアルヘキカ或ハ之埃及政府カ他ノ外國臣民、船舶・通商及ヒ航海ニ對シ埃及政府カ他ノ外國臣民、船舶・通商及ヒ航海ニ對シ

コンゴー萬國連合

ハ何等ノ便益モ之ヲ他國ノ臣民ニ附與セサル事ヲ約ス本連合ハ不列顛國臣民ニ等一ノ便益ヲ與フルニ非サレ(千八百八十四年十二月六日締結條約第三條)

掆要

ヲ含蓄ス而シテ無條件主義ヲ明載スルハ唯二個ノ場合ヲ帶ヒ其恩惠、特典、莬除及ヒ便益ノ如キハ諸般事項其約スル所單ニ通商及航海ノミニ止ラス皆一般り性質其約スル所單ニ通商及航海ノミニ止ラス皆一般り性質するので、

日本國ト

ル時へ貌利太尼亞政府國民へモ同様ノ免許アルヘシ日本政府ヨリ向後外國ノ政府及臣民ニ許スヘキ殊典プ日本政府ヨリ向後外國ノ政府及臣民ニ許スヘキ殊典プ

サモア國ト

君主或八國ニ讓與セサルコトヲ約ス利、特許、職權若クハ顯位ヨリ餘分ノモノハ之ヲ他ノ利、特許、職權若クハ顯位ヨリ餘分ノモノハ之ヲ他ノ「サモア」國王及ヒ其政府ハ「サモア」國ニ於テ不列「サモア」國王及ヒ其政府ハ「サモア」國ニ於テ不列

一テ之ヲ不列顚國皇帝陛下ノ臣民ニ譲與スヘシ関ハス總テ之ヲ享有スヘク而シテ他ノ外國ノ臣民ニ譲明スヘキ權利、特許及と免除ハ其何タルヲノ臣民ニ譲與スヘキ權利、特許及と免除ハ其何タルヲ不列顚國皇帝陛下ノ臣民ハ「サモア」國ニ於テ最惠國不列顚國皇帝陛下ノ臣民ハ「サモア」國ニ於テ最惠國

朝鮮國ト

於各項進出口貨稅則及一切事宜今後有何惠政利極施及現經兩國議定自以上條約施行日期之後大朝鮮國大君主、任人不可八十三年十一月二十六日締結條約第十條)

ナリニルト雖モ又條件ヲ有スル條款ハ更ニ是レアラサル

題スルカ如キハ到底行ハルヘキモノニ非ラス故ニ此等ノ項 題スルカ如キハ到底行ハルヘキモノニ非ラス故ニ此等ノ項 ラ起サシムルノ虞アルナリ然レトモ彼ノ請求ニ出タル沿海 ラ起サシムルノ虞アルナリ然レトモ彼ノ請求ニ出タル沿海 ラ成セル港則噸稅法及貿易章程ヲ條約書面ヨリ削除シ之ヲ ヲ成セル港則噸稅法及貿易章程ヲ條約書面ヨリ削除シ之ヲ ヲ成セル港則噸稅法及貿易章程ヲ條約書面ヨリ削除シ之ヲ ヲ成セル港則噸稅法及貿易章程ヲ條約書面ヨリ削除シ之ヲ ヲ成セル港則噸稅法及貿易章程ヲ條約書面ヨリ削除シ之ヲ ヲ成セル港則噸稅法及貿易章程ヲ條約書面ヨリ削除シ之ヲ ヲ表シ能ハサルモノト祭知セリ

ラ爲ス事ニ決心セリ 故ニ周藏ハ隴ヲ得テ蜀ヲ望ムノ念起リタルニ方リ左ノ要求

海關税ニ關スル約條ハ本條約締結後六年ニシ

テ終了

- 六年間之ヲ繼續セシムル事 一 其交換トシテ領事裁判ハ一年ヲ延期シ五年ノ代リニスル事
-] 第九條即チ外國船舶傭入ノ條項ヲ削除スル事
-] ・或ル開港場間ノ回漕業ヲ從前ノ通リ差許スコトハ六

青木外務大臣時代

對英涉交 三七七

簡年間ニ制限スル事

結ノ前ニ至リ之ヲ削ルノ内話アリタレハナリ 噸税ノ條款ハ左ノ條約書ョリ削除セス其故ハ條約締一 港則及噸税規則等ハ帝國法律ヲ以テ之ヲ發布スル事

英公使ニ送リクリ書ヲ派付シ本年三月中旬ノ頃極テ懇信ナル手續ヲ以テ之ヲ書ヲ派付シ本年三月中旬ノ頃極テ懇信ナル手續ヲ以テ之ヲ以上ノ趣旨及其他種々ノ修正ヲ包含スル條約案ヲ表シ説明

附錄

> 權利ヲ享有シ且此等ノ事項ニ關シテハ唯內國臣民ト同一ノ 租税若クハ賦課金ヲ徴收セラルヘシ兩締盟國ノ一方ノ臣民 他ノ一方ノ版圖內ニ在テ內國臣民ト同様ノ特典、 = ヘシ但土地ノ借用及ヒ其他ノ不動産ノ所有又ハ借用ニ關シ カレ又一切ノ强募公債及と軍事上ノ賦斂或ハ損資ヲ免カル ヲ発カレ且其服役ノ代リトシテ取立ル所ノ一切ノ納金ヲ発 モノハ陸軍、海軍、護國軍、民兵等ニ論ナク總テ强迫兵役 兩締盟國ノ一方ノ臣民ニシテ他ノ一方ノ版圖内ニ居住スル 適當且便宜ノ埋葬地ヲ設置保存セラルルコトアルヘシ 習二從ヒ自國人ヲ埋葬スルノ權利ヲ享有スヘシ尚ホ其爲ヲ ハ他ノ一方ノ版圖内ニ於テ良心ニ ノ相續幷ニ各種財産ノ授受ニ關シ兩締盟國ノ一方ノ臣民 居住權各種動産ノ所有遺囑又ハ其他ノ方法ニ因ル所ノ動 アララス 内國臣民一般ニ賦課スル所ノ 規則ニ從テ公私ノ禮拜ヲ行フノ權利丼ニ其宗教上ノ慣 責務及と取立金ハ発除ノ限 關シ完全ナル自由及ヒ法 自由及ヒ

第二條

及と航海ノ自由アルヘシ前條ニ示記セル日ヨリ兩締盟國ノ版圖內ニハ充分ナル通商

ハ各般ノ造營物ノ名義ヲ以テ若クハ其利益ノ爲メニ課スル ヲ以テ自由ニ到ルヲ得、又政府、官吏、一已人、會社若ク 1 該臣民ハ他ノ一方ノ版圖内二於テ外國通商ノ爲ヌ現ニ開カ 有シ賃借シ若クハ占用シ及ヒ土地ヲ賃借スルコトヲ得ヘシ 組合ヲ結ヒ適法ナル各種ノ産物、製造品及ヒ商品ノ卸賣若 自身若クハ代理人ヲ以テ單獨ニ或ハ外國人若クハ内國人ト セス總テ内國臣民ニ課スル所ニ異ナリ若クハ之ヨリ多額 若クハ將來開カルヘキ各地各港及ヒ各河ニ船舶及ヒ貨物 ハ小寶營業ニ從事シ住居及ヒ商業ノ爲メニ家屋倉庫ヲ所 締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖內何ノ處ニ於テモ 七 ノ租税、賦金若クハ涌關稅ハ其性質若クハ名稱ノ ノヲ課セラルルコトナク工業、製造、 テハ内國臣民ト同一ノ待遇ヲ受クヘシ 通商及ヒ ,如何ヲ

三七八 明治ニナ四年ニ月ニナ四日 英國公使ョリ

我修正素ニ付回答ノ件

(私信)

青木外務大臣時代

對英交涉

三七八

拙者カ權力ノ區域内ニ於テ迅速ノ御回答ニ及候案ヲ細密ニ誦讀致候就テハ拙者ハ本問題現今ノ有様ニ對シ所ノ私信ニ係ル覺書及ヒ英政府ノ提出案ニ對スル印刷修正謹啓陳ハ條約改正件ニ關シ閣下カ御親切ニ通知セラレタル

事業ニ ルコト 別ニ顯然タル一種ノ事情アリテ亦タ其考案ヲ要セサルニ似 政府カ考察ヲ費スノ義務ヲ有セサルモノナレハナリ而シテ 中ノ或ル箇條ヲ削除セサルヲ得ス何ナレハ其等ノ箇條ハ英 基礎ノ範圍ヲ出テサラント欲セハ拙者ハ先ツ閣下ノ提出案 若シ拙者ニシテ帝國日本政府カ已ニ承認セラレタル談判 實ニ帝國日本ニ對シ出來得ヘキ丈ケ緩裕及ヒ親切ニ交際 新案ハ永久的舊條約ニ對スル交換物ナレハナリ且夫レ改正 コトヲ要求スルノ權ヲ有スルモノト考察スルナリ何ナレハ カラス而シテ拙者ハ新案ニ對シ幾分カ永久的性質ヲ付スル 模範トセラルル目的ナラハ其條項ハ尙更ラ緩裕ナラサル可 ル如ク今回ノ新案ハ他ノ與國ト締結セラルヘキ僚約ノ濫觴 其約款ハ勿論緩裕ナラサル可カラス曾テ閣下ノ唱道アリ タリ即チ若シ新案ヲシテ兩國ノ承認ヲ得セシメントナラハ 關シテハ業既ニ無用ノ談判ニ許多ノ歳月ヲ徒費シ ヲ思ハサル可カラス又他ノ一面ニ於テハ英政府ハ眞 ス IJ

ノ希望ヲ満足スルコトニ盡力スヘシルノ翼望ヲ有スルコトヲ表彰セルカ故ニ拙者ハ充分ニ閣下

右得貴意候也 敬具 本の同意ヲ表シ難キコト是ナリュトハ迚モ英政府ニ提出シ難シ將又條約ニ於テ貿易規則ヲコトハ迚モ英政府ニ提出シ難シ將又條約ニ於テ貿易規則ヲコトハ迚モ英政府ニ提出シ難シ將又條約ニ於テ貿易規則ヲ諸定書中ノ日本ノ新法典一年間實施云々ノ保證ヲ削除スル

千八百九十二年三月二十四日

ヒウ・フレーザ

青木子閣下

(右原文)

Private and
Very Confidential

H. B. M's Legation, Tokio

March 24th 1891.

Mensisur le Ministre,

I have carefully read the private Memorandum and the Printed Scheme of amendments to the proposals to Her Majesty's Government in regard to Treaty Revision which You Excellency has kindly communicated to me, and I hasten to reply to them so far as it may rest with me, at this stage of the proceedings, to do so.

If I were to limit myself exactly to the basis of negotiation accepted by the Imperial Japanese Government, I might be compelled to set aside some of the proposals in Your Excellency's draft as more than Her Majesty's Government can be thought bound to entertain, and there are other considerations besides of a natural and obvious kind which tend in the same direction. For the new engagements must evidently be reasonable in terms if they are to be accepted at

sincere desire to deal with the Japanese Empire as hand Her Majesty's Government has shown a very in vainingotiation over them already. On the other manent engagements, and long years have been spent since they are to be accepted in exchange for perthat they should have some degree of permanence, liberally and amicably as possible, and therefore treaties in general; and it seems only right to require Excellency has suggested, as a model for the new all, and especially so if they are to serve, as Your cessary to express at once a finally unfavourable consideration a very large proportion of Your it possible to recommend to the Marquis of Salisbury's mated by the same conciliatory spirit of which Her Imperial Government is really in earnest, and animay lay before it. But if I can be assured that the Majesty's Government may take of anything that I will do my utmost to meet Your Excellency's wishes. there remain a few points upon which it seems necellency amendments in principle. Majesty's Government has given ample proof, I think I cannot of course undertake to say what view Her At the same time

judgment.

In the Protocol Her Majesty's Government cannot be asked to dispense with the guarantee afforded by a year's operation of the Japanese Codes; nor in the Convention either to dispense with the signing of Trade Regulations, or to allow three whole Articles (I, V and VI) to be cancelled after six years' service. I take this opportunity to renew to Your Excellency the assurance of my highest consideration.

Hugh Fraser.

His Excellency

Viscount Aoki Shiuzo

H. I. M's Minister for Foreign Affairs

&c. &c. &c.

註 青木子「條約改正記事」三日ク

意えてク然レトモ第六條ノ稅金拂戻ノ項ヲ抹殺セサルコトヲ同門等ヲ察シ其難キヲ忍(難ヲ忍フトハ英國臣民一般)ンテ同門の情ヲ察シ其難キヲ忍(難ヲ忍フトハ英國臣民一般)ンテ同門、一、同意ヲ表シ難キコト是レナリ」ナル文字ノ如キハ之ヲ一ニハ同意ヲ表シ難キコト是レナリ」ナル文字ノ如キハ之ヲ一に、一、「第一條第五條及第六條ノ全文ヲ 権ヲ恐ク お殺スルコト 「第一條第五條及第六條ノ全文ヲ 権ヲ恐ク おみれい 「第一條第五條及第六條ノ全文ヲ はっしい。

リ唯此上ハ改正問

題

ニ闘シ周藏カ抱持セル將來ノ企圖

要求スル旨ラ答へタリ

三七九 明治三古四年六月六日 青木子蔵見書

將來條約改正ニ對スル意見

は
 以下八青木子「條約改正配事」末段論配ナリ
 は
 以下八青木子「條約改正配事」末段論配ナリ
 は
 以
 市成在職中英國ニ對シ其好意ヲ博シテ談判シタル進捗ノ結
 は
 京が
 京が

リナカラ僅カニ前記ノ進捗ニ止マリシハ遺憾ニ堪ヘサル所輓今ノ車情ニ闡繞セラレタルトニ因リー年餘ノ長月日ヲ借望ト威望ヲ具セス且本件ニ關スル最前ノ行懸リ及種々ナル望ト威望ヲ具セス且本件ニ關スル最前ノ行懸リ及種々ナル周藏固ヨリ朝野ノ希望ニ應シ直チニ完備無缺ナル條約ヲ締

學會雜誌第五十二號其他某々新聞誌ノ如キハ現行條約ノ改 キ所以ナリ然リト雖トモ亦一方ヨリ之ヲ觀察スレハ現行條 V ルトキハ天下ノ人情復々騒然トシテ搖動スルモ測リ難シ是 條約ヲ締結スルモノト假想シ痛ク政府ノ意嚮ニ反對スル 正ヲ以テ恰モ二十年以外又ハ永世ニ亘ル一箇ノ不正當ナ 然タリ唯其改正ノ方案ニ至リテハ人々意見ノ投合セ 正スルノ必要ナルコトハ固ヨリ周藏ノ辨明ヲ待タスシ ナリ 當局者ノ大ニ注意熟考ヲ要スル所ニシテ答易ニ决行シ難 アリテ互ニ論諍抗議シ世論紛々歸着スル所ヲ知ラス國家 々現行條約ハ爲政上我帝國ニ不利有害ナル 故二政府ニシテー旦之ヲ改正事業ヲ斷行セント欲 ヲ以テ之ヲ 步 N テ ス モ モ

シメタル結果トシテ我皇國内ニ外國裁判所ヲ設立ス第一 舊政府ハ外國入ヲシテ帝國日本ノ裁判管轄ヨリ脫セ

ノ不利ナル要點ヲ揚ケテ後圖ヲ論セ

底決行セサル可カラサルノ責務ト確信ス故ニ弦ニ現行條約

以テ其改正若クハ適用期限ヲ終了セシムルコト

ハ政府カ到

約八固ヨリ永遠ヲ期シテ之ヲ維持スヘキモノニ非ラサルヲ

スルモノナリニ屬シ其君主若クハ政府ノ名ニ於テ公然法律ヲ執行ニ屬シ其君主若クハ政府ノ名ニ於テ公然法律ヲ執行ルコトヲ准許シタリ而シテ該裁判所ハ十餘國ノ管轄

サルモノナリニ對シ四分强以上ノ稅額ヲ取立ツルコトヲ得セシメ第二 條約附隨ノ稅則、就中其輸入稅則ハ外國產出ノ貨物

第三 外國船舶ハ噸税ノ賦課ヲ発カルル事

第四 外國船舶ハ沿海貿易ノ特權ヲ有スル事

第五 外國人ハ內地稅ヲ冤除セラルル事

第七 歐米各國ト日本トノ條約ハ相互ノ主義ニ基由セサ第六 日本國内ニ於テ外國貨幣ヲ融通セシムル事

ヲ以テ左ノ損害アリ第七 歐米各國ト日本トノ條約ハ相互ノ主義ニ基由セサル

- 餘分ノ課税ヲ蒙ムル増合アリ 日本ノ貨物ハ外國ニ於テ他ノ最惠國ノ貨物ヨリ
- 等ノ權利ヲモ有セサル事 一日本人民ハ歐米各國 墨西哿國 二於テ條約上何

ミナラス特ニ第一ノ箇條ノ如キハ日本ノ主權ヲ毀傷スルノナレハ之カ爲メ我政府ハ啻ニ其財政々略ヲ檢東セラルルノ前顯ノ事項タル總テ日本ノ利益ヲ損害スルヤ明カナリ何ト

青光外務大臣時代

對英交涉

三七九

察スル 互ノ談判二付シテ之ヲ改正スルコトヲ得ルノミ是ヲ以 ナキー種ノ永代通用的性質ヲ有シ單ニ 然ルニ此障碍多キ條款ヲ包含スル現行條約ハ所謂終了期限 ヲ我國際上ノ條約ヨリ削除スルコトヲ希望セスンハアラス 此國ノ君主ト奉戴スル者へ誰何ヲ問ハス斯ル障碍アル條款 シ進歩開明ラ以テ主張トナセル大體/政略上ヨリ 華態ラ觀 ナリ此等ノ事實ヲ按シ且明治元年三月十四日ノ詔勅ニ憑據 必然憲法第三十七條、五十七條及五十八條ト衝突スル シ將又假令文字上二於テ故障ナシトスルモ學理上二於テハ ヲ妨ケ他ノ一面ニ於テハ其構戰ノ權利ヲ檢束スルニ至ル 構戰ノ場合ニハ一面ニ於テ日本ノ中立義務ヲ固守スルコ 最モ甚シキモノナリ國家ノ行政、 スレハ其手段自ラ兩岐ニ分ル可シ 我帝國日本カ現行條約二由テ負擔スル トキハ凡ソ日本ヲ以テ父母ノ本國ト爲シ明治天皇ヲ 立法及司法權ニ干渉シ且 或ル年月ノ後ニハ チ 困 難ヲ脱却セ モノ テ ン

甲 現行條約ヲ改正スル事

乙 現行條約ヲ廢棄スル事

妥當ノ手續ニシテ國威ヲ傷ケス各國ノ情誼ヲ損セス和氣洋改正手段ニ依リテ現行條約ノ困難ヲ脫却スルヘ洵トニ溫和

約ヲ無効ニ歸スル旨ヲ宣言スルノ權利ヲ有スルヤ更ニ疑フ 府へ或ル時日ヲ限リ我ト歐米各國トノ間ニ締結セル 欲セハ須ク強硬且斷乎タル手段ニ據ルヲ要ス之ヲ例セハ 論上ニノミ成立ツコトラ得ルモノナリ今ヤ此理論上ニノミ ナリト雖トモ凡ソ國際條約ニシテ當該國ノ生存ニ害アル 夫レ廢棄ノ方案タル尋常ナル外交ノ規矩外ニ跳越スル 成立ツ所ソ權利ヲ利用シ若クハ實際上ノ權利ト化成セント ヘキニ非ス然レトモ此権利タル或ル他ソ權利ト齊シク唯理 ハ之ヲ廢棄スル ジ下 ハ其權利ノ許ス限ニハ其人民ノ爲メニ該利益ヲ保護 ソ擴張上下入心ノ統一等是レナリ何トナレタ現行 二於テ外國人ノ利益ノ大二發達シタルヲ以テ各外 、モ國際公法ノ認可スル所タルヲ以テ我政 現行條 芒 1

> 段ヲ平和ニ施行スル爲メノ最良擔保ナリ 決シテ示威脅迫若クハ控償返報等ノ結果ヲ招クモノニ非 慶乗二由テ起ル所ソ己ムヲ得サルノ結果ヲ直チニ ヲ實施センニハ充分ナル軍備ヲ增加セサル可ラス即チ此 構戦ノ準備へ即チ平和ヲ維持スルノ最好擔保ナル故ニ廢棄 充分ナル準備ラ為サスシテ廢棄り實ヲ事ケンコトヲ唱道ス ト速了セハ是亦夕智慮アル人ト云フ可カラス之ヲ要スル ト放言セハ必ス智慮アル人ニ非ラス又一人アリ廢棄ノ擧ハ 手段上二於テモ亦タ結合スルコト少カラス今此 政府!利益ニ衝突スルノミナラス十六列國ノ共同利益ヲ排 知書ヲ以テ現行條約ヲ撤回スルニ於 モノハ凡テ安全着質テル思慮ヲ有スル人ニ非ラサルナリ 利益ヲ以テ結合スルノ社會タル事變ニ遭遇スル スルモノナリ是亦容易ニ看過スヘカラサルノ事實タリ ルヲ以テ缺ク可ラサルノ義務ト爲ヤ必 テハ我へ雷三一二外國 セリ將又一片 二一人ア 一構戦ナ ハ防禦ノ ク通 手 = ス IJ IJ

ルノ前ニ於テ深慮遠算セサル可カラサルモノハ此點ニ非ラヲ我豈ニ之ヲ退クルノ勇ナカラスヤ然レトモ廢棄ヲ宣言スレハ假令歐米ノ同盟者カ萬里波濤ヲ破リテ艨艟純貅ヲ送ル西洋各國小我帝國小遙遠相隔絕スル地理上ヨリ之ヲ觀察ス

ヤヲ考量セサル可カラスノ結果ニ由リテ之ヲ廢棄スルト之ヲ比較シテ孰レカ得ナルスヘキヤヲ念ハサル可カラス且又平和秩序的手段卽チ改正スヘキヤヲ念ハサル可カラス且又平和秩序的手段卽チ改正スのキヤヲ念ハサル可カラス

年更ニ五百萬前後ノ歲入ヲ收ムルノ利ヲ得ル能ハス又他ノ 方二於テハ海關稅及噸稅ヲ増加シ從前收入セル金額ノ外每 年月間之ヲ繼續セシメサル可カラス而シテ此數年間ニハー ス キ日トノ間ニハ多分ノ時間ヲ費スヘシ今ャ愼密ニ之ヲ思量 スヘキノミナラス廢棄宣言ノ日ト條約カ實際廢棄ニ歸スへ 必要ナル軍備ヲ完全ナラシメンニハ勿論許多ノ歲月ヲ消費 ルコトハ前段日ニ之ヲ陳述セリ而シテ廢棄通知以前ニ於 若夫レ廢棄手段ヲ斷行セント欲セハ先ツ軍備ノ擴張ヲ要 一方ニ於テハ海陸軍ノ經費ハ大ニ増加セサル可カラス又假 へ廢棄ノ結果トシテ大ナル不幸ヲ來タザストスルモ廢棄 與へ之カ爲メ外國ト 國力ノ凋衰或ハ更ニ不測ノ事故ヲ招致スル [リテ生スル所ノ結果トシテハ大ニ人氣ニ異常ナル感觸 若シ廢棄手段ニ據ルトスレハ現行條約ハ尚ホ多數ノ ノ通商及交際上ニ重大ナル障碍ヲ來 モ知ル可力 テ ス

ラス

以上ノ理由アルヲ以テ若シ驟カニ廢棄手段ヲ實行セント欲以上ノ理由アルヲ以テ書局ヲ結了スルヲ上乘トス然レトモ内故ニ改正手段ヲ以テ事局ヲ結了スルヲ上乘トス然レトモ内政ニ対策ヲ執行スルハ甚タ可ナリ是平素周藏カ把持スル所ノ意計・シテ在職ノ末路ニ際シ改正事件ノ方針ニ關シ内話アリタルヲ以テ殆ント此案ヲ松方總理大臣ニ建議セント考慮シツツアリシカ會々五月十一日湖南ノ變アリ専テ同月二十九ツツアリシカ會々五月十一日湖南ノ變アリ専テ同月二十九カツアリシカ會々五月十一日湖南ノ變アリ専テ同月二十九カツアリシカ會々五月十一日湖南ノ炎アリマップリシカ會を五月十一日湖南ノ炎アリマップリシカ自と五月十一日湖南ノ炎アリマップに対している。

デ之ヲ廢棄スルノ方法ナリ左ニ其要略ヲ揭*ρ*ニ非ラスシテ平和ノ手段ヲ以テ談判ヲ開キ彼レノ肯諾ヲ得變則廢棄トハ現行條約ヲ廢棄スル旨ヲ斷乎トシテ通知スル

平和的廢棄ノ手段要略

- 文書ノ書式及旨意ハ豫メ懇親ナル談判ニ由テ之ヲ取
- 强テ之ヲ結了セシム可カラストノ口實ト爲スヘシ 論未ター定セスト云フ理由ヲ揭ケ之ニ由テ現今ノ談判ハ 制度ト領事裁判ハ共ニ無期限ニ併行スルコト能ハス云々 法制度ト領事裁判ノ兩者ハ相併行スルコト能ハス云×及 張スヘシ而シテ一方ニ於テハ條約改正ニ就テハ日本ノ輿 同様ニ有効ナル文字即チ該覺書付添ノ書翰ニ所謂ル立憲 ノ簡條ヲ以テ現行諸條約ノ終了期限ヲ定ムルノ必要ヲ主 此談判ヲ開クニ方リテ客年二月ノ覺書中ニ宣言セル
- スルコト又廢棄ニシテ効力ヲ有スルニ至ルトキハ我ニ於 ル各國ト相互ニ最惠國待遇ノ權利ヲ享有スルコトヲ盟約 チ平和的廢棄ノ權ヲ執行スルニ於テハ此文書ヲ交換シタ ナルヘシ郎チ日本カ五箇年以後新條約ヲ締結スルニ先々 テハ平和的適法ノ商業、旅行及住居ノ爲メ該各國人ニ對 日本ノ外交文書ニハ左ノ約束ヲ挿入スルコト最モ必要 帝國ノ全部ヲ開放スル事
- 此計畫ヲ實施スルトキハ談判ノ基礎固ヨリー變スト雖 モ別ニ從前ノ談判ヲ中止スルノ虞ナカルヘシ何トナレ

基キ今ョリ之ヲ談判スルノ餘地ヲ得レハナリ ハ將來締結スへキ各條約ハ完全ナル完全ナル對等主義ニ

リ國家經濟ノ本旨ニ基キ開明事業ノ擴張ヲ指示シテ談判 ルヲ以テ今日之ヲ改正スルハ正當且公平ナリト云フニ在 リ改正ノ理由ハ他ニ即チ現行税率ハ業既ニ舊腐ニ屬シタ チニー歩ヲ進メテ現行税率ノ改正ヲ要求スヘシ其際ニ方 セハ各國豈之ヲ拒絕スルノ辭柄アランヤ但シ現行諸條約 機械スル限リハ該新税率モ亦機續スルモノトス 右ノ如キ滿足ナル終了條項ヲ取極メタル後我政府ハ直

達如何ヲ參酌シ確乎タル善後ノ籌策ヲ定メタル上內外 行諸條約ヲ終了シ得ルノ權ヲ我國ニ掌握スルコトヲ計 欲スルモノニ非ス寧ロ或ル年月ノ後ニハ何時ニテモ現 此取極案ハ一定ノ時期ヲ限リ現行諸條約ヲ廢棄セント 局外者ノ干渉ヲ壓制シ不羈獨立質直ニシテ强硬正當ニ 勢ヲ探知シ内ニ於テハ國家經濟ノ現況特ニ農工商ノ發 テ締結スヘキナリ シテ勇毅ナル談判ヲ以テ各國ニ當ラハ完全ナル條約得 ハ五箇年間ヲ期シ外ニ在テハ廣ク所謂萬國經濟上ノ形 ルニ在リ故ニ我政府ニシテ一旦此權ヲ掌握シタルノ後

ヲ期ゝ運籌シタルモノヲ蒐集シテ其要略ヲ筆記シタルモノ 以上ハ周藏カ在職中條約改正ニ關シ實際ニ施行シ或ハ將來

明治二十四年六月十六日東京上貳番町二於テ記之 藏

交 涉

三八〇 明治三三年二月三六日 青木外務大臣宛米國公使ヨリ

日米新條約ノ修正及上院附議問題ニ付邇吿ノ件

外務大臣子 周 チョン・エフ・スウヰフト 藏 閣 下

致候訓令ノ旨ニ從ヒ及御通知候此段得貴意候 リ之ヲ上院ニ附セサルコトニ相成候右本日我政府ヨリ接手 シタル條約ハ種々重要ナル修正ヲ加ヘサル限リハ大統領ヨ 表委員ト日本國皇帝陛下ノ代表委員トカ東京ニ於テ調印致 以書翰啓上致候陳ハー千八百八十九年二月廿日合衆國ノ代

青木外務大臣時代 對米交涉 一千八百九十年二月二十六日

锰

1前掲對英交渉ノ次第ヲ指ス

因二青木子力湖南事件二引責鮮任シタルハ五月二十九日 ナリ

東京合衆國公使館二於

(右原文)

No. 42

Tokio, February 26, 1890. Legation of the United States

His Excellency,

Viscount Shiuzo Aoki,

H. I. J. M's Minister for

Foreign Affairs

Viscount:

hereby, that the President will not send to the Senate vernment this day I have the honour to inform you, In obedience to instructions received from my Go-